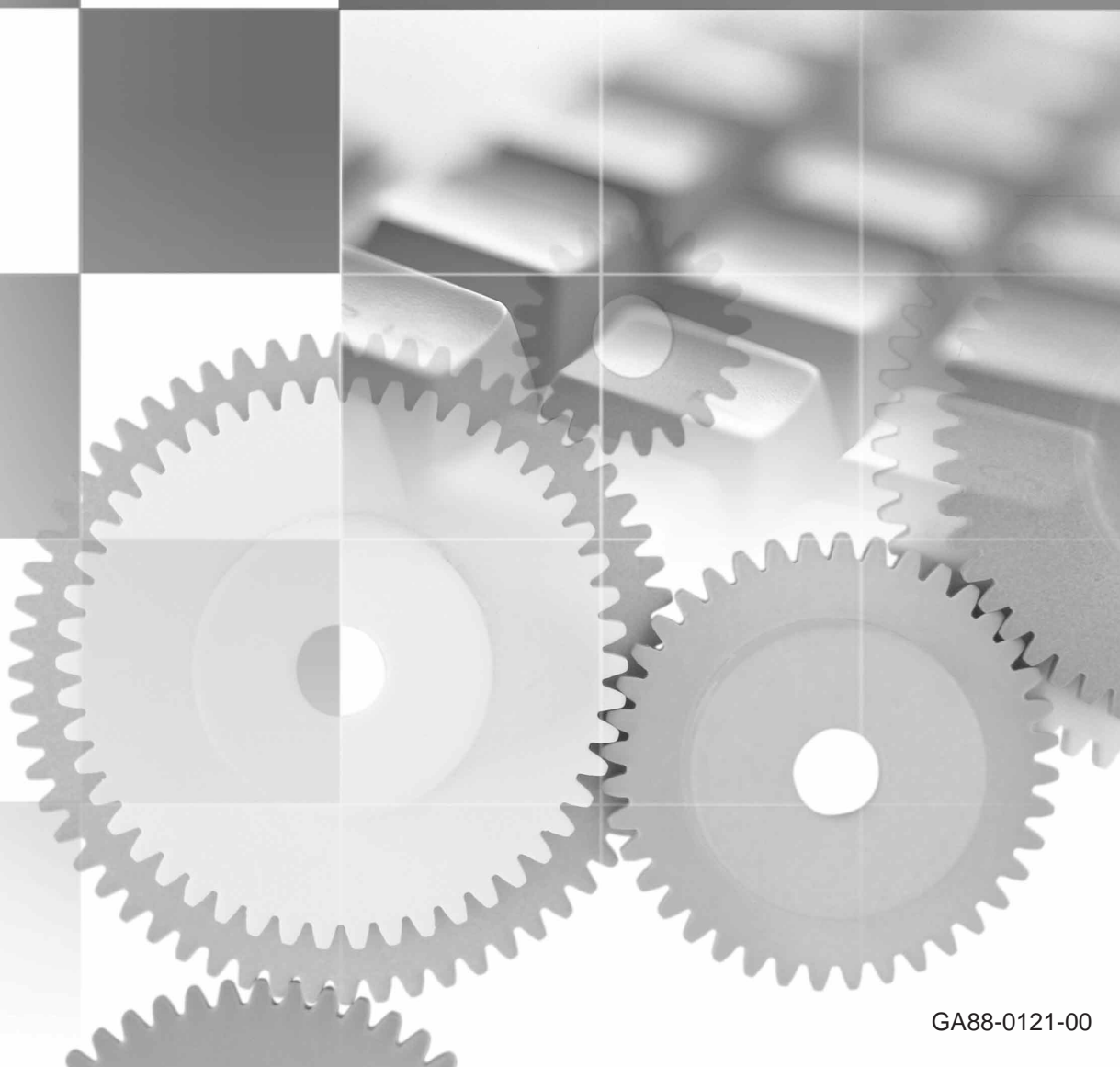


The IBM logo, consisting of the letters 'IBM' in a bold, sans-serif font with horizontal stripes through the letters, is positioned in the top right corner of the page.

はじめよう
Aptiva



IBM PC ハウス・コール訪問サービス

「PCのセットアップを代わりにやってほしい」

「インターネットの接続がうまくいかない」

「付属のCD-ROMをインストールしたいが、ガイドを見てもよくわからない」

このような場合、「IBM PC ハウス・コール訪問サービス」(有料)をご利用ください。

IBM指定のサービス技術員がお客様のご自宅へうかがい、お客様に代わってサポートいたします。

お問い合わせ先 : IBM PC ホーム・アシスタンス・デスク

電話番号 : 0120-50-8690 (フリーダイヤル)

受付時間 : 9:00 - 17:00 (第二日曜日、年末年始を除く)

第1版 1999年2月

資料番号 GA88-0121-00

本書は、製品の改良その他により適宜改訂されます。

本書に関するご意見、ご感想は、下記のホームページで承っております。

<http://www.infocr.co.jp/ifc/survey/>

はじめに

このたびは、IBM® Aptiva® (アプティバ)をお買い上げいただき、ありがとうございます。

本書では、Aptivaをお使いいただくときの基本的な事柄をわかりやすく説明しています。

「セットアップ・ガイド」はお読みになりましたか？ Aptivaをお使いになる前に、ケーブルなどの接続をしてセットアップを完了しておきましょう。

本書の構成は、次のとおりです。

第1章 「まず、基本的なことを覚えよう」

はじめてパソコンをお使いになる方のために、パソコンの基本からAptivaを使うための基礎知識をやさしく説明しています。

第2章 「Aptivaの通信機能を使ってみよう」

IBM FAX サービスからファックス情報を受信したり、インターネットにアクセスする手順を紹介しています。実際にAptivaを使ってぜひチャレンジしてみましょう。

第3章 「Aptiva 活用情報」

プリンターを接続して印刷したり、ハードディスクの内容を出荷時の状態に戻す方法について説明しています。

第4章 「故障かな？と思ったら」

何か問題が起きたときや困ったときに、解決のヒントになるような事例を紹介しています。

付録

キーボードのキーの名前と使い方、およびローマ字とかな対応表を参照するときに、ご利用ください。

目次

第1章 まず、基本的なことを覚えよう

パソコンってなんだろう？	14
パソコンは何に使うの？	14
パソコンとワープロの違いは？	15
NEC PC-98、MacintoshとDOS/Vパソコン（IBM PC）の違いは？	15
ソフトウェアについて知っておこう	16
ハードウェアとソフトウェアについて	16
オペレーティング・システムとアプリケーション・ソフトウェアについて	16
プリインストール・ソフトウェアとは	17
Aptiva はこうなっている	18
Aptiva の電源を入れてみよう	20
電源を入れる順番は？	20
Aptiva を起動しよう	22
Aptiva の操作を終了しよう	24
Aptiva の電源を切るには	24
突然操作できなくなった場合は（リセットのしかた）	26
マウスの使い方を覚えよう	28
マウスを動かしてみよう	28
マウスのボタンを押してみよう	29
マウス・ステックを使ってみよう（スクロールポイント・マウス）	30
キーボードの使い方を覚えよう	31
Aptiva のキーボードはこうなっている	31
ラピッドアクセス・ボタンを使ってみよう	32
キーボードで文字を入力してみよう	34
漢字やひらがなを入力するときの基本は	34
日本語入力モードにするには	34
入力方式について	36
ひらがなを入力するには	36
漢字を入力するには	39

カタカナを入力するには	40
句読点や記号を入力するには	43
かな入力方式に変更するには	45
文字入力の方法がわからないときは	47
声で文字を入力してみよう	49
Voice ATOK をインストールするには	49
音声入力の準備をしよう	50
音声入力をしてみよう	53
Windows98 の画面はこうなっている	54
アプリケーション・ソフトウェアを使うには	56
デスクトップのアイコンから選ぶ	56
[スタート] ボタンから選ぶ	56
「ファイル」と「フォルダー」について	58
ファイルとフォルダーの違いは?	58
自分専用のフォルダーを作ろう	60
作ったファイルを保存しよう	63
ファイルを「コピー」したり「移動」するには	65
異なるドライブの場合	65
同じドライブの場合	66
ファイルのバックアップについて	67
ファイルの保存場所がわからなくなったら	69
ショートカットを作ってみよう	71
ディスクットを使う	73
ディスクットについて	73
ディスクット・ドライブの使い方	74
ディスクットを使うときは	74
CD-ROM をセットする	78
CD-ROM ドライブの使い方	78

第2章 Aptivaの通信機能を使ってみよう

通信機能を使う前に	82
まず、確認しよう	82
インターネットにつないでみよう	85
インターネットって何だろう?	85
インターネットでどんなことができるの?	86
プロバイダーとブラウザについて	88
「はじめよう Aptiva でインターネット」を見てみよう	88
インターネットにつなぐ準備をしよう	90
IBM のプロバイダーにユーザー登録するには	90
電子メール (E-mail) を使えるように設定しよう	96
インターネットに接続するには	103
接続を終了するには	105
インターネットを楽しもう	107
電子メール (E-mail) を送ってみよう	113
ファックス、電話機能を使ってみよう	117
はじめて使うときは	117
ファックスを送信してみよう	123
ファックスを受信してみよう (手動受信)	125
電話をかけてみよう	131
電話を受けてみよう	132
留守番電話を使ってみよう	133

第3章 Aptiva 活用情報

お客様登録（ユーザー登録）をするには	138
プリンターを使うには	142
プリンター・ドライバーをインストールするには	142
ハードディスクの内容を出荷時の状態に戻すには	145
リカバリー CD の使い方	145
システムの設定（BIOS）を初期化するには	147
アプリケーションをインストール / アンインストールするには	148
アプリケーションをインストール（導入）するには	148
アプリケーションをアンインストール（削除）するには	149
修正プログラムを入手するには	150
シリアル・ポートについて	151

第4章 故障かな？と思ったら

章目次（トラブル一覧）	154
重大なトラブルとその対処について	157
トラブルの予防とウィルスについて	158
トラブルを解決するためのヒント	160
「困ったな」「どうしよう」の事例紹介	161
1. 起動時または終了時のトラブル	162
2. ディスプレイ関連のトラブル	164
3. キーボード関連のトラブル	165
4. マウス関連のトラブル	167
5. スピーカー関連のトラブル	168
6. CD-ROM 関連のトラブル	170
7. ディスケット（フロッピーディスク）関連のトラブル	172
8. ハードディスク関連のトラブル	173
9. プリンター関連のトラブル	174
10. 周辺機器 / オプション・カード関連のトラブル	175
11. Windows 98 関連のトラブル	177
12. アプリケーション関連のトラブル	182
13. 通信機能関連のトラブル	184
14. その他のトラブル	195
トラブルが解決しないときは	198
トラブル・チェックシートについて	198
サポート体制について	198

付録

キーボードのキーの名前と使い方	200
ローマ字とかな対応表	208
索引	210

本書でのきまり

マークについて

本書では、説明中に次のマークを使っています。



重要

重要事項を記述しています。



参考

参考事項を記述しています。



補足

補足事項を記述しています。





参照先のページを示しています。


キーやメニューなどの表記方法


本書では、キー、メニュー項目、ウィンドウ名などを次のように表しています。



キーボードのキーは、 で囲んで表記します。

 +  キーと記述している場合、 キーを押したまま  キーを押すことを表しています。

「」(一重かっこ)

メニュー項目、アイコン名、ウィンドウ名、およびツールバーのボタン名などは、「」で囲んで表記します。

[](大かっこ)

ボタン名は、[]で囲んで表記します。



補足

本書で使用している画面やアイコンは、実際のものと多少異なる場合があります。本文中のブラウザの画面の例は、Internet Explorerを使用しています。ブラウザ上のWWWページ、その他のインターネット情報の例は、随時変わる可能性があります。

操作手順の表現方法

操作手順を次のように簡略化して説明しているところがあります。

スタート・メニューから選択する場合

< 本書の表記 >

- ① [スタート] ボタンをクリックし、「プログラム」「アクセサリ」「ワードパッド」の順に選んでクリックします

< 実際の手順 >

- ① 画面左下の [スタート] ボタンをクリックして、スタート・メニューの「プログラム」にマウス・ポインターを置きます
- ② 続いて「アクセサリ」にマウス・ポインターを置き、表示された一覧から「ワードパッド」をクリックします

プルダウン・メニューから選択する場合

< 本書の表記 >

- ① 「ファイル」「名前を付けて保存」の順にクリックします

< 実際の手順 >

- ① メニュー・バーから「ファイル」をクリックします
- ② 「ファイル」プルダウン・メニューから「名前を付けて保存」を選んでクリックします

特記事項

本書において、日本では発表されていないIBM製品（機械およびプログラム）、プログラミングまたはサービスについて言及または説明する場合があります。しかし、このことは、弊社がこのようなIBM製品、プログラミング、またはサービスを、日本で発表する意図があることを必ずしも示すものではありません。本書で、IBMライセンス・プログラムまたは他のIBM製品に言及している部分があっても、このことは当該プログラムまたは製品のみが使用可能であることを意味するものではありません。これらのプログラムまたは製品に代えて、IBMの知的所有権を侵害することのない機能的に同等な他社のプログラム、製品、またはサービスを使用することができます。ただし、IBMによって明示的に指定されたものを除き、これらのプログラムまたは製品に関連する稼働の評価および検査はお客様の責任で行っていただきます。

IBMおよび他社は、本書で説明する主題に関する特許権（特許出願を含む）、商標権、または著作権を所有している場合があります。本書は、これらの特許権、商標権、および著作権について、本書で明示されている場合を除き、実施権、使用権等を許諾することを意味するものではありません。実施権、使用権等の許諾については、下記の宛先に、書面にてご照会ください。

〒 106-0032
東京都港区六本木 3 丁目 2-31
AP 事業所
IBM World Trade Asia Corporation
Intellectual Property Law & Licensing

商標

IBM、Aptiva、RapidAccess、ScrollPoint、ViaVoice は、IBM Corporation の米国、その他の国における商標です。

"Microsoft""Windows"および"Windows"ロゴはMicrosoft Corporationの登録商標です。

"Pentium" は Intel Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標または登録商標です。

第1章

まず、基本的なことを覚えよう



パソコンってなんだろう？

「パーソナル・コンピューター」、略してパソコン。つまり個人用のコンピューターのことです。会社では、自分の机の上において仕事の能率アップをはかったり、家庭では、ゲームやインターネットを楽しんだり、家族の情報を管理することもできます。このように、わたしたちの生活を豊かにするために使うとても便利な電気製品、それがパソコンなのです。

パソコンは何に使うの？

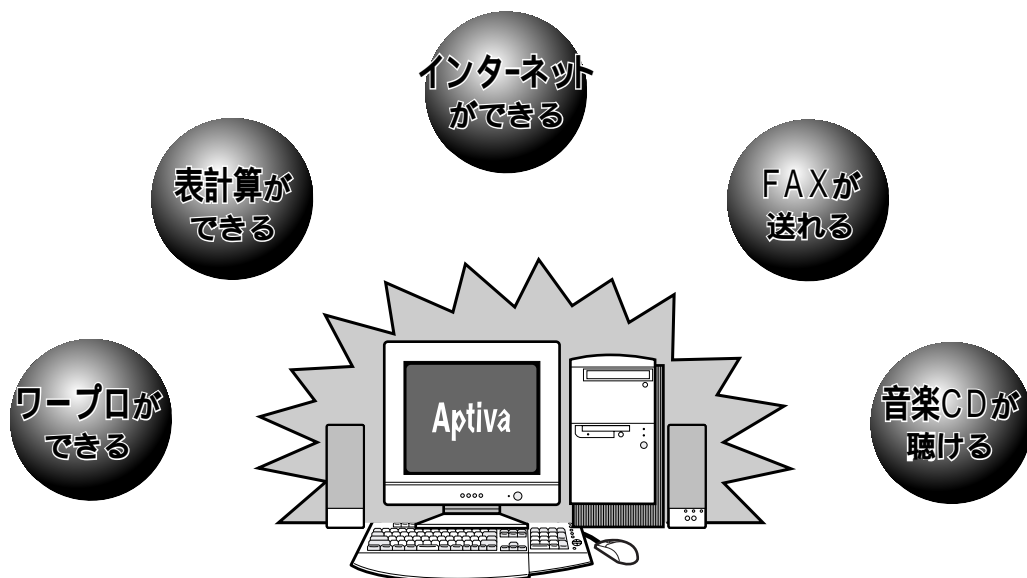
パソコンは、電気製品とは言っても電話や炊飯器といった用途の決まったものとは違い、さまざまな目的のために利用できる「魔法の箱」です。たとえば、インターネットを楽しんだり、家計簿をつけたり、ゲームで遊んだり…。そしてパソコンは、ワープロ、電話、ファックス、テレビ、ステレオなどいろいろな家庭の電気製品にも早変わりします。

かつてのパソコンは…

かつてのパソコンは、「ソフトがなければ、タダの箱」と言われました。市販のソフトウェアを買ってきて、パソコンにインストール（導入）しなければ使えなかったのです。

いま Aptiva なら…

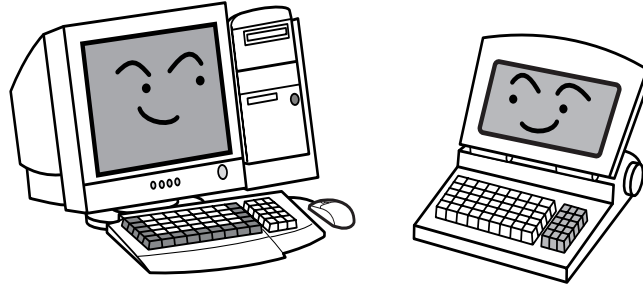
Aptiva には、Windows®（ウィンドウズ）98をはじめ、いろいろなソフトウェアがはじめからインストールされています。



パソコンとワープロの違いは？

Aptivaを買う前に「パソコンとワープロは似ているけど、どこが違うのだろう？」と悩んだことはありませんでしたか？ キーボードが付いて、ディスプレイがあって・・・外観で見分けることはちょっと難しそうですね。

では、中身はどうでしょう。



パソコンとワープロの違いをひとことでいってしまえば、ワープロ専用かそれ以外(いろいろな用途に使える)かということにあります。ワープロは文章の作成や印刷を行うために作られたもので、キーボードも専用のものが使われたり、作成した文書の保存形式も機種ごとに独自のものを使ったりしています。

一方、パソコンはもともといろいろな使い方ができるように考えられていて、作成した文書も標準のファイル形式になっているため、機種の異なるパソコンでも同じデータを扱うことができます。

パソコンにはワープロ以上に、いろいろな可能性があるのです。

NEC PC-98、Macintosh と DOS/V パソコン (IBM PC) の違いは？

現在売られているパソコンは、大きく分けると NEC PC-98 (エヌイーシー ピーシー キューハチ) DOS/V (ドスブイ) Macintosh (マッキントッシュ) があります。これら3つの機種は外見など似ているところもありますが、内部は異なるところが多く、一部のものを除きソフトウェアやプリンターなどの周辺機器を共有することができません。Aptiva は DOS/V パソコンなので、DOS/V パソコン用の周辺機器が利用できます。

ソフトウェアについて知っておこう

ハードウェアとソフトウェアについて

「ハードウェア」は、もともと「金物(かなもの)」という意味があり、見たり触れたりすることのできるパソコンの機械そのものです。ディスプレイやキーボードは「ハードウェア」です。

パソコンを使って仕事やゲームをするためには、これらのハードウェアだけではなく、パソコンを動かすための「ソフトウェア」が必要です。

「ソフトウェア」には、パソコンを動かすための手順が書かれています。

「ソフトウェア」は、パソコンの内部に記憶されています。

パソコンの電源を入れるとソフトウェアが読み出され、パソコンが使えるようになります。



オペレーティング・システムとアプリケーション・ソフトウェアについて

パソコンのソフトウェアには、オペレーティング・システム(OS)とアプリケーション・ソフトウェア(アプリケーション、アプリケーション・ソフト、またはソフトウェアとも呼ばれます)があります。

オペレーティング・システムとは

オペレーティング・システム(OS)はアプリケーションとハードウェアの間であって、データ(情報)の読み書きを行ったり、ハードウェアを効率的に使ったりする役目をもっています。OSはパソコンの基本的な機能を提供しているのです。AptivaにはOSとして「Windows 98」が入っています。

アプリケーション・ソフトウェアとは

一方、アプリケーションはOSの上で動いています。



アプリケーションはワープロや表計算などの特定の目的に応じて作られていて、通常パソコンで作業をする人は、アプリケーションを主に見ていることになります。Microsoft® Excel97、Word98などはアプリケーションです。アプリケーションを買うときは必ず「Windows 98用」のものを選びましょう。

プリインストール・ソフトウェアとは

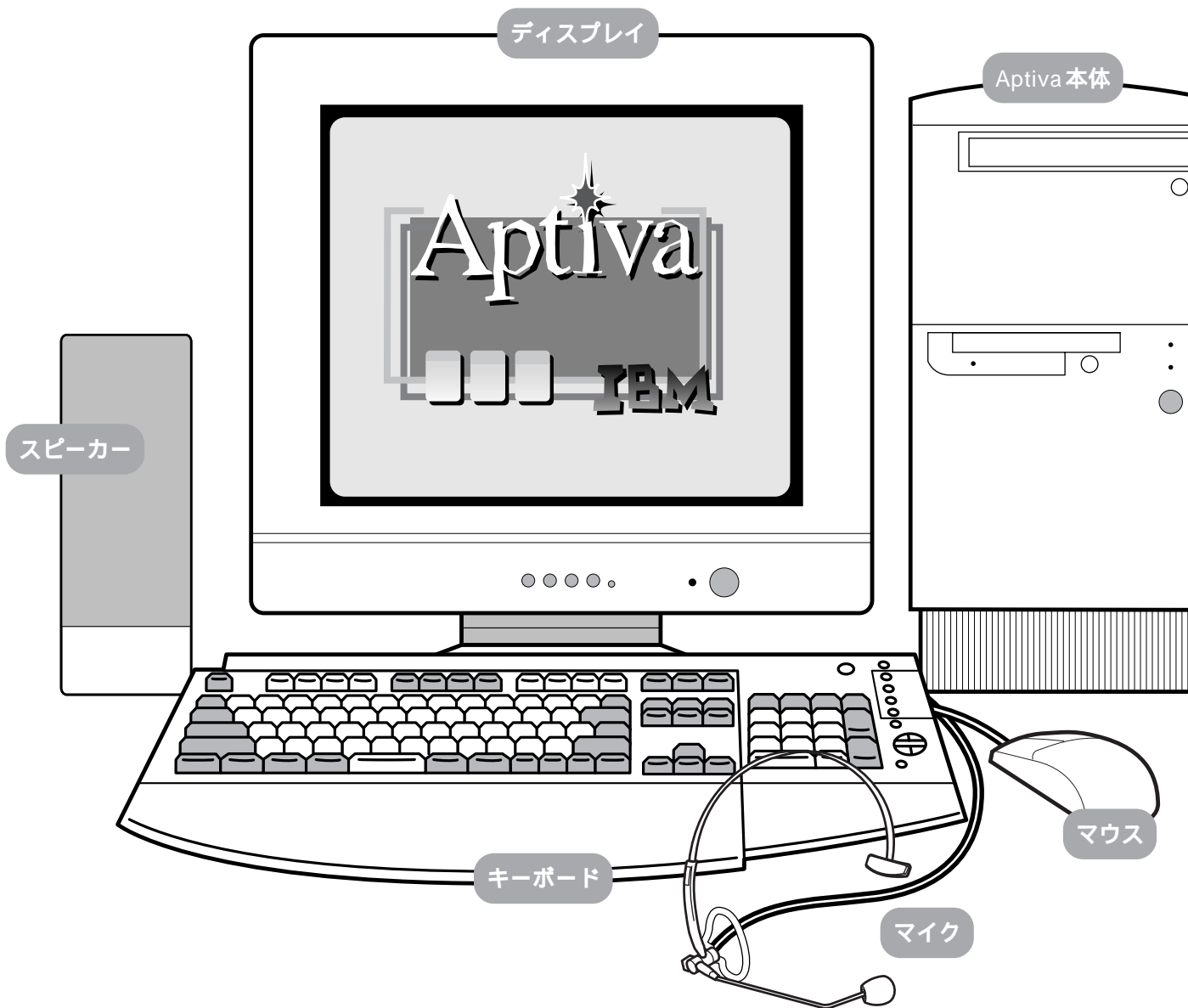
パソコンのソフトウェアは通常、パソコン・ショップなどで購入します。ソフトウェアを買ってきたら、箱の中に入っているディスク(フロッピーディスク)やCD-ROMを使って、まず「インストール(導入)」という作業を行わないと、使えるようになりません。インストール作業では、ソフトウェアをハードディスクに記憶させたり、そのソフトウェアをできるようにいろいろな設定を行います。

Aptivaにはお店で売られているものと同じソフトウェアが、最初からいくつかインストールされています。これらを「プリインストール・ソフトウェア」と呼んでいます。めんどろな作業を行わなくても、Aptivaを買ったその日からいろいろなソフトウェアが使えるようになっているのです。

Aptiva はこうなっている

Aptiva 本体

Aptiva 本体は、CPU（中央演算処理装置）、メモリー、ハードディスク、ディスケット・ドライブ、CD-ROM ドライブ、電源、その他の部品で構成されています。



CPU

Central Processing Unitの略で、コンピューターの頭脳にあたります。複雑な計算や装置の制御など、コンピューターのほとんどの仕事はCPUが行っています。CPUには動作クロック(例えば Pentium® 200MHz など、CPUの名前の後ろについている数字)というものがあり、一般に動作クロックが速いものの方が計算速度も速く行われます。

メモリー

CPUが一時的に使う記憶装置です。メモリーの容量(単位はMB:メガバイト)を増やせば一般にCPUがより多くの仕事を速くできるようになります。

ハードディスク

ソフトウェアやデータの記憶装置です。OSやアプリケーションはハードディスクから読み込まれます。

ディスケット・ドライブ

ディスケット(フロッピーディスク)にデータを保存します。そのデータを読み出すときは、ディスケット・ドライブにディスケット(フロッピーディスク)を入れます。



ディスケットやCD-ROMなどのディスクをセットし、保存されているプログラムやファイルを読み書きする装置を「ドライブ」と呼びます。

ハードディスクは、ディスクとドライブが一体化したものです。

ディスプレイ

Aptivaの画面が表示されます。明るさや画面の表示位置を調節したいときは、ディスプレイに付属のマニュアルをお読みください。

キーボード

Aptivaに文字を入力します。ひらがなや英文字が書かれたキーを押せば、その文字がAptivaに入力されます。

マウス

Windows 98では、文字の入力以外の入力、ほとんどこのマウスで操作します。画面に表示されるアイコンやボタンを自由に操作することができます。

スピーカー

Aptivaで演奏される音楽や効果音が出ます。音楽CDを再生するときもここから音楽が出ます。スピーカーのつまみで音量と音質が調節できます。(モデルによってスピーカーの形は異なります。つまみのないスピーカーでは、キーボードのボリューム・ボタンで音量を調節することができます。)

マイク

Aptivaに音を取り込みます。

Aptiva の電源を入れてみよう

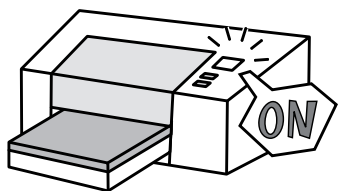
それではさっそく Aptiva の電源を入れてみましょう。
Aptiva の電源スイッチは、本体とディスプレイ、スピーカーのそれぞれに付いています。

電源を入れる順番は？

ディスプレイ、本体、スピーカーの順に電源を入れましょう。

① 周辺機器の電源を入れます

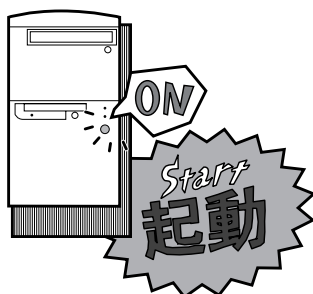
プリンターなどの周辺機器を Aptiva につなげているときは、Aptiva 本体の電源スイッチを入れる前に周辺機器の電源を入れておきます。



② ディスプレイの電源を入れます

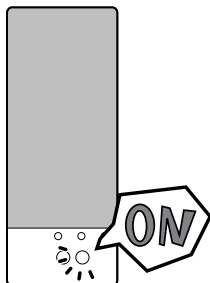


③ Aptiva 本体の電源を入れます



4 スピーカーの電源を入れます

モデル 2158 に付属のスピーカーには、電源スイッチはありません。



はじめて電源を入れたときは

Aptivaを購入してはじめて電源を入れたときは、Windows 98のセットアップ画面が表示されます。

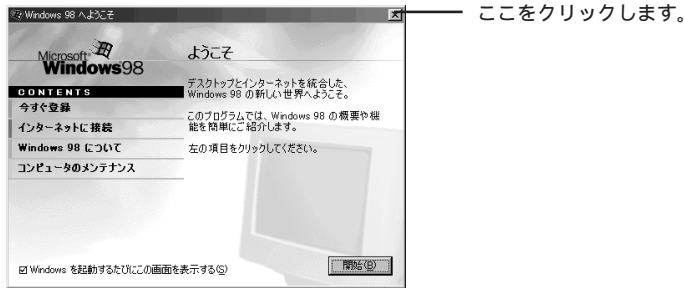


Windows 98のセットアップの方法については、付属の「セットアップ・ガイド」をお読みください。

Aptiva を起動しよう

Aptivaの電源を入れて、Windows 98 を使える状態にすることを「起動する」といいます。

- ① ディスプレイ、本体、スピーカーの電源スイッチを入れます
- ② 「Windows 98へようこそ」のウィンドウの右上にある [×] (閉じる) をマウスの左ボタンでクリックします
マウスの使い方がわからない場合は、P.28「マウスの使い方を覚えよう」をお読みください。



Windows 98 のデスクトップが表示されます。デスクトップとは、Windows 98 を起動したときに画面全体に表示される領域のことをいいます。いわば、Windows 98 の仕事場です。

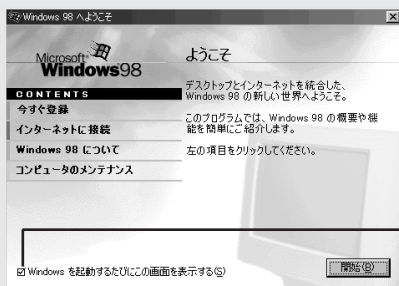
Windows 98 の画面については、P.54 をお読みください。



デスクトップ上に並んでいる小さな絵のことを「アイコン」と呼んでいます。アイコンは、ハードウェアや機能、命令などを絵で表わしています。



「Windows 98 へようこそ」のウィンドウで、「Windows を起動するたびにこの画面を表示する」のチェックマークを外すと、次回からこのウィンドウは表示されません。



このチェックマークを外すときは、ここをマウスの左ボタンでクリックします。

Aptiva の操作を終了しよう

Aptivaを使い終わったら、パソコンの電源を切るための作業が必要です。いきなり電源スイッチを押さないようにしましょう。

Aptiva の電源を切るには

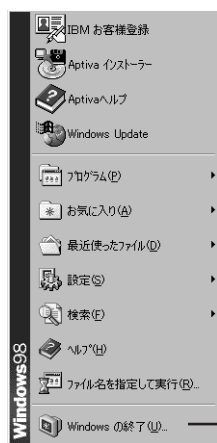
Aptiva の電源を切るときは、いきなり電源スイッチを押さずに、まず Windows 98 を終了させます。Windows 98 が終了すると、Aptiva の電源も一緒に切れます。Windows 98 を終了するには、Windows 98 のスタート・メニューの「Windows の終了」を使います。

- 1 画面左下の [スタート] ボタンをマウスの左ボタンでクリックします



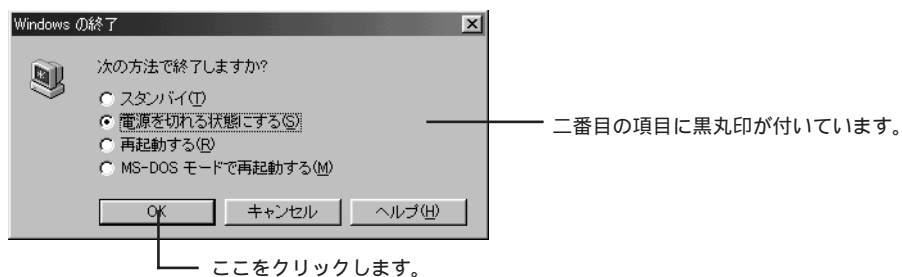
ここをクリックします。

- 2 スタートメニューから「Windows の終了」を選び、マウスの左ボタンでクリックします



ここをクリックします。

- ③ 次の画面が表示されるので、[OK] をマウスの左ボタンでクリックします
Windows が終了して Aptiva 本体の電源が自動的に切れます。



- ④ ディスプレイとスピーカーの電源を切ります
プリンターなどの周辺機器を接続しているときは、その電源も切りましょう。

突然操作できなくなった場合は（リセットのしかた）

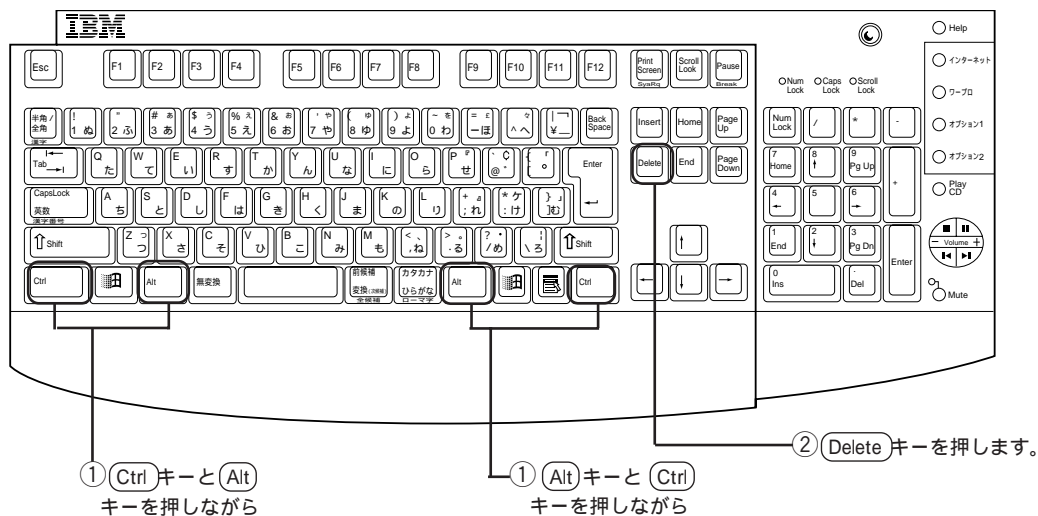
Aptivaを使っていると、数分待っても状態が変わらず、突然止まったように何も反応しなくなってしまうことがあります。こうなるとキーボードを押しても画面に文字が出ないし、マウスを動かしても画面のマウス・ポインターは動きません。この状態を「フリーズする」「固まる」「ハングする」と言ったりします。こんなときはAptivaをリセット（再起動）してみてください。

Aptiva をリセットするには

Ctrl キーと **Alt** キーを押しながら、**Delete** キーを押します。同時にキーから指を離すとリセットされます。

「プログラムの強制終了」の画面が表示された場合は、画面の指示に従ってリセットしてください。

Ctrl キーと **Alt** キーはそれぞれ左右にあります。どちらを使用しても同じ働きをします。

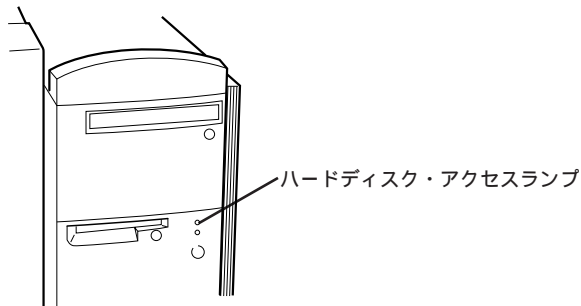


リセットが行われると、Aptivaは電源を入れたときと同じように起動します。

Aptivaが完全に止まった状態ではないときにリセットを行うと、画面にメッセージが表示されます。よく読んで指示に従ってください。

キー操作でリセットできないときは

キー操作でリセットできないときは、電源スイッチを切ってから、20秒程待って再び電源を入れます。この場合、本体のハードディスク・アクセスランプが点いていないことを必ず確認してから行ってください。アクセスランプが点いているときはハードディスクが動いているので、そのときに電源を切るとハードディスクが壊れてしまう場合があるからです。電源スイッチでリセットするというのは、あくまでも最後の手段としてください。



電源スイッチを押してもすぐに電源が切れない場合は、4秒以上電源スイッチを押し続けてみてください。



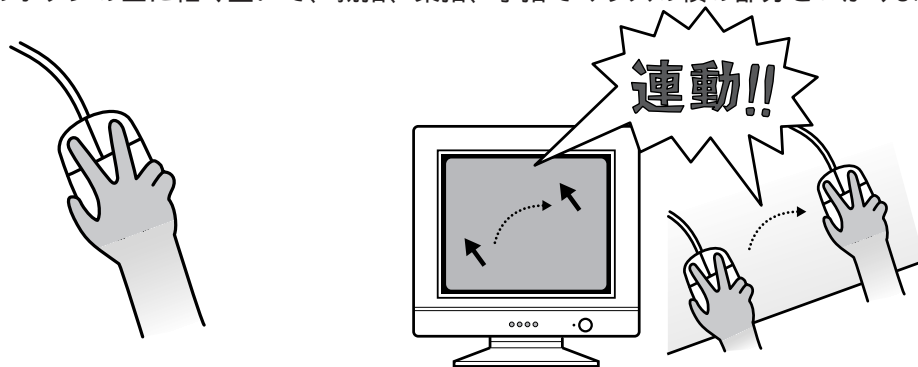
電源スイッチもきかない場合は、コンセントから Aptiva の電源ケーブルを抜いてください。

マウスの使い方を覚えよう

Aptivaを使うとき、いまやマウスは必須アイテムです。
マウスを使ったことのない方は、ここでマウスの使い方を覚えましょう。
マウスは英語で「ねずみ」を表します。形が似ているのでこう呼ばれるようになったようです。

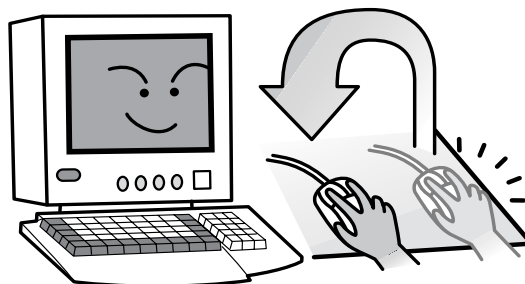
マウスを動かしてみよう

マウスはシッポの付いている方を奥にして使います。持ち方は、人差し指と中指をそれぞれのボタンの上に軽く置いて、親指、薬指、小指でマウスの横の部分をつかみます。



マウスを机に置いたまま動かすと、その動きに合わせて画面上の矢印が移動します。
画面に表示されている矢印を「マウス・ポインター」(マウス・カーソルともいう)と呼びます。

マウスを動かすと、マウス・ポインターはマウスを動かしたのと同じ方向に動きます。
マウスを速く動かすとマウス・ポインターも速く動きます。
マウスを動かし続けると場所がなくなってしまうますが、机の端まで動かしたときは、いったんマウスを持ち上げて元の場所へ戻し、また動かせばいいのです。



マウスのボタンを押してみよう

マウス・ポインターを画面上のアイコンやボタンの上に移動させてマウスのボタンを押すと、いろいろな機能を実行できます。

クリックする

「クリックする」というときは、通常はマウスの左ボタンを人差し指で1回だけ「カチッ」と押してすぐに離します。メニューの表示や、項目を選ぶときにこの操作をします。



左利きの方は、マウスを左手で持つと人差し指を右側のボタンの上に置くことになります。マウスの設定で左右のボタンの役割を入れ替えば、右利きの人と同じように左手でマウスを使うことができます。

1. デSKTOPの「マイ コンピュータ」アイコンをダブルクリック(次ページ参照)します。
2. 「コントロール パネル」アイコンをダブルクリックします。
3. 「マウス」アイコンをダブルクリックします。
4. 「ボタン」タブの中のボタンの設定で「左きき用」をクリックします。

右ボタンでクリックする

マウスの右ボタンを中指で1回だけ「カチッ」と押してすぐに離します。

Windows 98 ではショートカット・メニューと呼ばれるメニューを表示するときにこの操作をします。

「右クリック」ともいいます。



ダブルクリックする

マウスの左ボタンを「カチカチッ」とすばやく2回連続して押して離します。使いたいソフトウェアを起動するときや、選んだ項目を実行するときはこの操作をします。

ボタンを押す間隔が開いてしまうと、ダブルクリックではなくクリックを2回したとみなされてしまうので、すばやく押すようにしましょう。もし、ダブルクリックがうまくいかないときは、あわてずに何度か続けて「カチカチッ」と押してみてください。



参考



- ダブルクリックの速度を変えることができます。
ダブルクリックがしやすいように速度（ボタンを押す間隔）を設定しましょう。
1. デSKTOPの「マイ コンピュータ」アイコンをダブルクリックします。
 2. 「コントロール パネル」アイコンをダブルクリックします。
 3. 「マウス」アイコンをダブルクリックします。
 4. 「ボタン」タブの中の「ダブルクリックの速度」でつまみを左右にドラッグして速度を設定します。

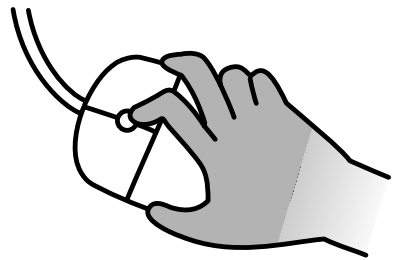
ドラッグ&ドロップする

マウスの左ボタンを押したまま、マウスを動かします。どちらのボタンを使うかはアプリケーションや機能によって異なりますが、右、左の指定が特になくは、左ボタンを押したままマウスを動かします。ウィンドウやアイコンを目的の場所まで移動したら、ボタンを離します。



マウス・スティックを使ってみよう

Aptivaには、モデルによって「スクロールポイント・マウス」が付属しています。スクロールポイント・マウスの中央には、「マウス・スティック」と呼ばれるスティックが付いています。マウス・スティックを使って画面のスクロールが簡単にできます。通常はマウスポインターで画面の右端または下部のスクロール・ボタンを動かして画面をスクロールしますが、マウス・スティックを使えばスクロール・ボタンを操作しなくても簡単に画面をスクロールすることができます。画面をスクロールしたい方向（上下、左右）に、人差し指でスティックをゆっくり押します。

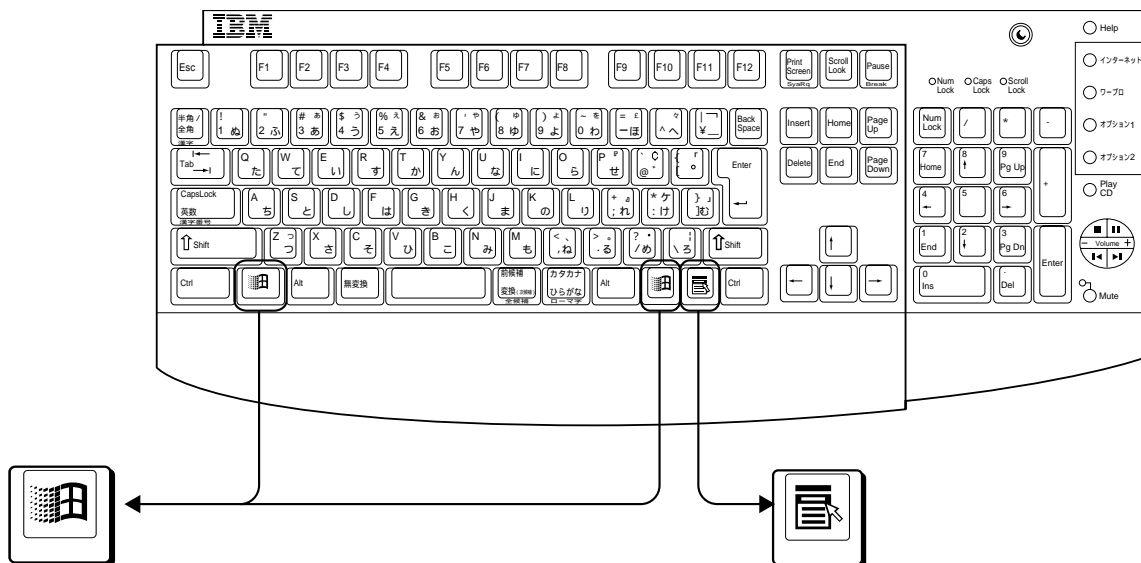


キーボードの使い方を覚えよう

Aptivaのキーボードはこうなっている

Aptivaには、Windows 98 対応日本語キーボードが付いています。キーの数は109個です。これは通常の106日本語キーボード（キーの数が106個）に、Windows 98の操作で使う「Windowsキー」2個と「アプリケーション・キー」1個を追加したものです。

各キーの呼び方や主な役割については、付録の「キーボードのキーの名前と使い方」をご覧ください。



Windowsキー

スタート・メニューを表示します。
タスクバーの[スタート]ボタンをマウスでクリックするのと同じ役目を果たします。

アプリケーション・キー

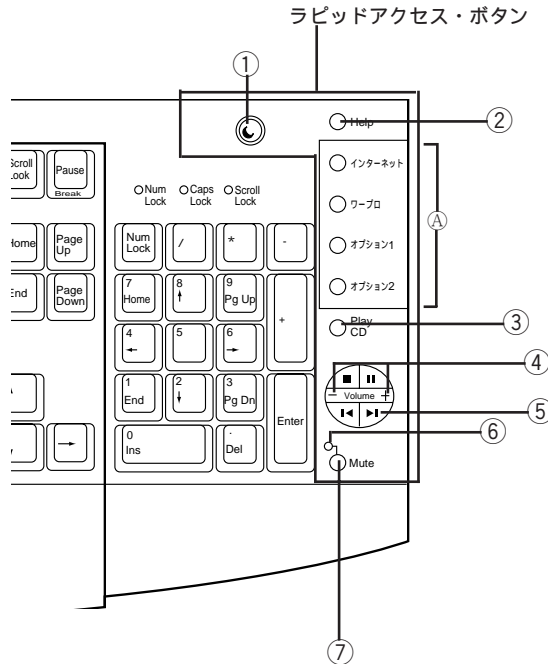
選択しているファイルやフォルダーのポップ・アップ・メニューを表示します。マウスの右ボタンをクリックするのと同じ役目を果たします。

市販のアプリケーションをインストールするときは

アプリケーションをインストールするときにキーボードの種類を選択しなければならないことがあります。キー選択の一覧表に「109日本語キーボード」がない場合は、「106日本語キーボード」を選んでください。

ラピッドアクセス・ボタンを使ってみよう

Aptiva のキーボードには、便利な「ラピッドアクセス・ボタン」が付いています。ラピッドアクセス・ボタンは、ボタンを押すことによってアプリケーション・プログラムやファイルを直接開くことができる、いわゆるキーボード上のショートカット・ボタンです。



- Ⓐ ラピッドアクセス・ボタンの中には、インストールされているアプリケーション・プログラムやファイルを登録することができるボタンが4つあります。すでに標準で設定されているアプリケーションは次のようになっています。

インターネット・・・Internet Explorer
ワープロ・・・・・・・・ワードパッド
オプション1・・・・(未設定)
オプション2・・・・(未設定)

登録を変更したい場合は、[スタート]ボタンをクリックし、「プログラム」 「Aptiva Ware」 「Aptiva ラピッドアクセス・ボタン」の順に選んでクリックします。画面の説明に従ってプログラムやファイルを登録してください。

① スタンバイ・ボタン

このボタンを押すと、ディスプレイとハードディスクが電力を節約するために停止し、スタンバイ状態（省電力モード）になります。電源ボタンを押すと、スタンバイ状態になる前の状態に戻ります。

② ヘルプ・ボタン

このボタンを押すと、「Aptiva ヘルプ」が起動します。

③ CD ボタン

このボタンを押すと、音楽CDやビデオCDの再生が始まります。CDの操作は⑤の操作ボタンを使用します。

④ ボリューム・ボタン

ボタンを押して音量を調節します。-の方を押すと音が小さくなり、+の方を押すと、音が大きくなります。

⑤ 操作ボタン

このボタンを押すと、音楽CDやメッセージの再生、巻き戻し、先送りなどの操作ができます。

停止

ポーズ

◀ 一つ前の曲に戻る

▶ 次の曲へ飛ぶ

⑥ ミュート・ランプ

ミュート（消音）状態のとき、このランプが点滅します。

⑦ ミュート・ボタン

このボタンを押すと、ミュート（消音）機能が働きます。一時的に音を消したい場合に便利です。

キーボードで文字を入力してみよう

Aptivaのキーボードを使って、ひらがなや漢字、カタカナを入力してみましょう。

Aptivaでは、「MS-IME 98」という日本語入力システムを使っています。

日本語入力システムはキーボードから入力された文字を、ひらがなやカタカナ、漢字に変換するためのプログラムです。

ここではWindows 98に付属のアプリケーション「ワードパッド」を使って、文字を入力してみましょう。

漢字やひらがなを入力するときの基本は

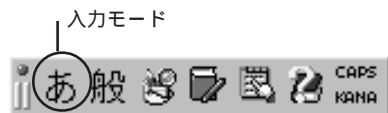
漢字やひらがな、カタカナを入力するときは、次の操作を行います。

1. 日本語入力モードにする
2. 読みを入力する
3. 変換キーを押す
4. 文字を確定する

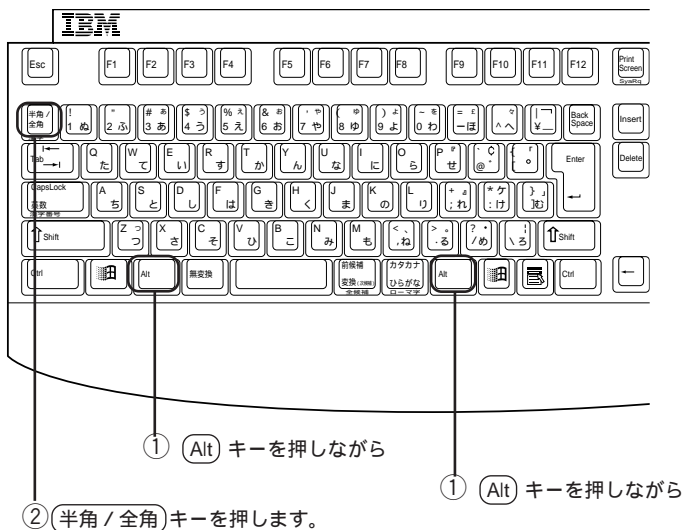
日本語入力モードにするには

Aptivaで、ワープロなど日本語を入力する必要があるアプリケーションを使っているときに、画面の右下に表示されるのが「MS-IME 98」のツールバーです。ツールバーの一番左のボックスに、入力モードが表示されます。

通常は、次のように「あ」が表示されていて、日本語入力システムがオン（日本語入力モード）になっています。

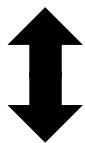
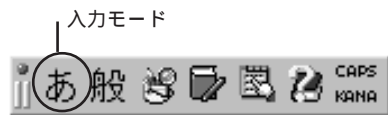


表示されていない場合は **Alt** キーを押しながら **半角/全角** キーを押してください。
Alt キーは、左右どちらのキーを使用してもかまいません。



日本語入力モードを切り替えるには

Alt キーを押しながら **半角/全角** キーを押すと、日本語入力システムのオン/オフをいつでも切り替えることができます。



このように表示されているときは、日本語入力システムを使わずに、キーボードから入力した文字がそのまま画面に表示されます。これを「直接入力モード」といいます。

入力方式について

日本語の入力方式には「ローマ字入力」と「かな入力」の2つの方式があります。MS-IME 98 では、通常ローマ字で読みを入力する「ローマ字入力方式」になっています。

ローマ字入力：(Y) (A) (M) (A) (T) (O)

かな入力：(や) (ま) (と)

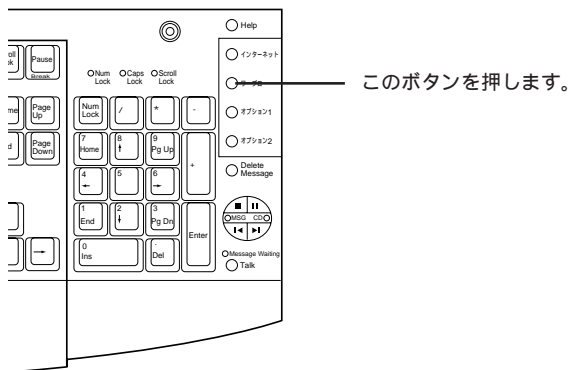
「かな入力方式」で入力する場合は、設定を変更します。
詳しくは45ページをお読みください。

ひらがなを入力するには

ここでは、Windows 98の「ワードパッド」という簡易ワープロソフトを使って、文字を入力してみましょう。

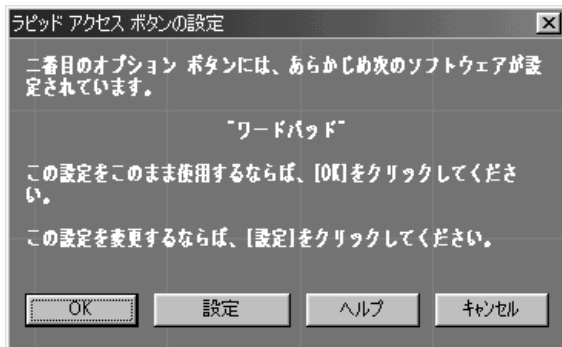
まず、ひらがなで「にほんご」とキーボードから入力してみましょう。

- ① キーボードの右側にあるラピッドアクセス・ボタンの「ワープロ」を押します
「ワードパッド」が起動します。



② [OK] をクリックします

初めてラピッドアクセス・ボタンを押したときには、次の画面が表示されます。そのまま [OK] をクリックしてください。



③ [Alt] キーを押しながら [半角/全角] キーを押します

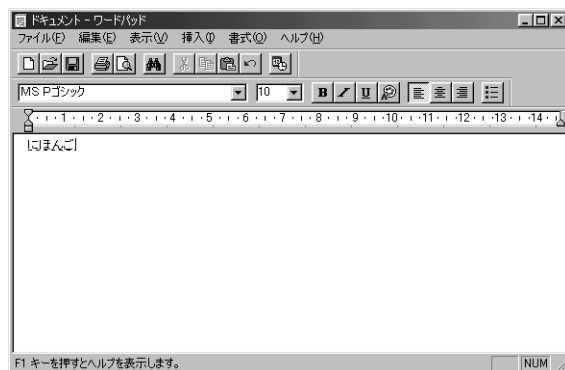
MS-IME 98 のツールバーが日本語入力モードになっていることを確認してください。



一番左のボックスが「あ」になっていれば、日本語入力モードになっています。

④ [N][I][H][O][N][G][O] の順にキーを押します

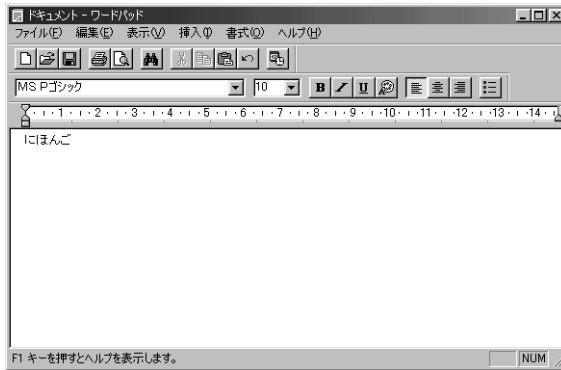
MS-IME 98 では、通常ローマ字で読みを入力する「ローマ字入力方式」になっています。



「かな入力方式」で入力する場合は、45 ページをお読みください。

⑤ **Enter** キーを押して、文字を確定します

ひらがなを入力したい場合は、漢字に変換する必要がないのでそのまま確定します。



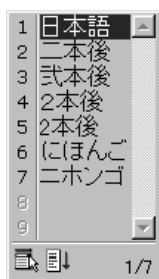
漢字を入力するには

こんどは、漢字で「日本語」と入力してみましょう。

① **N I H O N G O O** の順にキーを押します

② **変換** キーを押します

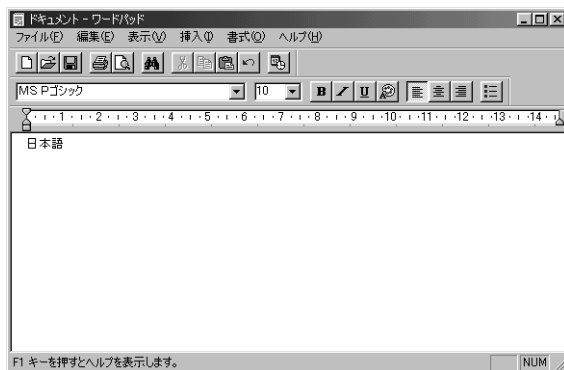
1回で正しく変換されないときは、**変換** キーを何度か押してみてください。



変換候補が表示されます。選び方は、

1. 選んだ漢字の番号のキーを押す。
2. または、カーソル移動キー（**↑** **↓**）で選んでから**Enter** キーを押す。
3. または、マウスで選んでクリックする。

③ **Enter** キーを押して、文字を確定します



カタカナを入力するには

カタカナの入力方法には次の方法があります。

変換候補の中から選ぶ

- ① **N** **I** **H** **O** **N** **G** **O** の順にキーを押します
- ② **変換** キーを数回押します
変換候補が表示されます。
- ③ 変換候補の中からカタカナを選びます
選び方は、
 1. 選んだカタカナの番号のキーを押す。
 2. または、カーソル移動キー (**←** **→**) で選んでから **Enter** キーを押す。
 3. または、マウスで選んでクリックする。
- ④ **Enter** キーを押して、文字を確定します

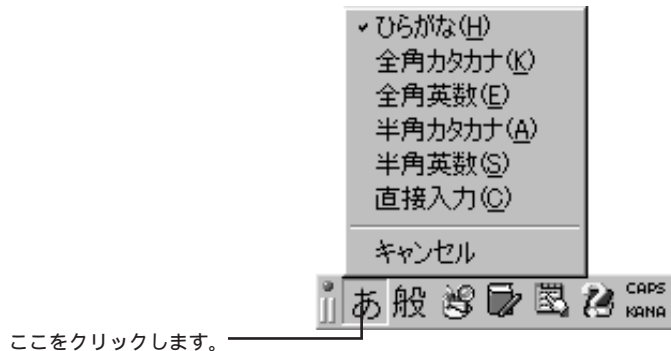
機能キーを使う

- ① **N** **I** **H** **O** **N** **G** **O** の順にキーを押します
- ② **F7** キーまたは **F8** キーを押します
F7 キーを押すと全角カタカナになり、**F8** キーを押すと半角カタカナに変換されます。
- ③ **Enter** キーを押して、文字を確定します

入力モードを切り替える

マウスで切り替える

- 1 MS-IME 98 のツールバーの「あ」をクリックします



- 2 「全角カタカナ」をクリックします

ツールバーの一番左のボックスが「カ」になります。



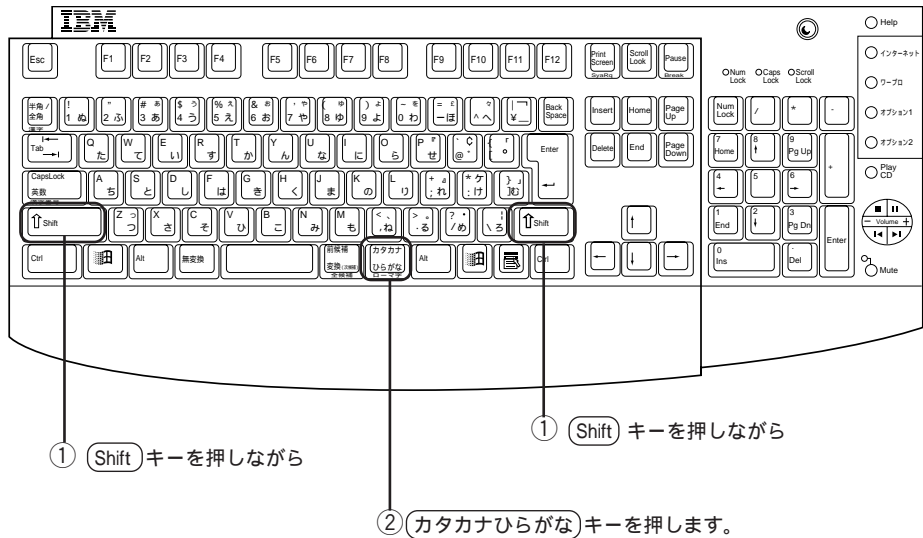
- 3 [N] [I] [H] [O] [N] [G] [O] の順にキーを押します

- 4 [Enter] キーを押して、文字を確定します

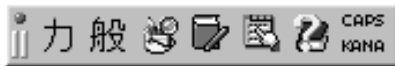
キーボードで切り替える

- ① **Shift** キーを押しながら **カタカナ ひらがな** キーを押します

Shift キーは、左右どちらのキーを使用してもかまいません。



ツールバーの一番左のボックスが「カ」になります。



- ② **N I H O N G O** の順にキーを押します






- ③ **Enter** キーを押して、文字を確定します

ひらがな入力に戻すには、**カタカナ ひらがな** キーのみを押します。







句読点や記号を入力するには

キーを使う

キーを使って記号を入力することができます。

入力したい文字	日本語入力モード（日本語入力システムがオン）
、（読点）	「  」キーを押す
。（句点）	「  」キーを押す
・（中黒）	「  」キーを押す
ー（長音）	「  」キーを押す
？	「Shift」キーを押しながら「  」キーを押す

インターネットでよく使う記号は、このキーを使います。


入力したい文字	日本語入力モード（日本語入力システムがオフ）
@（アットマーク）	「  」キーを押す
:（コロン）	「  」キーを押す
/（スラッシュ）	「  」
（チルダー）	「Shift」キーを押しながら「  」キーを押す
_（アンダーバー）	「Shift」キーを押しながら「  」キーを押す
-（ハイフン）	「  」

読みを入力して変換する

漢字を入力するときと同じように、読みを入力して変換し、候補の中から選びます。

入力したい文字	読み
〒 TEL	まる
	さんかく
	しかく
	ゆうびん
	でんわ
	やじるし / みぎや
	こめじるし

キーの表面に書かれた文字を入力するには

ここでは  キーを例にとります。

入力したい文字	日本語入力システムメニューの状態	キーの操作
] (キー表面の左下の文字)		このまま 
} (左上の文字)		(Shift) キーを押しながら 
」 (右上の文字)		このまま  を押してから (Enter) キーを押す

特殊文字の場合

キーに書かれた文字の中で、次のものについては上記の方法で入力できません。

() 内に示した読みを入力して変換キーを押すと、目的の文字を入力することができます。

文字	読み
£	(ぼんど) または (たんい)
々	(きごう)
ㄣ	(きごう)
『』	(かっこ)
φ	(せんと) または (たんい)
ヶ	(け)
	(きごう)
~	(から)
	(きごう)

このような特殊文字を入力したいときは、一般に (きごう) と入力して **変換** キーを数回押すと、目的の文字が表示されます。

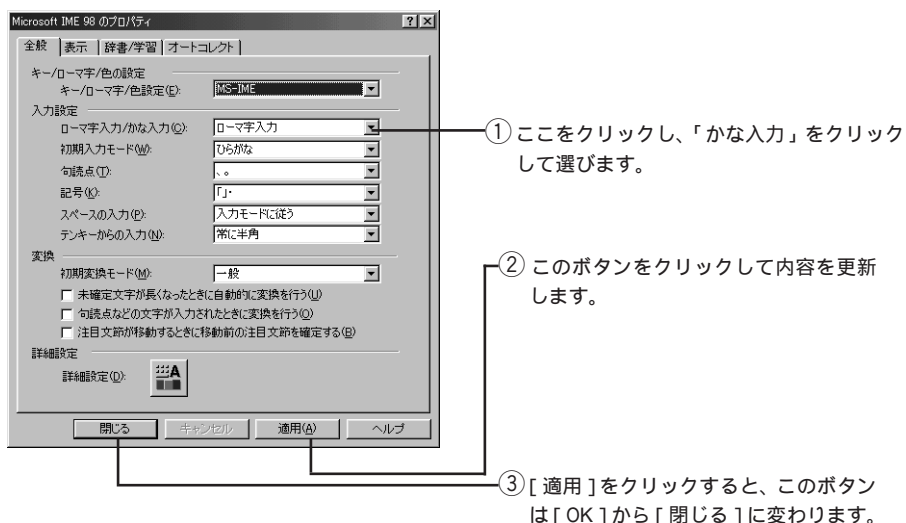
かな入力方式に変更するには

Aptiva で使われている「MS-IME 98」という日本語入力システムでは、通常ローマ字で読みを入力するようになっています。かなキーを使用してかなを直接入力する「かな入力方式」に変更したい場合は、次の設定をします。

① ツールバーの [プロパティ] ボタンをクリックします



② 入力設定の「ローマ字入力 / かな入力」で「かな入力」を選び、「適用」をクリックします



③ [閉じる] ボタンをクリックします

④ に ほ ん こ の順にキーを押します

- ⑤ ひらがなを入力したい場合は **Enter** キーを押し、漢字に変換したいときは **変換** キーを押します

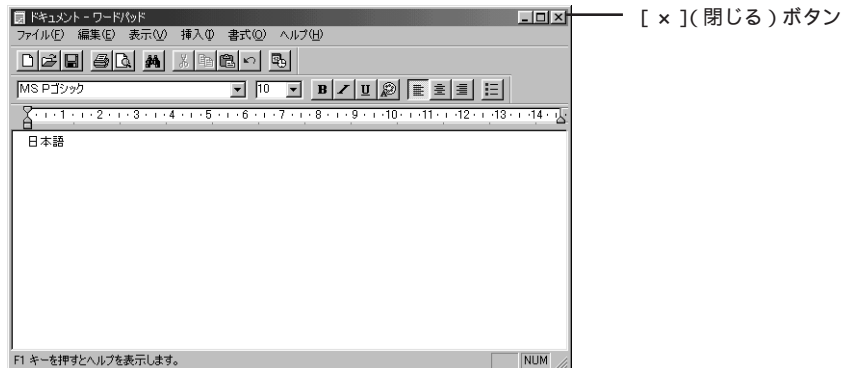
ひらがなを入力したい場合は文字を変換する必要がないので、そのまま **Enter** キーを押して文字を確定します。

- ⑥ 漢字が正しく変換されたら **Enter** キーを押して、文字を確定します

「ワードパッド」を終了するには

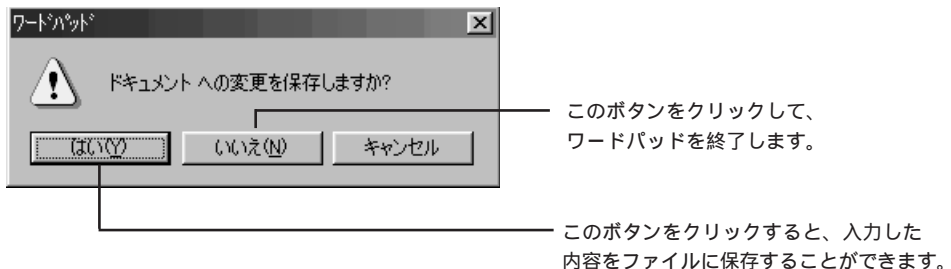
入力の練習が終わったら、ワードパッドを終了しましょう。

- ① ワードパッド・ウィンドウの [×] (閉じる) をクリックします



- ② 「ドキュメントへの変更を保存しますか?」というメッセージボックスが表示されるので、[いいえ] をクリックします

ここでは、画面の内容を保存せずに「ワードパッド」を終了します。

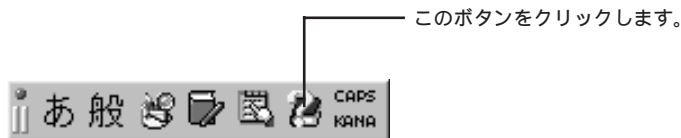


文字入力の方法がわからないときは

「ヘルプ」を起動する

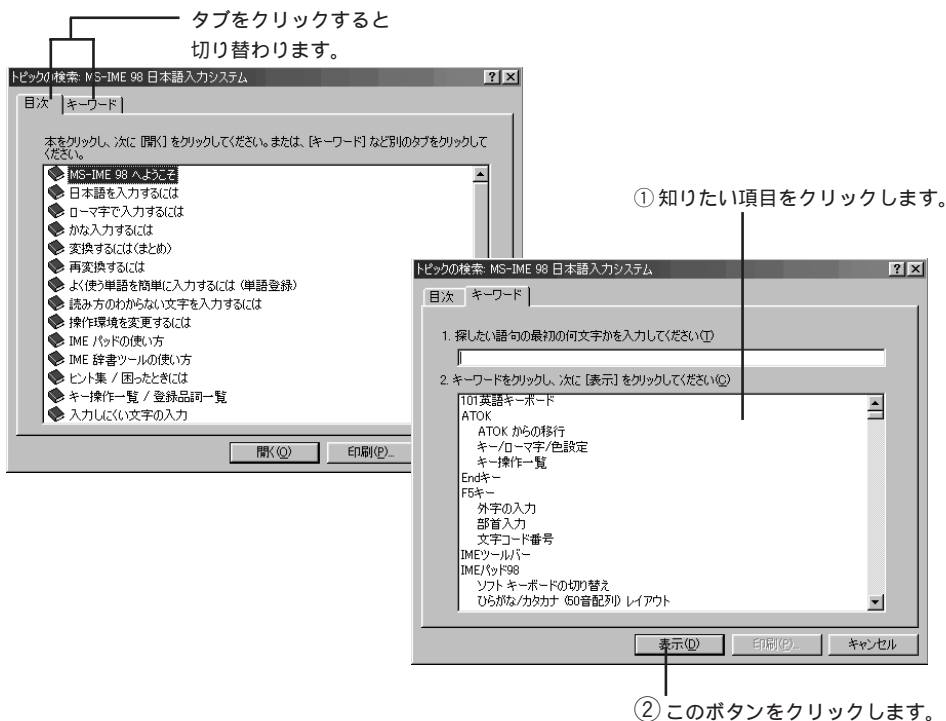
日本語入力システムには「ヘルプ」が用意されています。入力方法や変換の方法がわからなかったり、辞書を編集する方法を知りたいときは、ヘルプを見てみましょう。

① ツールバーの [ヘルプ] ボタンをクリックします



② 「目次とキーワード」をクリックします

③ 「目次」または「キーワード」の中から、知りたい項目をクリックします

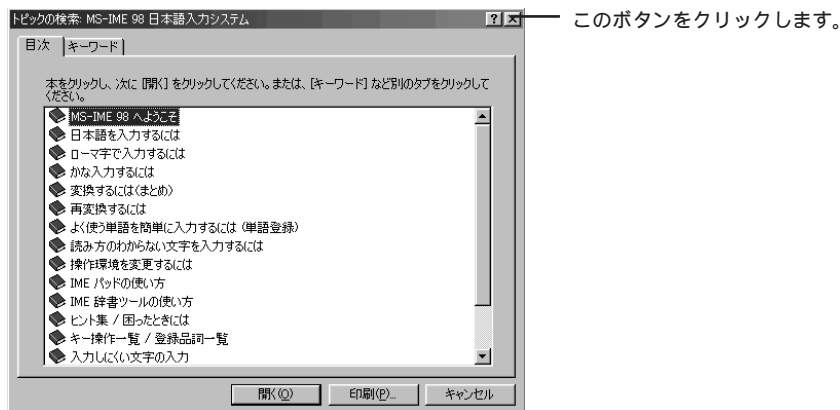


④ [表示] をクリックします

目次から選んでいる場合は、項目の中にさらに項目があるので、[開く] をクリックして行ってください。

「ヘルプ」を終了する

ヘルプを終了するときは、画面右上の [×] (閉じる) をクリックします。



ヘルプは、ほとんどのアプリケーションで用意されています。
メニューバーの「ヘルプ」をクリックし、項目を選んでください。
何かわからないことがあるときは、ヘルプを見てみましょう。

声で文字を入力してみよう

付属のマイクを使って、ひらがなや漢字、カタカナを入力してみましょう。
マイクを使って声で入力された文字を、ひらがなや漢字、カタカナに変換するためには、「VoiceATOK」というプログラムが必要です。

VoiceATOKをインストールするには

- ① デスクトップの「AptivaWare」アイコンをダブルクリックします



- ② 「Aptivaの工具箱」アイコンをダブルクリックします

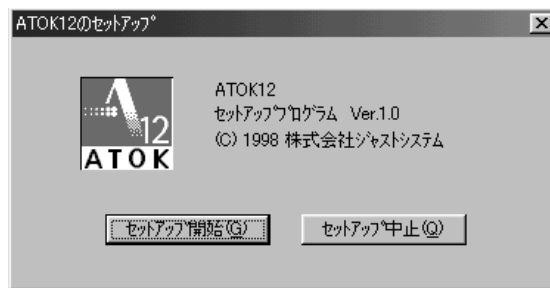


- ③ 「VoiceATOKのインストール」アイコンをダブルクリックします



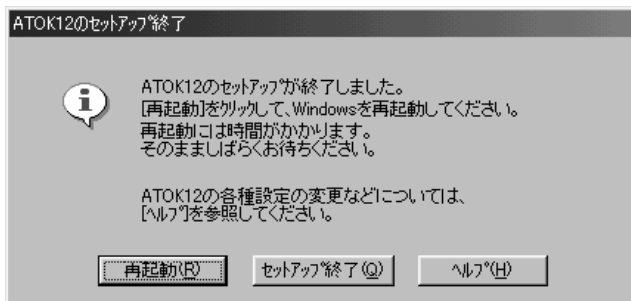
セットアップ・プログラムが起動します。

- ④ [セットアップ開始] をクリックします



このあとは、画面に従って進んでください。

- ⑤ 「ATOK12のセットアップ終了」画面が表示されたら、[再起動]をクリックします



音声入力の準備をしよう

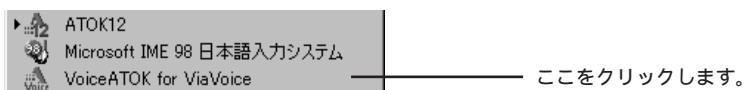
VoiceATOKを使える状態にするには

インストール後、Windows 98を再起動すると、「ATOK12」が使えるようになります。「ATOK12」は、Aptivaにプリインストールされている「MS-IME98」と同じようにキーボードを使って文字を入力、変換するプログラムです。マイクを使って声で文字を入力、変換できるように「VoiceATOK」に切り替えます。

- ① 画面右下（タスクバーの右端）の「日本語システム入力」のアイコンをクリックします



- ② 「VoiceATOK for ViaVoice」をクリックします



音声入力のオン / オフを切り替えるには

マウスで切り替える

- 画面左上の「Voiceパッド」上でマウス・ボタンを押したままにすると、マウス・ボタンを離すまで音声入力は「オン」状態になります。
「Voiceパッド」をダブルクリックすると、音声入力が「オン」の状態に固定されます。
「Voiceパッド」がカラーになります。
- 固定した「オン」状態を解除するには再度「Voiceパッド」をダブルクリックします。
「Voiceパッド」がグレーになります。

キーで切り替える

- キーボードの左側にある [Shift] キーを押したままにすると、キーを離すまで音声入力は「オン」状態になります。
キーボードの左側にある [Shift] キーを素早く連続して2回押すと、音声入力が「オン」状態に固定されます。
「Voiceパッド」がカラーになります。
- 固定した「オン」状態を解除するには [Shift] キーを素早く連続して2回押します。
「Voiceパッド」がグレーになります。

音声入力モード（日本語変換する方法）を切り替えるには

① 「Voiceパッド」上で右クリックします



Voiceパッド

② メニューの中から使いたい音声入力モードをクリックします



この中からモードを選びます。

音声入力モードを切り替えると、「Voiceパッド」の表示が変わります。

標準モード

音声を入力してから、変換操作を行います。

音声入力された文字が未確定状態で表示されます。音声入力のあとは、従来のATOKと同一の操作で文字を変換できます。

ViaVoiceモード

音声を入力すると、変換が自動的に行われます。

音声入力された文字が未確定状態で表示されます。音声入力のあとは、従来のATOKと同一の操作で文字を変換できます。ViaVoiceモードは、ViaVoiceが認識した変換候補の中から表記を選ぶことができます。

ダイレクトモード

音声を入力するとViaVoiceで確定された状態で文字が表示されます。入力中の変換操作はありません。音声で素早く記録し、すべて入力し終わったらキーボードで修正していきます。変換精度よりも入力スピードを重視するときに便利です。

初めてVoiceATOKを使う場合は

初めてVoiceATOKを使う場合は、最初にマイクのセットアップを行います。

- ① マイクとスピーカーが正しく接続されていることを確認します
- ② 画面左上の「Voiceパッド」を右クリックします
- ③ 「ViaVoice設定」「マイクのセットアップ」をクリックします



- ④ 「マイクロフォンの設定」が選ばれていることを確認し、[次へ]をクリックします
 選ばれていない(黒丸が付いていない)場合は、「マイクロフォンの設定」をクリックしてください。



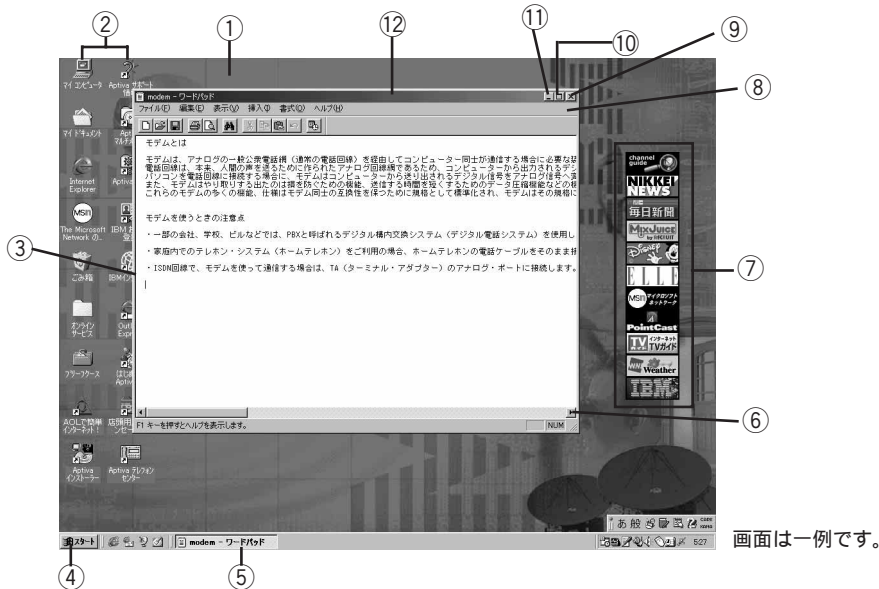
このあとは、画面の指示に従ってマイクのセットアップを行ってください。
 詳しくは、ViaVoice98 に付属の「はじめよう ViaVoice98」をお読みください。

音声入力してみよう

- ① **ワードパッドを起動します**
 キーボードの右側にあるラピッドアクセス・ボタンの「ワープロ」を押します。
- ② **VoiceATOKを使える状態にします**
- ③ **音声入力をオンにします**
- ④ **VoiceATOKの入力モードを切り替えます**
- ⑤ **画面左上の「Voice パッド」上でマウス・ボタンを押したままにします**
 または、キーボードの左側にある [Shift] キーを押したままにします。
 音声が入力できる状態になり、ワードパッドの入力画面に「REC」と表示されます。
- ⑥ **マイクに向かって、入力したい文章を発声します**
 文章が変換されます。(音声入力モードによって操作が異なります。)

Windows98 の画面はこうなっている

ここでは Windows98 の画面について簡単に紹介します。



画面は一例です。

① デスクトップ

Windows 98 を起動したときに画面全体に表示される領域(背景の部分全部)をデスクトップと呼びます。

② アイコン

アプリケーションなどを小さく図形化(絵)したものをアイコンと呼びます。

③ ウィンドウ

プログラムを起動するとデスクトップ上に表示される枠のことをウィンドウと呼びます。

④ スタート・ボタン

Windows 98 のすべてのメニューが入っています。アプリケーションを起動したり、Windows 98 を終了させたり、すべてをこのボタンから行うことができます。

⑤ タスクバー

起動中のアプリケーションが表示されます。ボタンをクリックするとそのプログラムがすぐに切り替わり、表示されます。

⑥ スクロール・ボタン

ボタンをクリックすると、その方向にウィンドウの内容が動いて隠れているところ(そのウィンドウ内に表示されていなかったところ)を見ることができます。

⑦ チャンネルバー

チャンネルバーをクリックするだけで、登録されているチャンネルの最新情報をすぐに表示することができます。


⑧ メニューバー

各ウィンドウで使うことができる機能をメニュー化したものです。使用しているアプリケーションでわからないことがあるときや困ったときなどは、「ヘルプ」メニューを活用しましょう。

⑨ 閉じるボタン

このボタンをクリックするとウィンドウを閉じて、アプリケーションを終了します。

⑩ 最大化ボタン

このボタンをクリックするとウィンドウが最大になり、画面いっぱいに表示されます。最大化したウィンドウの (元に戻すボタン)をクリックすると、元の大きさに戻ります。

⑪ 最小化ボタン

このボタンをクリックするとウィンドウが最小になり、タスクバーの上に表示されます。タスクバー上のそのボタンをクリックすれば、元に戻ってデスクトップ上にウィンドウが表示されます。

⑫ タイトルバー

アプリケーションやプログラムの名前が表示されます。この部分をマウスでドラッグすると、ウィンドウを移動することができます。



Windows 98 について詳しくは、「Windows 98 ファーストステップガイド」をお読みください。

アプリケーション・ソフトウェアを使うには

デスクトップのアイコンから選ぶ

① デスクトップのアイコンをダブルクリックします

ここに並んでいる小さな絵のことを「アイコン」と呼んでいます。



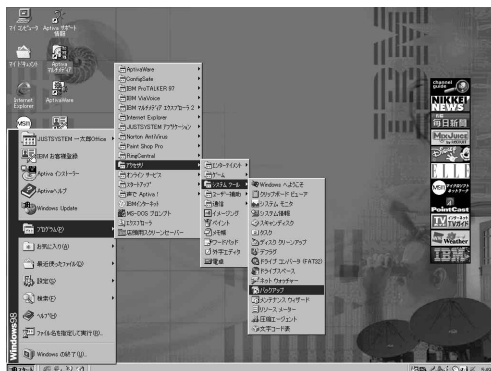
② 使いたいアプリケーションを選んで、ダブルクリックします

[スタート] ボタンから選ぶ

① 画面左下の [スタート] ボタンをマウスでクリックします

② スタートメニューから「プログラム」を選びます インストールされているアプリケーションが表示されます。

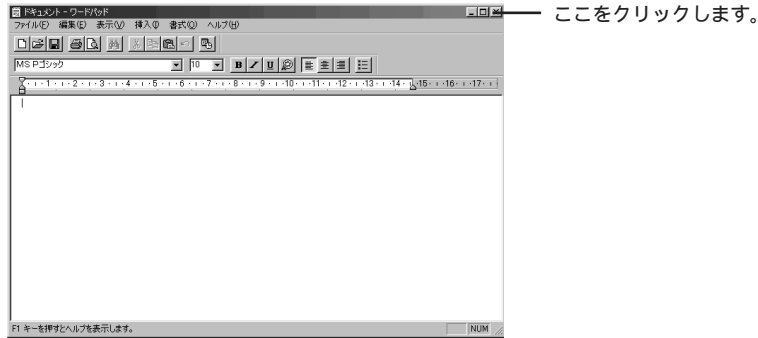
③ 使いたいアプリケーションを選んでクリックします



画面は一例です。

アプリケーションを終わらせるには

- ① アプリケーションのウィンドウの右上隅にある[X] (閉じる) をクリックします

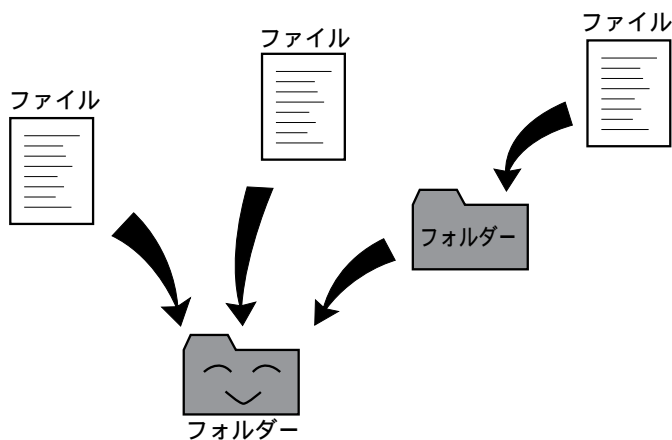


「ファイル」と「フォルダー」について

ファイルとフォルダーの違いは？

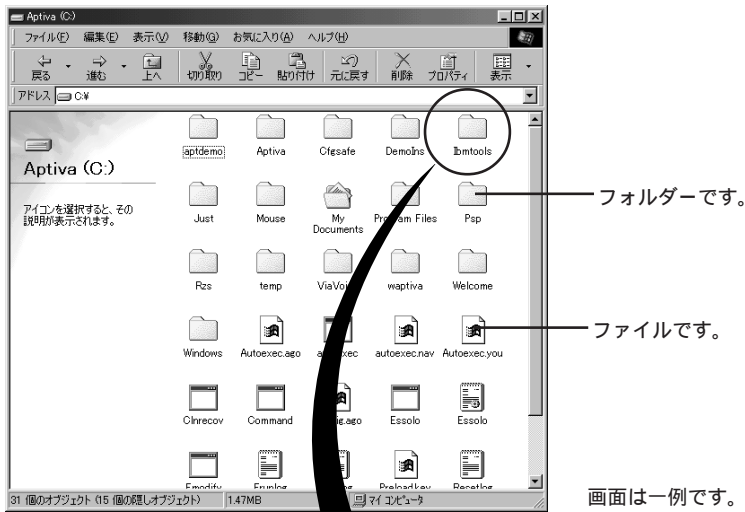
ハードディスクやディスクに記録されているアプリケーションのプログラムや、アプリケーションを使って作成した文書や表、絵などのデータのことを「ファイル」といいます。いくつかのファイルが集まって1つのアプリケーション・ソフトウェアになっていることもあります。ファイルの名前のことを「ファイル名」といいます。

また、ファイルを管理しやすいように分類してまとめるための入れ物を「フォルダー」といいます。フォルダーの中には、ファイルだけでなく、別のフォルダーを作っておくことができますが、ファイルの中にフォルダーを作ることはできません。フォルダーの名前のことを「フォルダー名」といいます。

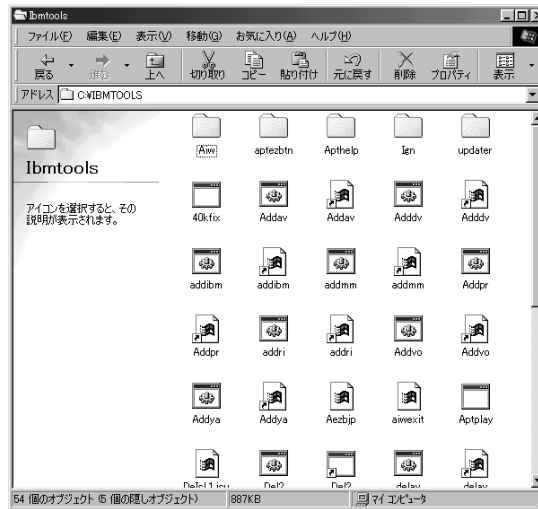


ファイルのアイコンは、データの種類によっていろいろな形がありますが、フォルダーのアイコンは黄色い書類入れの形をしています。

フォルダーのアイコンをダブルクリックするとウィンドウが開き、その中に収められているファイルの一覧を見ることができます。



ダブルクリック



自分専用のフォルダーを作ろう

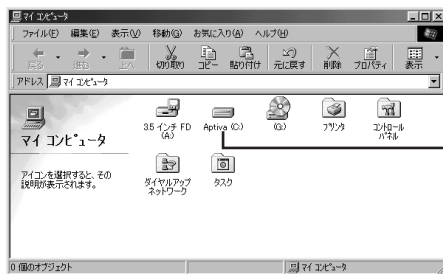
自分で作ったファイルを管理するために、自分専用のフォルダーを作りましょう。

① デスクトップの「マイ コンピュータ」アイコンをダブルクリックします



このアイコンをダブルクリックします。

② 「Aptiva (C:)」をダブルクリックします



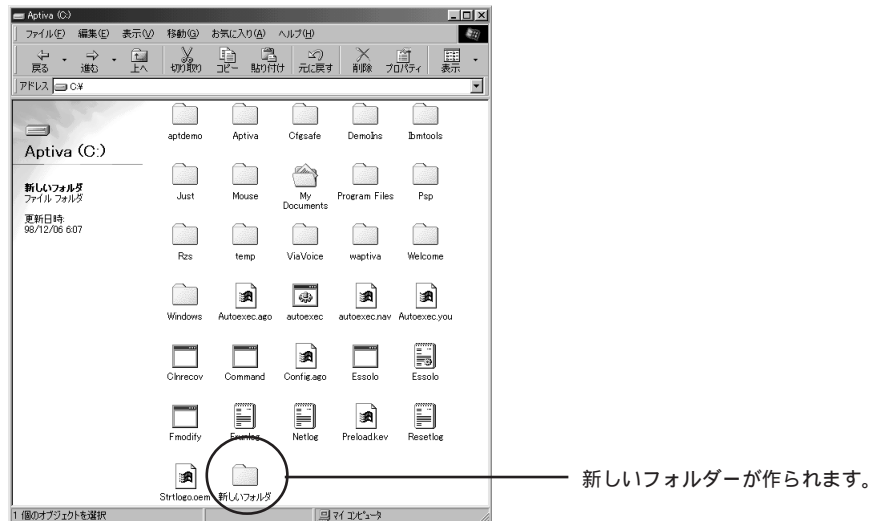
このアイコンをクリックします。

Aptivaに接続されているすべてのドライブが表示されます。

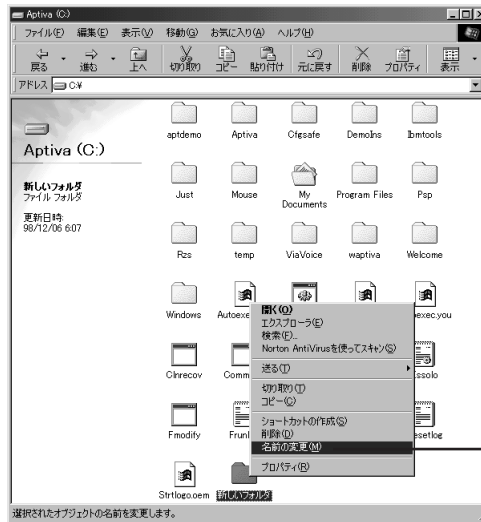
③ 「ファイル」メニューをクリックし、「新規作成」から「フォルダ」を選んでクリックします



新しいフォルダーが作られます。



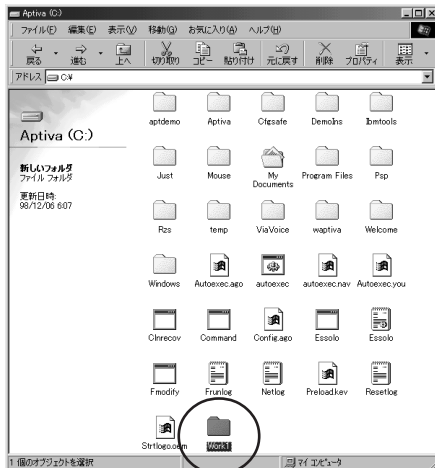
④ 「新しいフォルダ」アイコンを右クリックし、「名前の変更」をクリックします



ここをクリックします。

⑤ フォルダーに付けたい名前を入力して、**(Enter)** キーを押します

ここでは、例としてWork1と入力したので、「新しいフォルダ」の名前が「Work1」という名前に変わりました。新しいフォルダーには、好きな名前を付けることができます。

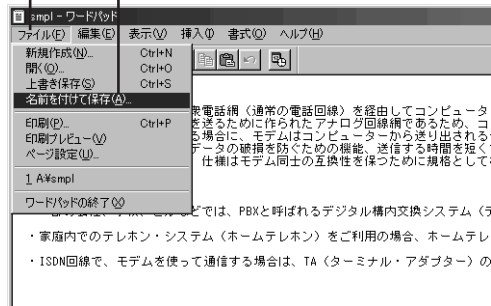


作ったファイルを保存しよう

作成した文章や絵などを保存してみましょう。ここでは、ワードパッドを例に説明していますが、基本的な操作はどのアプリケーションでも同じです。

- ① ワードパッドを起動し、文章を入力します。
- ② アプリケーションのメニューバーの「ファイル」をクリックし、「名前を付けて保存」をクリックします

- ① ここをクリックします。
- ② ここをクリックします。



- ③ 保存する場所を選びます

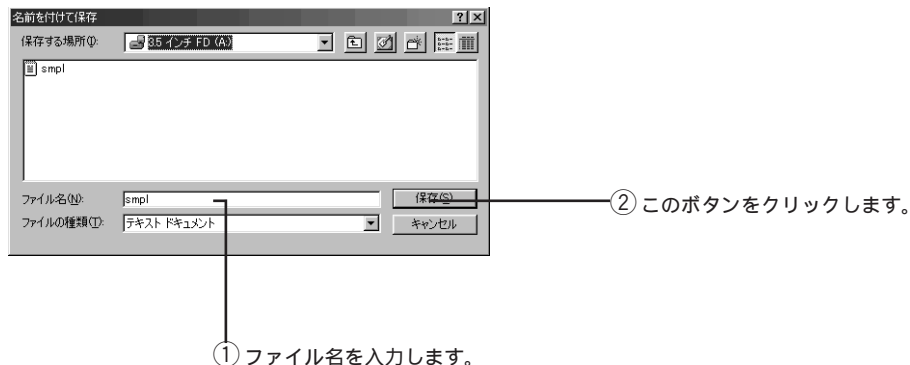
「名前を付けて保存」ウィンドウが開き、標準で「My Documents」のフォルダーに保存できるようになっています。My Documents ホルダーに保存する場合は、ファイル名を付けてから [保存] をクリックします。

ここでは、ディスクット（フロッピーディスク）に保存してみましょう。「3.5 インチ FD (A:)」をクリックすると、保存場所がディスクットとなります。ディスクットの使い方がわからない場合は、P.73「ディスクットを使う」をお読みください。



④ ファイル名を入力して [保存] をクリックします

ファイル名を入力するボックスにすでに文字が入っていたら、文字の最後をマウスでクリックしてカーソルを点滅させてからキーボードの **Back space** キー押しで文字を消し、保存するファイルの名前を入力します。



「上書き保存」は、すでに作成しているデータ呼び出し、それに修正を加えてまた同じ名前で保存するときに選びます。同じ名前で上書きするので、修正前のファイルは新しく書き換えられてしまいます。両方とも残しておきたいときは、修正済みのファイルを保存するときに「名前を付けて保存」を選びましょう。

ファイルを「コピー」したり「移動」するには

ファイルは全く同じ物を簡単にいくつも作ることができます。これを「ファイルをコピーする」といいます。ファイルを元の場所から他の場所へ移すことを「ファイルを移動する」といいます。

異なるドライブの場合

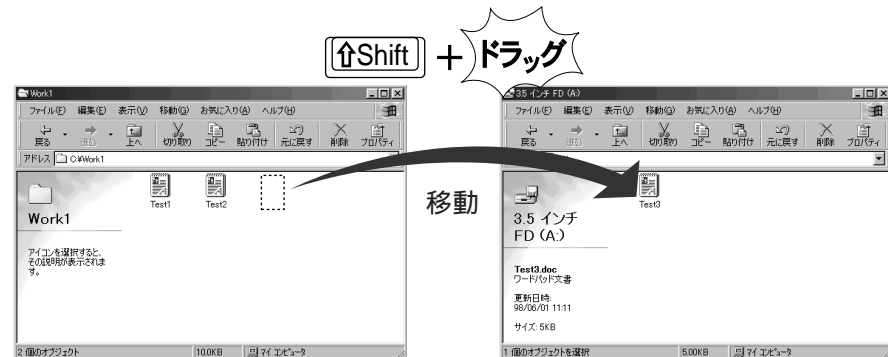
Windows 98 のデスクトップの「マイ コンピュータ」アイコンをダブルクリックし、Cドライブの中のファイルが入っているフォルダーをダブルクリックして、ウィンドウを開いておきます。再度「マイ コンピュータ」アイコンをダブルクリックし、Aドライブのアイコンをダブルクリックして、ウィンドウを開きます。ウィンドウが重なっている場合は、タイトルバーの部分(P.55)にマウスポインターをおき、ドラッグしてずらしてください。

ハードディスク (C:) からディスク (A:) へ

コピーするには
目的のファイルのアイコンを選んでドラッグすると、ファイルはコピーされます。



移動するには
目的のファイルのアイコンを選んで (Shift) キーを押しながらドラッグすると、ファイルはコピーではなく、移動されます。



ファイルを「コピー」したり「移動」するには

右クリックで確実にコピー

1. 目的のファイルのアイコンを選んでマウスの右ボタンをクリックします。
メニューが表示されます。
2. 「送る」の中から「3.5 インチ FD (A)」を選んでクリックします。
ファイルがコピーされます。

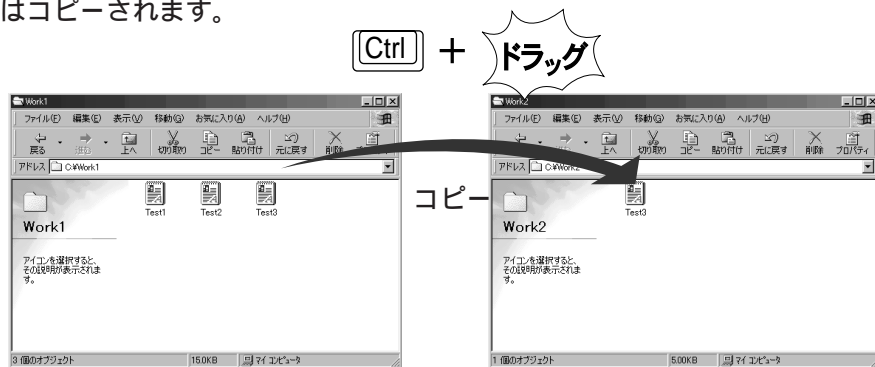


同じドライブの場合

Windows 98 のデスクトップの「マイ コンピュータ」アイコンをダブルクリックし、Cドライブの中のあるファイルが入っているフォルダーをダブルクリックして、ウィンドウを開いておきます。再度「マイ コンピュータ」アイコンをダブルクリックし、Cドライブの中の移動またはコピー先のフォルダーをダブルクリックして、ウィンドウを開きます。ウィンドウが重なっている場合は、タイトルバーの部分(P.55)にマウスポインターをおき、ドラッグしてずらしてください。

ハードディスク (C:) の中で

コピーするには
目的のファイルのアイコンを選んで (Ctrl) キーを押しながらドラッグすると、ファイルはコピーされます。



移動するには
目的のファイルのアイコンを選んでドラッグすると、ファイルはコピーではなく、移動されます。



ファイルのバックアップについて

Aptivaのハードディスクには、OSをはじめ、アプリケーションやアプリケーションが扱う大量のデータが保存されています。

万一、この大事なデータが消えたときは、OSやアプリケーションなどはリカバリーCDを使ってハードディスクを出荷時の状態にもどすことができますが、自分で作成した文書やデータのファイルは消えてしまいます。自分で作成したファイルは、定期的にディスクケットにコピーしておきましょう。このことを「ファイルのバックアップを取る」といいます。

ファイルのバックアップを取るには

ファイルのバックアップを取る方法として、「コピー」の他にWindows98の「バックアップユーティリティ」を利用する方法があります。

このユーティリティは、「ディスクケット1枚に収まらない大きなサイズのファイルのバックアップを取りたい」という場合や、「ファイルだけではなくフォルダーも収められているようなフォルダーを階層構造も含めてすべてバックアップを取りたい」というような場合に使います。

- ① [スタート] ボタンをクリックし、「プログラム」「アクセサリ」「システム ツール」「バックアップ」の順に選んでクリックします
「Microsoft Backup」ウィンドウが表示されます。



バックアップの使い方については、「バックアップ ヘルプ」を参照してください。
ヘルプは、起動時に表示される「Microsoft Backup へようこそ」ウィンドウで、[ヘルプ]をクリックすると表示されます。

ファイルの保存場所がわからなくなったら

ファイルを間違って他の場所に移動したり、保存した場所を忘れてしまったり、ファイルがどこにいったかわからなくなってしまうことがあります。そんなときは、ファイルを検索して探してみましょう。

ここでは例として、「Test1」というファイルを探してみます。

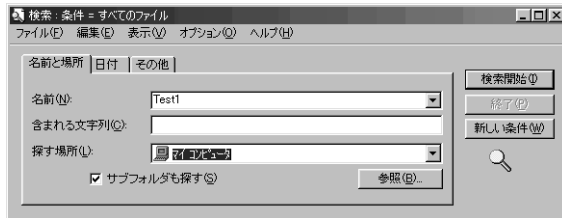
- ① 画面左下の [スタート] ボタンをマウスでクリックします
- ② スタートメニューから「検索」を選び、表示された一覧から「ファイルやフォルダ (F)」をクリックします
「検索：条件 = すべてのファイル」ウィンドウが表示されます。



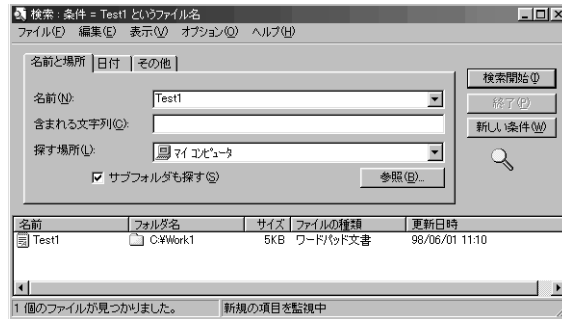
- ③ 名前の入力欄に探すファイル名を入力します
ここでは、Test1 と入力してみます。
- ④ 探す場所を選びます
すべてのドライブを検索する場合は「マイ コンピュータ」を選びます。

⑤ 「サブフォルダも探す」にチェックが付いていることを確認し、[検索開始] をクリックします

「サブフォルダ」とは、ドライブやフォルダーの中にあるフォルダーのことを言います。



検索作業が終わると、検索結果が一覧表示されます。



ショートカットを作ってみよう

よく使うアプリケーション・ソフトウェアなどは、Windows 98 のデスクトップに「ショートカット」を作っておくと便利です。

ショートカットとは、そのアプリケーションをすぐに使えるようにデスクトップにアイコンとして表示しておくためのものです。ショートカットのアイコンをダブルクリックすると、元のアイコンをダブルクリックしたのと同じ働きをし、アプリケーション・ソフトウェアが起動します。



ショートカットを削除しても、元のアプリケーション・ソフトウェアが削除されるわけではなく、何も影響ありません。

ここでは例として、電卓のショートカットを作ってみましょう。

方法 1

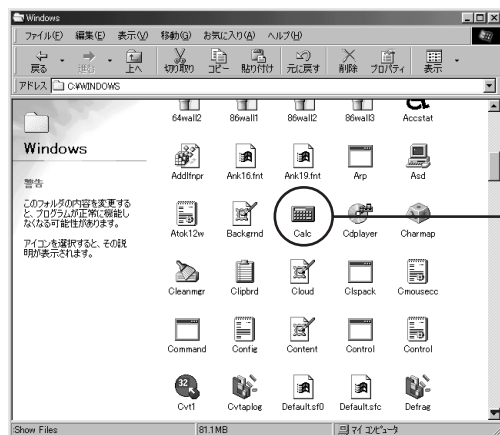
① デスクトップの「マイ コンピュータ」アイコンをダブルクリックします

② 「Aptiva (C:)」アイコンをダブルクリックします

③ 「Windows」アイコン (フォルダー) をダブルクリックします

④ 「ファイルの表示」をクリックします

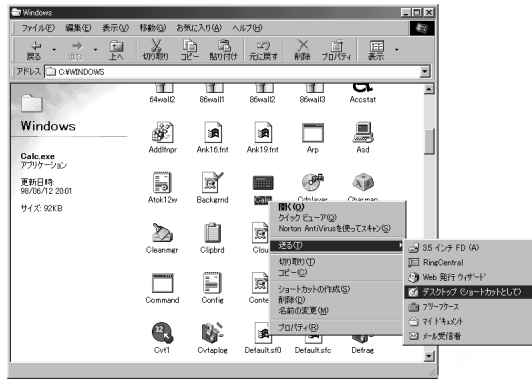
ファイルが表示されたら、スクロール・ボタンを使って、「Calc」アイコンが見つかるまでスクロールしていきます。



「Calc」アイコン

ここをクリックして画面をスクロールしていきます。

- ⑤ 「Calc」アイコンを右クリックし、「送る」の中から「デスクトップ(ショートカットとして)」を選んでクリックします



デスクトップにショートカットが作られます。

方法2

- ① 上記「方法1」の①②③を行います
- ② 「Calc」アイコンをクリックして反転させ、**Shift** キーと **Ctrl** キーを押しながら「Calc」アイコンをデスクトップにドラッグ&ドロップします
ドロップすると、メニューが表示されます。



- ③ 「ショートカットをここに作成」をクリックします
デスクトップにショートカットが作成されます。

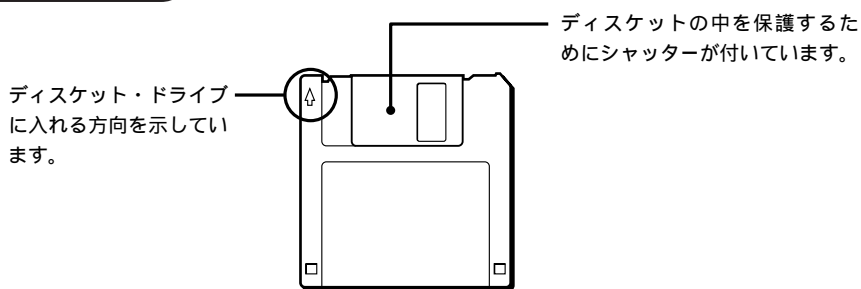
ディスクを使う

ディスクは「フロッピーディスク」ともいいます。
ハードディスクほど大量のデータを入れることはできませんが、いくつかのファイルを記録して、簡単に持ち運べるのがディスクのよいところです。

ディスクについて

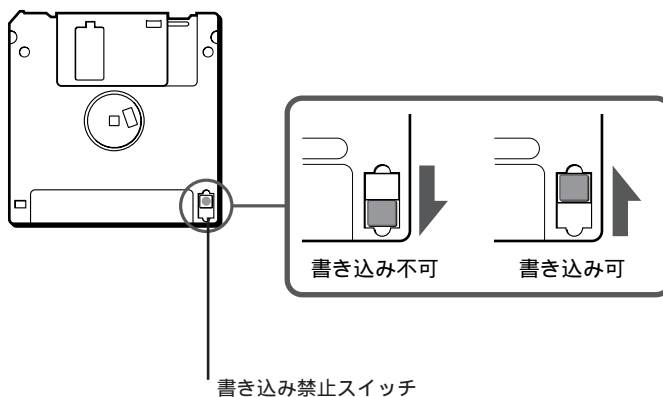
Aptiva で使うのは 3.5 インチのディスクです。

ディスクの表側



ディスクの裏側

書き込み禁止スイッチ
誤ってディスクのデータを削除したり、書き換えたりできないようにすることができます。書き込み禁止の状態になっているときは、データを読み取ることだけができます。



ディスクットの種類について

現在パソコン用には「2DD」と「2HD」という2つの規格の3.5インチのディスクットが販売されています。

ディスクットの種類により、保持できる情報の量（記憶容量という）はさまざまです。

サイズ	タイプ	フォーマット後の記憶容量
3.5インチ	2DD	720KB
	2HD	1.44MB
		1.2MB*

* 他社製パソコンの1.2MBのフォーマットは、形式がIBM製パソコンでフォーマットしたものと異なります。そのため、他社製パソコンでフォーマットした1.2MBのディスクットをIBM製パソコンで読み込むためには、1.2MB用のドライバーが必要となります。

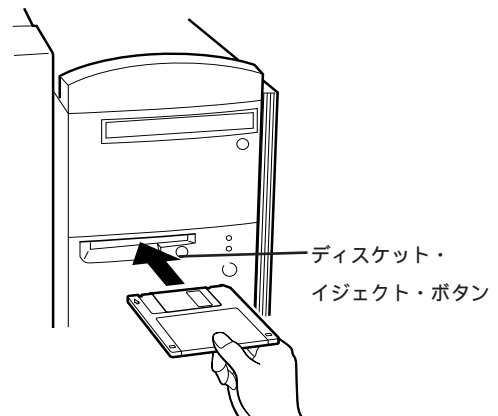
Aptivaには1.2MB用のドライバーが既にインストールされていますので、そのまま1.2MBフォーマットのディスクットを読み取ることができます。

ディスクット・ドライブの使い方

ディスクットを入れて、ファイルを読み取ったり書き込んだりするための装置を「ディスクット・ドライブ」(フロッピーディスク・ドライブ)と呼んでいます。

ディスクットを入れるときは

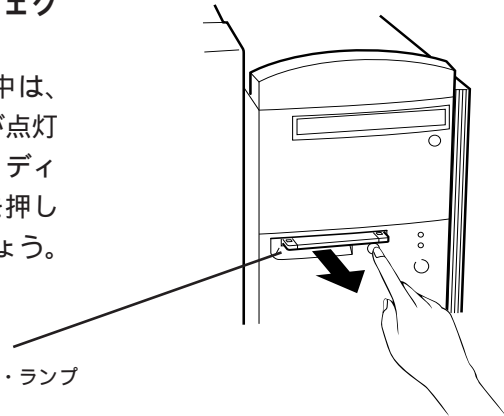
- 1 ディスクットの表側を上にして矢印の方向へまっすぐ押し込みます
ディスクットが完全に入ると、カシャッと音がして、ディスクット・イジェクト・ボタンが手前に出ます。



ディスクを取り出すときは

① ディスク・ドライブのイジェクト・ボタンを押します

ディスク・ドライブが稼働中は、ディスク・アクセス・ランプが点灯しています。ランプが消えてから、ディスク・イジェクト・ボタンを押して、ディスクを取り出しましょう。



ディスク・アクセス・ランプ

ディスクを使うときは

ディスクを使うときは、そのディスクが「フォーマット(初期化)」されていることを確認してください。フォーマットされていないディスクには、コピーなど書き込み作業ができません。フォーマットとは、まっさらな状態のディスクに番地を付けて、情報を書き込める状態にすることです。

フォーマット済みのディスクを購入することをお勧めしますが、購入するときは必ずDOS/V用を選んでください。

ディスクのフォーマットと、ファイルのコピーについては「Windows 98 ファーストステップガイド」をお読みください。



汚れたディスクは、本体の故障の原因となるため、使用しないでください。保存しておいたデータが使えなくなってしまった場合に備えて、バックアップを取っておくようにしましょう。

ディスクットをフォーマットするには

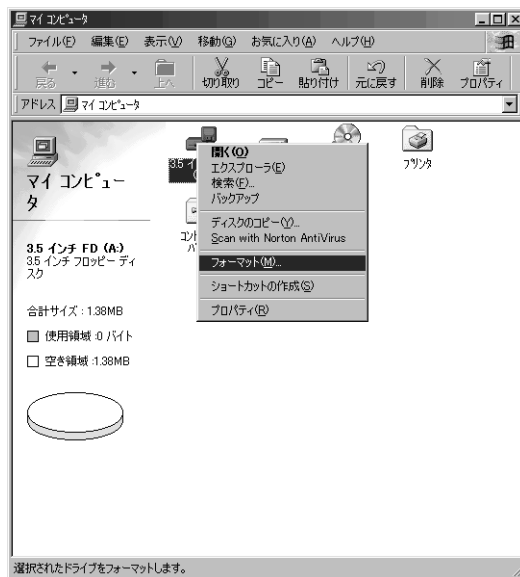
フォーマット（初期化）されていないディスクットを使う場合は、使う前にディスクットのタイプに合わせて「フォーマット」する必要があります。

- 1 ディスクット・ドライブにディスクットを入れ、「マイ コンピュータ」アイコンをダブルクリックします

「マイ コンピュータ」ウィンドウが表示されます。

- 2 「3.5 インチ FD (A:)」アイコンを右ボタンでクリックし、「フォーマット」を選んでクリックします

「フォーマット」ウィンドウが表示されます。

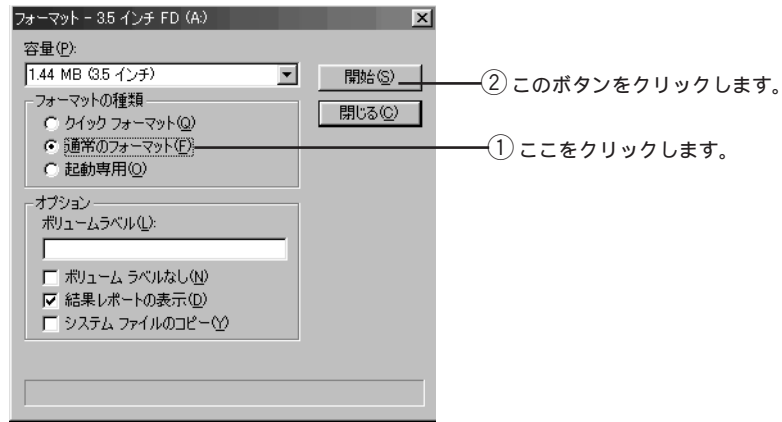


- 3 フォーマットするディスクットの種類に合わせて「容量(P)」を選びます

2HD ディスクットの場合は「1.44 MB (3.5 インチ)」、2DD ディスクットの場合は「720KB (3.5 インチ)」を選んでください。

- 4 「フォーマットの種類」のところで「通常のフォーマット(F)」をクリックします

- ⑤ **【開始】をクリックします**
 フォーマットが開始されます。



重要

フォーマットを実行すると、フォーマットしたドライブにデータがある場合はすべて削除されます。フォーマットは、ハードディスクにも有効です。誤ってハードディスクのドライブを選んで【開始】をクリックすると、ハードディスクがフォーマットされてしまいます。

【開始】をクリックする前に、「フォーマット」ウィンドウのタイトルバーに「フォーマット - 3.5 インチ FD (A:)」と表示されていることを必ず確認してください。

CD-ROM をセットする

AptivaにはいろいろなCD-ROMが付いています。
ここではCD-ROMのセットのしかたを説明します。

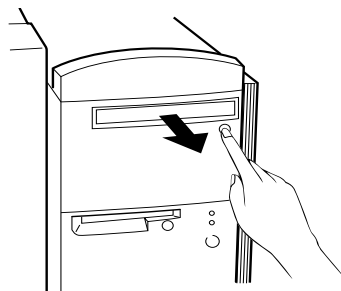
CD-ROM ドライブの使い方

CD-ROMのデータを読み取る装置が「CD-ROMドライブ」です。
音楽CDを聴くときも、このドライブにセットします。

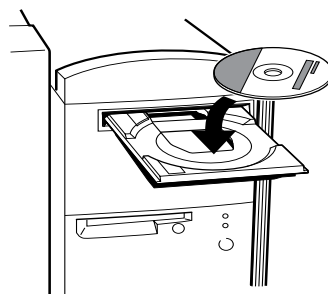
CD-ROMを入れるときは

電源が入っていることを確認しましょう。電源が入っていないときはCD-ROMドライブのイジェクト・ボタンは使えません。

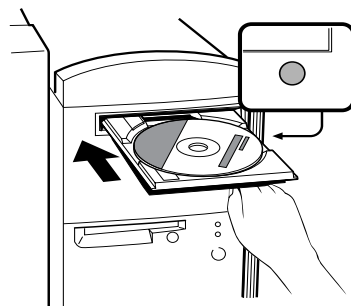
- ① CD-ROM イジェクト・ボタンを押します
CD-ROMのトレイ（受け皿）が出てきます。



- ② CD-ROM をトレイの上に置きます
CD-ROMのタイトル文字が書かれている面を上にして、CD-ROMの縁を持ってトレイに置きます。



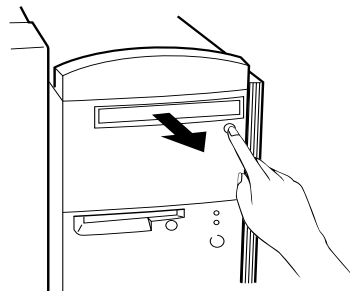
- ③ CD-ROM イジェクト・ボタンを押します
CD-ROMのトレイが収まります。



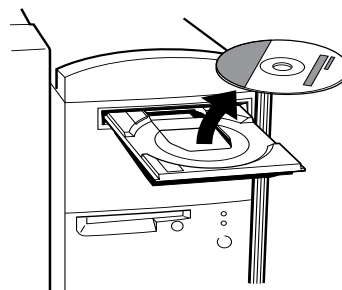
CD-ROM を取り出すときは

使い終わった CD-ROM は、パソコンに電源が入っているあいだに取り出します。
電源が入っていないときは、CD-ROM ドライブのイジェクト・ボタンは使えません。

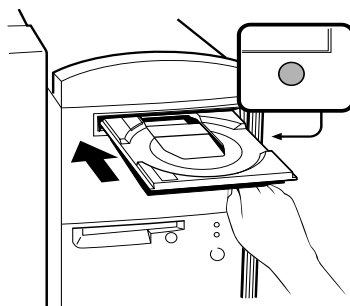
- ①** CD-ROM イジェクト・ボタンを押します
CD-ROM のトレイ（受け皿）が出てきます。



- ②** CD-ROM をトレイから取り出します



- ③** CD-ROM イジェクト・ボタンを押します
CD-ROM のトレイが収まります。



第2章

Aptivaの通信機能を使ってみよう



通信機能を使う前に

まず、確認しよう

Aptiva の通信機能を使うために、ご自宅で次のことを確認しましょう。

電話回線がつけられるか

Aptiva 本体には既にモデムが取り付けられています。Aptiva をファクシミリや電話として使ったり、インターネットに接続して使うには、付属している電話ケーブルで Aptiva を NTT などのアナログ公衆電話回線に接続します。現在、ご自宅の電話機のケーブルが壁にある電話ジャック(モジュラー・ジャック)に接続している場合は、付属の電話ケーブルをそのジャックに接続すれば使えるようになります。接続のしかたは、『セットアップ・ガイド』をご覧ください。

電話機のケーブルが直接壁に付いているときは、電話工事を行ってもらってモジュラー・ジャックに取り換える必要があります。工事を行うには、電話会社にご相談ください。

重要



Aptiva は日本国内の公衆アナログ電話回線網のみ接続できます。デジタル電話回線には接続しないでください。たとえば、オフィス・ビルの事務所等の独自の電話回線はデジタル電話回線の場合が多いので、接続前に必ずご確認ください。(不明の場合は、電話会社にお問い合わせください。)

電話回線の種類は何か

電話回線にはトーン回線(プッシュホン回線)とパルス回線(ダイヤル回線)があります。トーン回線の場合は、電話をかけたときに呼び出し音が鳴る前に「ピッ、ポッ、パッ」という音がします。パルス回線の場合は、「カタカタカタ...」という音がします。Aptiva の初期設定は「トーン回線」ですので、「パルス回線」をご使用の場合は、設定を変えなくてはなりません。設定を変えるには、次の操作を行ってください。もし、どちらの種類の回線なのかわからないときは、電話料金の請求書を見て確認しましょう。

- ① 画面左下の[スタート]ボタンをクリックしてスタート・メニューから「設定」
→「コントロールパネル」をクリックします
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- ② 「モデム」アイコンをダブルクリックします
「所在地情報」ウィンドウが表示されます。

③ 市外局番を入力し、[閉じる] をクリックします



④ [ダイヤルのプロパティ] をクリックします



モデル 2158 の場合は、“ Rockwell HCF 56K Data Fax PCI Modem ” と表示されます。

このボタンをクリックします。

⑤ 必要に応じて設定を変更して [適用] をクリックし、[OK] をクリックします



① ここで電話回線の変更をします。「パルス回線」に変更する場合は、「パルス」をクリックしてください。

② ここをクリックします。

③ ここをクリックします。

⑥ [OK] をクリックし、「モデムのプロパティ」ウィンドウを閉じます



モデムとは

モデムは、アナログの一般公衆電話網（通常の電話回線）を經由してコンピューターどうしが通信する場合に必要な装置です。

電話回線は、本来、人間の声を送るために作られたアナログ回線網であるため、コンピューターから出力されるデジタル信号はそのままでは送信（受信）できません。

パソコンを電話回線に接続する場合に、モデムはコンピューターから送り出されるデジタル信号をアナログ信号へ変換（送信時）して回線に送り出し、また送られてきたアナログ信号をデジタル信号へ変換（受信時）します。このモデムの働きによって、電話回線を通じて遠方にあるコンピューターと通信することができるのです。

また、モデムはやり取りするデータの破損を防ぐための機能、送信する時間を短くするためのデータ圧縮機能などの機能ももっています。

これらのモデムの多くの機能、仕様はモデム同士の互換性を保つために規格として標準化され、モデムはその規格に沿って開発されています。

モデムを使うときの注意点

一部の会社、学校、ビルなどでは、PBX と呼ばれるデジタル構内交換システム（デジタル電話システム）を使用しています。モデムは、アナログの公衆電話網へパソコンを接続することを目的とした装置で、またそのための規格に沿って設計されている機器のため、「通信ができない」「モデムやPBXのデジタル交換機が破損する」ということがあります。PBXシステムには絶対に接続しないでください。

家庭内でのテレホン・システム（ホームテレホン）をご利用の場合、ホームテレホンの電話ケーブルをそのまま接続しても、モデムが使用できない場合があります。これは、ホームテレホンでしか利用されない電気信号などがある場合に、モデムはこの信号を出したり受け取ったりすることができないためです。ホームテレホンをご利用の場合は、モデムを接続する前にホームテレホンのメーカーにご相談ください。

ISDN回線で、モデムを使って通信する場合は、TA（ターミナル・アダプター）のアナログ・ポートに接続します。ISDN回線をご利用の場合でも、モデムを使用してインターネットなどに接続する場合は、アクセスポイントは従来どおり、モデムを接続するためのアクセスポイントを使用します。一般的に、「ISDN 同期 64K（128K）専用」というアクセスポイントは、TAのデジタル通信用のポートを使用して接続するためのアクセスポイントなので、モデムでは接続できません。

インターネットにつないでみよう

Aptivaでインターネットにつないでみましょう。

インターネットは、日本を含めた世界中にあるコンピューターどうしをつないでいるコンピューター・ネットワークのことです。インターネットを通じて、世界中のコンピューターと情報を交換することができます。

インターネットって何だろう？

インターネットのはじまり

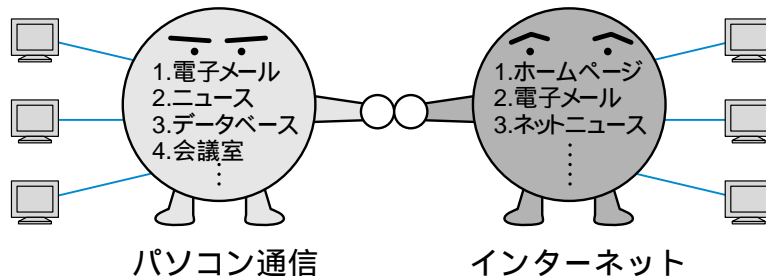
インターネットが普及する以前では、企業や学校などで、業務の電子処理や連絡のために個々のコンピューターのネットワーク（通信網）を作り、そのネットワークの中で情報のやり取りが行われていました。しかし、そのネットワーク以外の外部のネットワークとも通信ができれば便利です。そこで、この個々にあるネットワークどうしをつなげて、「ネットワークのネットワーク」をつくり、これを世界的な規模に広げたのがインターネットです。

インターネットとパソコン通信との違い

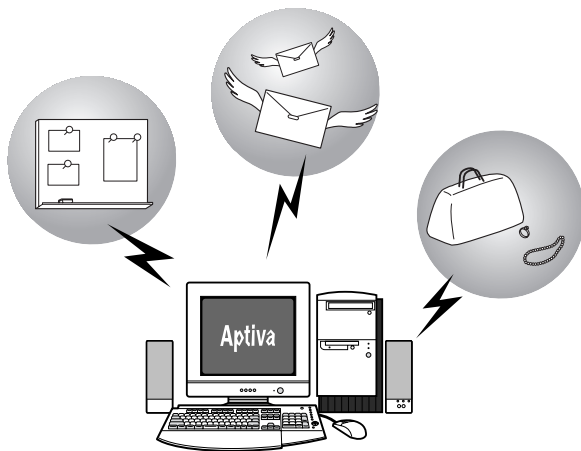
パソコンを使って利用できるネットワーク・サービスには、インターネットのほかに、「パソコン通信」というサービスもあります。インターネットでは、プロバイダーを経由してインターネット上にある世界中の情報を利用できますが、パソコン通信では、基本的にパソコン通信事業者が用意しているネットワーク内の情報のみが利用できます。

パソコン通信では、パソコン通信の会員同士が特定の話題について会話ができるフォーラムや会議室などコミュニティ・サービスが充実していることや、ニュースや経済統計のようなデータベース検索サービスなど有料の情報に対するしくみがしっかりしているが特徴です。

ただし、現在では、パソコン通信事業者もインターネットへの接続サービスを行ったり、インターネットからパソコン通信のサービスを利用できるなど、パソコン通信とインターネットの垣根があいまいになってきています。



インターネットでどんなことができるの？



ネットサーフィン

ネットサーフィンとは、インターネットを海にたとえて、サーフィンするようにいろいろなホームページを見て回るインターネットの代表的な機能のひとつです。ホームページには、URL(Uniform Resource Locator)というネット上の住所のようなものがあり、通常、「アドレス」と呼ばれています。このアドレスを指定することによって、そのホームページに簡単にたどり着くことができます。ネットサーフィンをするためには「ブラウザ」と呼ばれるソフトウェアを使います。

データベース検索

インターネットでは、データベース検索サービスというものがあり、世界中のデータベースの中から欲しい情報を見つけることができます。有名なものに「Yahoo(ヤフー)」というものがあります。

ホームページの公開(情報通信)

インターネットでは情報を収集するだけでなく、自分が興味を持っている事柄のホームページを作って情報を発信することができます。ホームページのネットワークのことをWWW(World Wide Web)といい、この情報のネットワークは世界中にクモの巣をはるように作られています。



インターネットとは、世界中のコンピューターどうしをつなぐ「コンピューター・ネットワーク」のことで、WWWは、インターネットを利用して作られた「情報ネットワーク」のことで、

電子メールの送受信

電子メールとは、インターネット上でのメール(手紙)のことで、通常、「E-mail」と呼ばれています。安い電話料金で世界中のどこにでもあつという間にメールを送ることができます。電話のように相手の都合に左右されず、手紙のように時間がかかることがなく、送りたいときに送って、読みたいときに読むことができます。また、同じメールを複数の人に同時に送ることもできます。

ネットニュース/ニュース・グループの送受信

インターネット上の電子掲示板のことで、意見の交換が自由にできます。通常、ネットニュースは、テーマ別や分野別のグループになっています。このグループのことを「ニュース・グループ」と呼びます。

ファイルの転送

インターネット上の他のコンピューターにあるファイルを自分のコンピューターに転送(これをダウンロードといいます)したり、逆に自分のコンピューターから他のコンピューターに転送(これをアップロードといいます)したりできます。このことをFTP(エフ・ティー・ピー)と呼びます。"File Transfer Protocol"の略称で「ファイル転送プロトコル」などと訳されています。

オンライン・ショッピング

インターネットで世界中のいろいろな買い物を楽しむことができます。料金の支払方法はいろいろありますが、クレジットカードでの支払いが主流になっています。

その他にできること

インターネットでは、上記のほか、インターネット電話、チャット(文字によるおしゃべり)、最新のヒット曲を楽しむカラオケや、複数の人達とゲームで対戦したりすることもできます。

プロバイダーとブラウザーについて

プロバイダー

プロバイダーとは、「インターネット・サービス・プロバイダー（ISP）」のことで、インターネットへの接続を提供する業者のことを言います。一般に、個人がインターネットを利用する場合、このプロバイダーを経由しなければなりません。どこかのプロバイダーにユーザー登録（加入契約）してプロバイダーが指定した設定をパソコンで行い、指定されている電話番号に電話をかけることでインターネットに接続します。

この電話番号のことを「アクセスポイント」、電話をかけることを「ダイヤルアップ接続する」といいます。プロバイダーによって、利用料金の違いや、アクセスポイントの場所が電話料金に関係してきますので、どのプロバイダーを選ぶかは重要です。

Aptiva では、「IBM インターネット接続サービス」（ネットパスポート）にオンライン登録できるソフトウェアがプリインストールされています。（ P.90）



電話回線を使ってインターネットにアクセスした場合、プロバイダーから請求されるサービス料金のほかに使った時間分の電話料金がかかります。

ブラウザー

ブラウザーとは、ホームページをパソコンの画面上に表示するためのアプリケーション・ソフトウェアです。「www ブラウザー」と呼ばれることもあります。

ブラウザーにはいくつか種類がありますが、代表的なものに、Internet Explorer（インターネット・エクスプローラー）とNetscape Navigator（ネットスケープ・ナビゲーター）があります。

Aptiva には「Internet Explorer」（ P.107 ）がプリインストールされています。

「はじめよう Aptiva でインターネット」を見てみよう

インターネットの疑似体験をしてみよう

Aptiva では、インターネットの雰囲気味わっていただくために、IBM の運営している「あぶていばらんど」のホームページの一部を見ることができます。

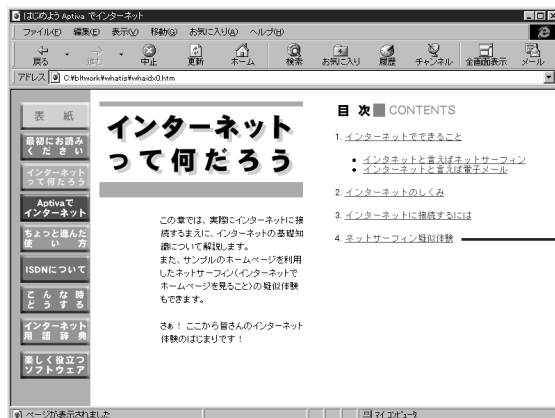
これは、プロバイダーへの加入や電話をかけることなく、擬似的に体験できますので、ぜひお試しください。

また、インターネットの疑似体験だけではなく、インターネットに関する基本的な事柄、ちょっと進んだ使い方、トラブルが起きたときの対処のしかたや用語集なども見ることができます。

- ① デスクトップの「はじめよう Aptiva でインターネット！」アイコンをダブルクリックします
メイン画面が表示されます。



- ② 「最初にお読みください」をクリックします
ここでは、オンライン・マニュアルの使い方や内容などを紹介しています。
- ③ 「インターネットってなんだろう？」をクリックします
- ④ 「ネットサーフィン疑似体験」をクリックします



ここをクリックします。

インターネットにつなぐ準備をしよう

インターネットにつなぐ前に次の準備をしましょう。

① 電話回線を接続する

Aptiva に電話回線を接続します。

電話回線を接続していない場合は、「セットアップ・ガイド」を読みながら正しく接続し、回線の種類などを正しく設定してください。(P.82)

② プロバイダーにユーザー登録する

インターネットにつなぐには、ユーザーIDとパスワードが必要です。プロバイダーにユーザー登録(加入契約)して、ユーザーIDとパスワードを入手してください。

Aptiva には、IBM のプロバイダー「IBM インターネット接続サービス」(ネットパスポート)にオンライン登録するためのアプリケーションがプリインストールされています。すでにIBMのプロバイダーや別のプロバイダーに登録してユーザーIDを持っている場合は、新しく登録をする必要はありません。

IBM のプロバイダーにユーザー登録するには

ここでは、「IBM インターネット接続サービス」へのオンライン登録のしかたを説明します。



以下のオンライン登録のしかたは、「IBM インターネット接続サービス」の拡充、改変に伴って、表示される画面が一部変更される場合があります。

① デスクトップの「IBM インターネット」アイコンをダブルクリックします

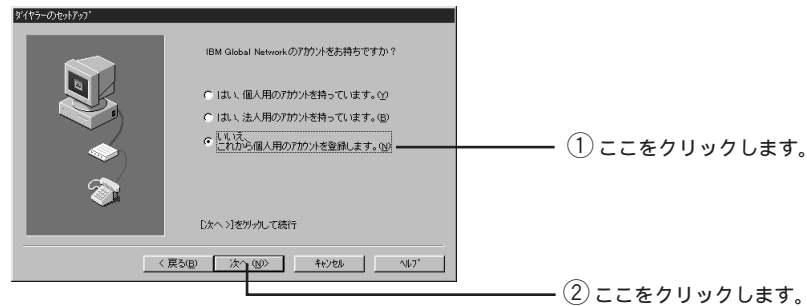


このアイコンをダブルクリックします。

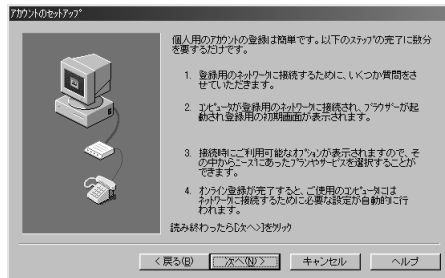
② [次へ] をクリックします



③ 「これから個人用のアカウントを登録します」を選び[次へ]をクリックします



④ 登録のステップの説明を読み、[次へ] をクリックします



⑤ Aptiva のモデムが表示されたら [次へ] をクリックします



モデル 2158 の場合は、“ Rockwell HCF 56K Data Fax PCI Modem ” と表示されます。

⑥ [ダイヤルのプロパティ] をクリックします



ここをクリックします。

⑦ 市外局番を入力し、ダイヤル方法を確認したら [OK] をクリックします
電話回線について P.82



ここに市外局番を入れます。

ここでいうキャッチホンは、日本国内で使われているものとは異なります。チェックマーク(V)が付いている場合は、ここをマウスでクリックして、チェックマークを外してください。

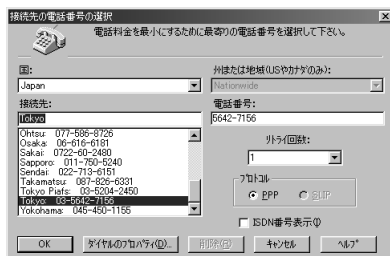
ダイヤル方法 (電話回線の種類)を確認します。

⑧ アクセスポイントの電話番号を指定するために [変更] をクリックします



ここをクリックします。

⑨ 最も近いアクセスポイントをクリックして選んだら、[OK] をクリックします



⑩ すべての指定が終わったら [次へ] をクリックします



- ⑪ オンライン登録のガイドを読み、[次へ] をクリックします
ネットワークへ接続され、Internet Explorer が起動します。
セキュリティに関する警告が表示されたら、[OK] をクリックします。

- ⑫ 内容をよく読み、[次へ] をクリックして画面を進めていきます

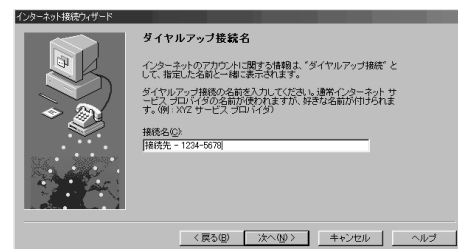
- ⑬ 名前や住所を登録し、[次へ] をクリックします

英数字は、すべて半角文字で入力してください。



- ⑭ ユーザー ID を入力し、[次へ] をクリックします

ユーザー ID は、第 1 希望から第 3 希望まで入力します。ユーザー ID の登録を行ったときに、第 1 希望と同じユーザー ID を他の人が使っているときは、第 2 希望、第 3 希望の順で調査していきます。



- ⑮ 「サービス規約」が表示されるので、よく読んだ後、同意する場合は「はい、サービス規約に同意します。」をクリックし、[次へ]をクリックします

- ⑯ クレジットカード番号などを入力し、[次へ]をクリックします



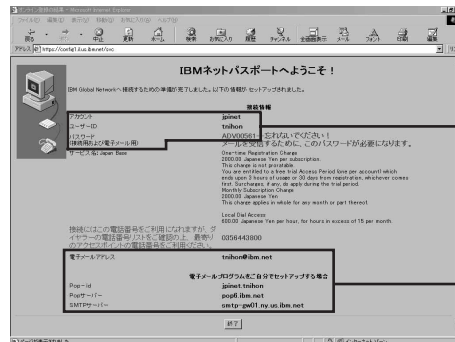
- ⑰ 内容を確認したら[実行]をクリックし、登録情報を送信します
登録情報をIBMインターネット接続サービスに送信します。登録情報の内容が確認されると、ユーザーIDとパスワードを取得できます。(数分後に画面に表示されます。)



⑬ 数分後に画面が表示されたら、内容をメモします

ここに書かれている情報は、メールの設定をするときに必要です。必ず内容をメモしてください。

プリンターを接続している場合は、ツールボタンの[印刷]をクリックし、この画面を印刷してください。(印刷された内容を必ず確認してください。)



重要です。必ず内容をメモしてください。

重要です。必ず内容をメモしてください。

⑭ [終了]をクリックしてInternet Explorerを終了し、IBM Global Network Dialerを終了します

これで、IBM インターネット接続サービスへの登録(加入契約)が完了しました。

「IBM Global Network - ログイン」ウィンドウが表示されるので、インターネットにすぐに接続したい場合は[接続]をクリックし、それ以外の場合は[キャンセル]をクリックします。



「IBM インターネット接続サービス」(ネットパスポート)の登録を解約するには

現在使用している「IBM インターネット接続サービス」のアカウント(ユーザーID)は、次のホームページから解約できます。

<http://www.ibm.net/japan/actctr/index.html>

アカウントを解約すると「IBM インターネット接続サービス」の一切のサービスが受けられなくなります。

解約するときの注意点がいくつかありますので、解約を実行する前に必ずホームページの内容を最後までよく読んでから、確実に手続きを行ってください。

電子メール (E-mail) を使えるように設定しよう

インターネットといえば電子メール (E-mail) と言われるほど、インターネットを使う人同士の連絡に非常に便利なのが「電子メール」です。電話やFAXに次ぐ新しい連絡手段として、今世界的な規模で爆発的に普及しています。では、なぜこんなにも普及が進んでいるのでしょうか？それには普通の郵便にはない利点があるからです。

- ほとんどすぐに届く
たとえば、郵便では速達を利用してもいくら早くても翌日にしか届きませんが、電子メールならば世界中のどこでもほとんど数分で届きます。
- いろいろなファイルを添付できる
ワープロや表計算ソフトで作ったファイルとか、デジタルカメラで撮った写真データなどのメールに添付して送ることができます。最近のメールソフトでは、写真などの画像をそのまま見られる形で添付できるものもあります。
- 複数の人に一度に送れる
郵便と同様に送りたい人のアドレス (宛先) を指定して送信しますが、ここに複数の人のアドレスを指定できます。パーティーのお知らせなど同じ情報を複数の人に一度に送りたい場合に便利です。

電子メールを利用するためのアプリケーションは

電子メールを利用するには、電子メールソフトが必要です。代表的なメールソフトとして、Internet Explorer に付属の「Outlook Express」、Netscape Communicator に付属の「Netscape Messenger」などがあります。

Aptiva には Outlook Express がプリインストールされています。

① タスクバーの「Outlook Express」アイコンをクリックします

はじめて Outlook Express を起動したときは、「インターネット接続ウィザード」が表示される場合があります。「既にインターネット接続の設定がこのコンピューターにあるので、今後はこのウィザードを表示しない」をクリックして[次へ]をクリックしてください。



① ここをクリックします。

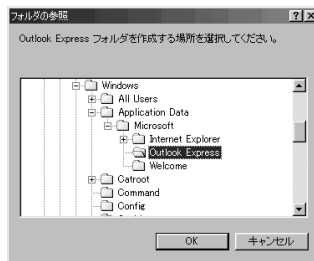
② このボタンをクリックします。

② データを保存するフォルダーを指定します

通常は、標準で指定されている「Outlook Express」フォルダーのままでかまいません。

③ [OK] をクリックします

Outlook Express が起動します。



メール・アカウントを設定するには

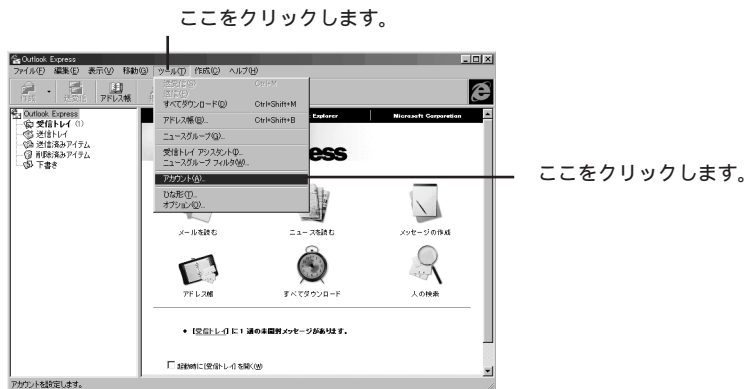
① タスクバーの「Outlook Express」アイコンをクリックします

Outlook Express が起動している場合は、そのまま次に進んでください。

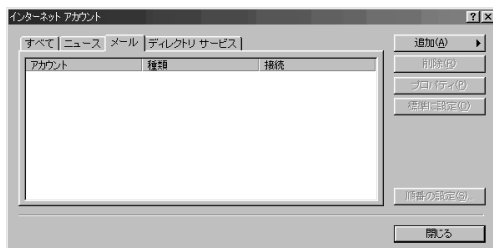


ここをクリックします。

- ② メニューバーの「ツール」をクリックし、「アカウント」を選んでクリックします



- ③ 「インターネット アカウント」ウィンドウで「メール」タブをクリックします



- ④ [追加] をクリックし、「メール」をクリックします
インターネット接続ウィザードが表示されます。



- ⑤ 自分の名前を入力し、[次へ] をクリックします



⑥ 取得した電子メール（E-mail）アドレスを入力し、[次へ]をクリックします

インターネット接続ウィザード

電子メール アドレス

電子メールのアドレスは、ほかのユーザーがあなたに電子メールを送信するために使います。このアドレスは、インターネット サービス プロバイダによって割り当てられています。

電子メール アドレス(E): Ntaro@bmn.net

例: tchofu@microsoft.com

<戻る(B) 次へ(F)> キャンセル ヘルプ

⑦ POP（受信メール）サーバー、SMTP（送信メール）サーバーのアドレスを入力し、[次へ]をクリックします

インターネット接続ウィザード

電子メール サーバー名

受信メール サーバーの種類: POP3

受信メール サーバー名を入力してください。

受信メール (POP3 または IMAP) サーバー名: xxxxx.bmn.net

SMTP サーバーは、電子メールを送信するときに使用するサーバーです。SMTP サーバー名を入力してください。

送信メール (SMTP) サーバー名: xxxxxxxxxxxxxx.bmn.net

<戻る(B) 次へ(F)> キャンセル ヘルプ

⑧ POP アカウント名（ユーザー ID）とパスワードを入力し、[次へ]をクリックします

注：SPA は選ばないようにしてください。

インターネット接続ウィザード

インターネット メール ログオン

電子メール アカウントをアクセスする際に、インターネット サービス プロバイダがセキュリティで保護されたユーザー ID とパスワード (SPA) を必要としている場合は、セキュリティで保護されたパスワード (SPA) を使用する必要があります。SPA ログインを使用しない場合は、このアカウントとパスワードで「ログオンする」をクリックしてから、アカウント名とパスワードを入力してください。

G 次のアカウントとパスワードでログオンする(L)

POP アカウント名(A): Ntaro

パスワード(P): *****

(入力するパスワードは表示されません)

C セキュリティで保護されたパスワード (SPA) を使用する(S)

<戻る(B) 次へ(F)> キャンセル ヘルプ

注：SPA は選ばないようにしてください。

⑨ メール アカウントの名前を入力し、[次へ]をクリックします
ここで入力した名前が Outlook Express で表示されます。

インターネット接続ウィザード

メール アカウント名

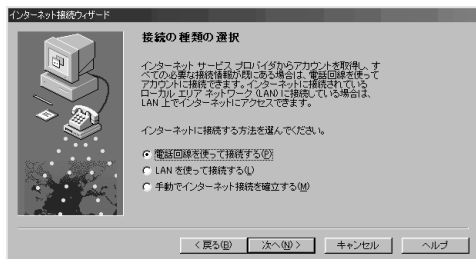
インターネット メール アカウントの情報はまとめられ、名前が付いています。この名前は好きな名前を付けることができます。

電子メール アカウントの名前を入力してください。

インターネット メール アカウント名(A): xxxxx.bmn.net

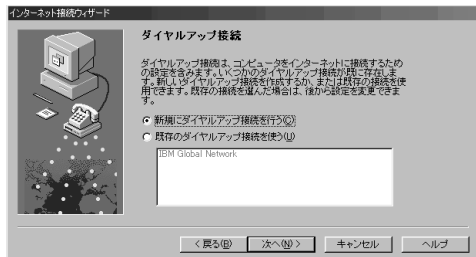
<戻る(B) 次へ(F)> キャンセル ヘルプ

⑩ 「電話回線を使って接続する」をクリックし、[次へ]をクリックします



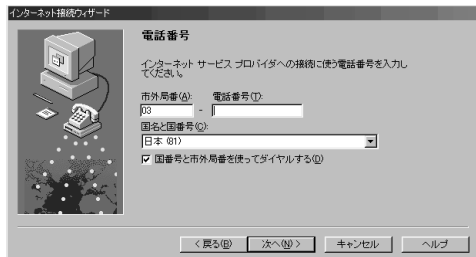
⑪ IBMインターネット接続サービスに加入した場合は、「既存のダイヤルアップ接続を使う」をクリックし、下の表で「IBM Global Network」をクリックします。
[次へ]をクリックすると⑫に進みます。

IBMインターネット接続サービス以外のプロバイダーに加入している場合は、「新規にダイヤルアップ接続を行う」をクリックし、[次へ]をクリックします。

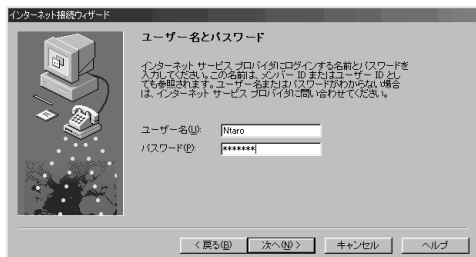


⑫ 市外局番、電話番号を入力し、[次へ]をクリックします

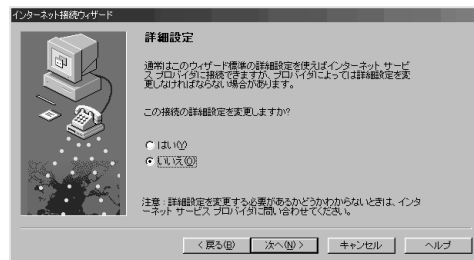
国名と国番号が「日本(81)」になっていることを必ず確認してください。



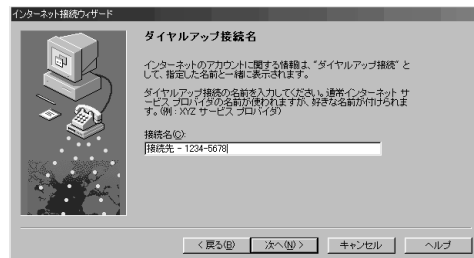
⑬ ユーザー名(ユーザーID)とパスワードを入力し、[次へ]をクリックします



14 「いいえ」をクリックし、[次へ]をクリックします

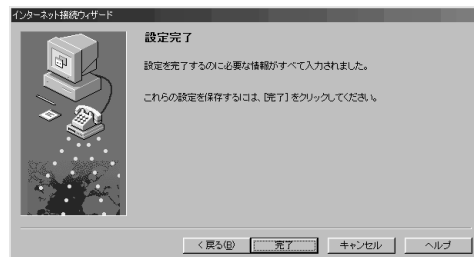


15 ダイヤルアップ接続名を入力し、[次へ]をクリックします



16 [完了]をクリックします

「インターネット アカウント」ウィンドウの「メール」タブの中に、設定したアカウントが追加されます。



[プロパティ] ボタンをクリックすると、設定の確認、修正ができます。
[閉じる] ボタンをクリックすると、ウィンドウが閉じます。

「IBM インターネット接続サービス」の場合は、以下の設定を必ず行ってください。

17 メールアカウントを選択し、[プロパティ]をクリックします

① ここを選びます。



② このボタンをクリックします。

18 「接続」タブをクリックし、「接続」のところの「Internet Explorerまたは他社のダイヤラー」をクリックします

「IBM インターネット接続サービス」の場合、この設定は必ず行ってください。



① このタブをクリックします。

② ここをクリックします。

19 [適用] をクリックし、[OK] をクリックします

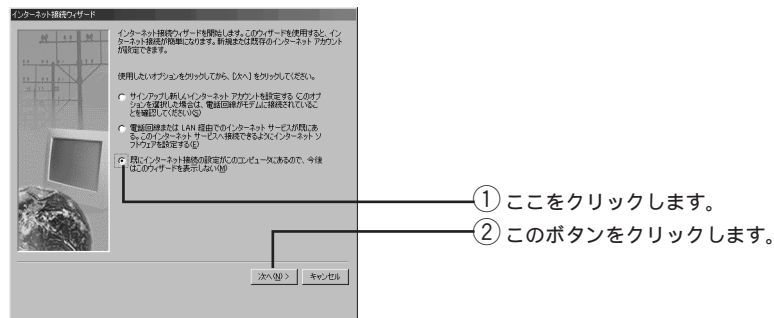
インターネットに接続するには

ユーザーIDとパスワードを取得したら、いよいよインターネットに接続です。インターネットの情報を見るためには、ブラウザと呼ばれるソフトウェアが必要です。Aptivaには「Internet Explorer」がプリインストールされています。

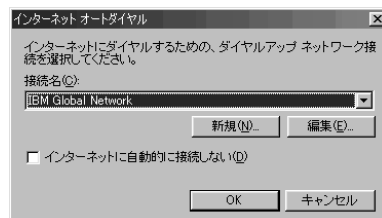
① タスクバーの「Internet Explorer」アイコンをクリックします



② 次の画面が表示された場合は、「既にインターネット接続の設定がこのコンピュータにあり、設定を変更しない」をクリックします メッセージが表示され、ウィザードが終了します。



③ 「インターネット オートダイヤル」の画面が表示されたら、接続名を「IBM Global Network」に設定し、[OK] をクリックします この画面は、最初に起動したときのみ表示されます。



④ ユーザー名(ユーザー ID)とパスワードを入力し、[接続] をクリックします



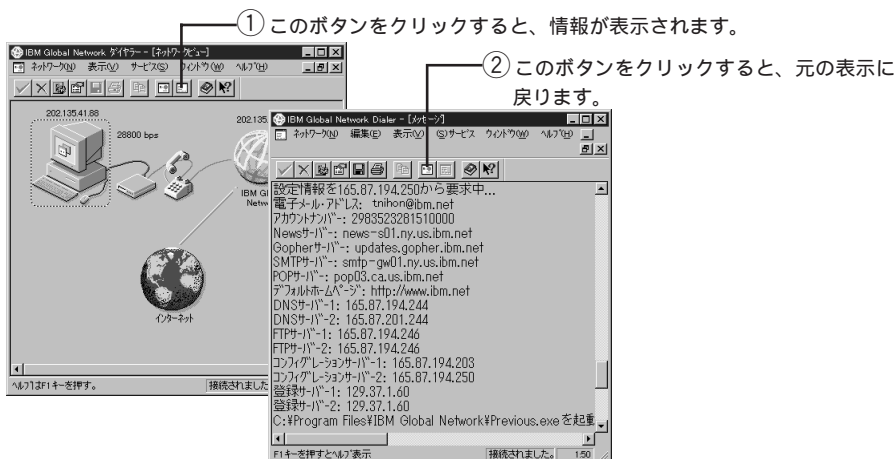
画面は実際のものとは一部異なる場合があります。

インターネット接続サービスにつながると、ユーザーIDとパスワードが確認された後に接続のメッセージが表示されます。接続のメッセージが表示された後はInternet Explorerが使えるようになります。

このまま、インターネットでネットサーフィンをする場合は、「インターネットを楽しもう」(P.99)に進んでください。

情報を表示するときは

接続後、「News サーバー」のアドレスなどの情報を表示するときは、「IBM Global Network Dialer」のツールバーにある右から3つ目のボタンをクリックします。右から4つ目のボタンをクリックすると、元の表示に戻ります。



接続を終了するには

Internet Explorer を使い終わったら、接続を終了します。
終了のしかたは、次の手順で行います。

① Internet Explorerを終了します

Internet Explorer のウィンドウの右上隅 [×] (閉じる) をクリックして、Internet Explorer を終了します。



② 「インターネット接続サービス」への接続を終了します

インターネット接続サービスへの接続を終了するには、ネットワークウィンドウの

 (切断) ボタンをクリックします。



③ [はい] をクリックします



④ IBM Global Network Dialer ウィンドウ右上の [×] (閉じる) をクリックして終了します



このボタンをクリックします。

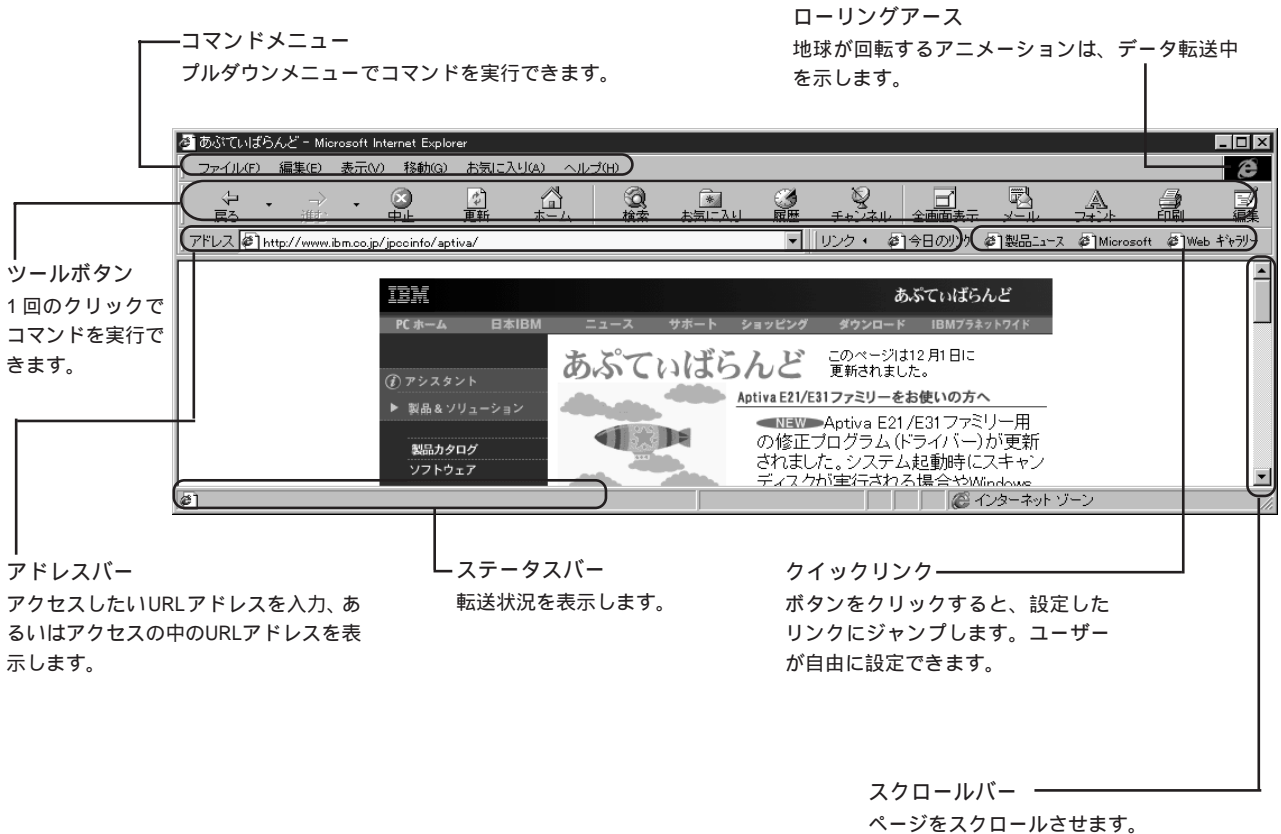
インターネットを楽しもう

ここでは、Internet Explorer を使ってネットサーフィンをしてみましょう。

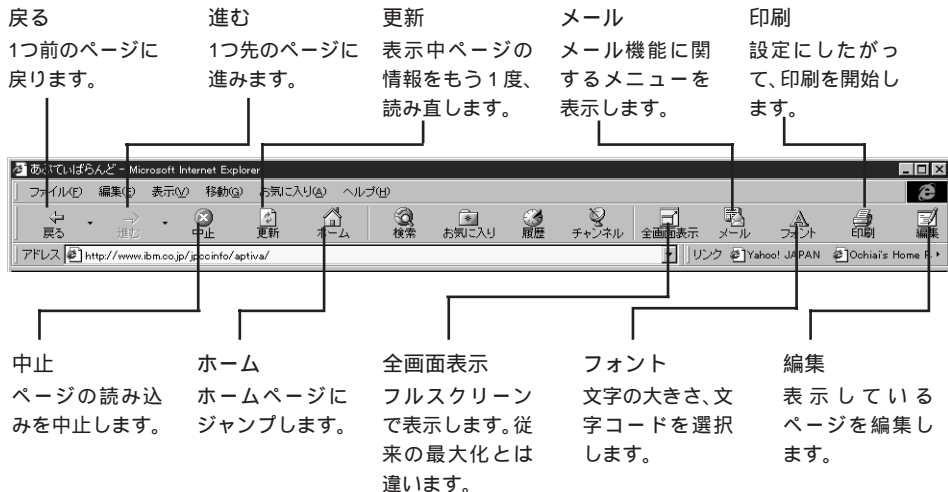
Internet Explorerはこうなっている

よく使う機能について簡単に説明します。

ウィンドウの各機能



ツールボタン



アドレスを指定してホームページを見るには

インターネット上のさまざまなホームページにアクセスするには、次のように行います。

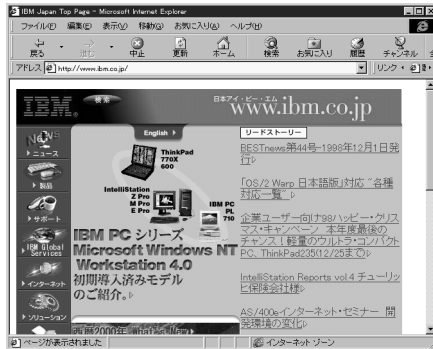
- 1 マウスポインターを「アドレス」の欄に置いてクリックします
現在のアドレスが反転表示します。



- 2 アクセスしたいホームページのアドレスを入力します

日本アイ・ビー・エムのホームページ・アドレス <http://www.ibm.co.jp/> を入力してみましょう。アドレスは必ず、半角文字で入力してください。

- ③ **Enter** キーを押します
指定したホームページが表示されます。



文字などの上にマウスポインターを置くと、ポインターが手のマークになるところがあります。そこをクリックすると、そこから他の情報へ飛ぶことができます。



アドレス（URL）についてのヒント
おおよそのルールは、次のようになっています。

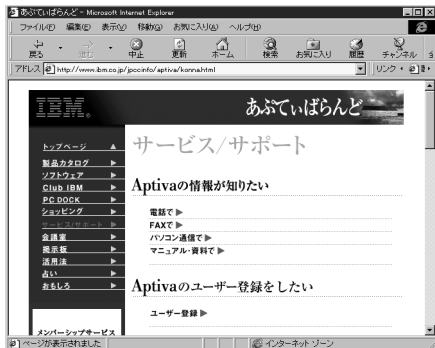
- 日本の企業・……………http://www.企業名.co.jp （例：http://www.ibm.co.jp）
- 米国の企業・……………http://www.企業名.com （例：http://www.ibm.com）
- 日本の団体・組織・……………http://www.組織・団体名.or.jp（例：http://www.nhk.or.jp）
http://www.組織・団体名.ne.jp*
- 日本の大学、教育機関・…http://www.大学名.ac.jp（例：http://www.u-tokyo.ac.jp）
- 学校・……………http://www.学校名.edu（例：http://www.stanford.edu）

* 従来、インターネット・プロバイダーやパソコン通信サービスのアドレスには、「or.jp」が割り当てられていましたが、新たに「ne.jp」が割り当てられるように変更されました。

Aptivaのホームページ「あぶていばらんど」

Internet Explorerの「アドレス」欄に <http://www.ibm.co.jp/pc/aptiva/index.html> と入力し、**Enter** キーを押すと、「あぶていばらんど」のページが表示されます。

「あぶていばらんど」の画面で「サービス/サポート」をクリックすると、困ったときにどこに連絡したらいいかなど、Aptivaに関するサポート情報を得ることができます。



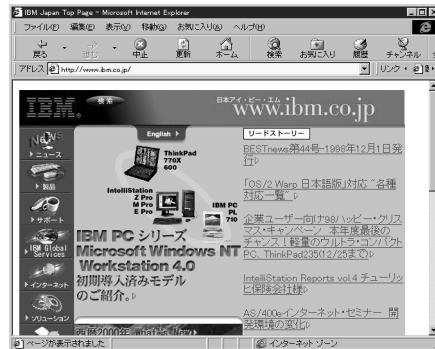
また「Aptivaの操作に困ったら」の中の「お客様相談センターQ & A」には、IBM お客様相談センターに寄せられたお問い合わせなどが集められています。問題解決のためのヒントとしてご覧ください。

「日本アイ・ピー・エム」のホームページ

Internet Explorerの「アドレス」欄に <http://www.ibm.co.jp/> と入力し、**Enter** キーを押すと、日本アイ・ピー・エムのホームページが表示されます。英字は必ず半角文字で入力してください。

「あぶていばらんど」のホームページの上方にある「日本IBM」をクリックしても、日本アイ・ピー・エムのホームページが表示されます。

ここをクリックします。



検索サービスを使うには

膨大なインターネット情報の中から欲しい情報が掲載されているページを探し出す「検索ページ」を利用してみましょう。ここでは、代表的な「Yahoo(ヤフー)」を使って情報検索をしてみます。

- 1 Yahoo! のアドレス <http://www.yahoo.co.jp/> を入力し、**Enter** キーを押します
Yahoo! のメイン・ウィンドウが表示されます。



- 2 検索のためのキーワードを入力して、**[検索]** ボタンをクリックします

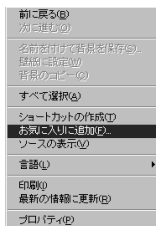
「Yahoo!」では、このようにキーワードで検索するほかに、画面の青字の項目を次々にクリックしながら、興味のある情報に近づいていくこともできます。

「Yahoo!」以外にもいろいろな検索ページがあり、それぞれに特長があります。検索ページを上手に使うと、必要な情報を素早くたくさん集めることができるようになります。いろいろと試してみてください。

「お気に入り」に追加するには

一度読み込んだページを「お気に入り」に追加することで、次回からはアドレスを指定しなくても、「お気に入り」リストからそのページを選ぶだけで読み込むことができます。ページを「お気に入り」に追加すると、「お気に入り」リストにページの名前が登録されます。

- ① 「お気に入り」に追加したいページを表示させます
- ② ウィンドウのどこかで右クリックをし、表示されたメニューの中から「お気に入りに追加」を選んでクリックします
「お気に入り」リストに、現在表示されているページの名前が追加されます。

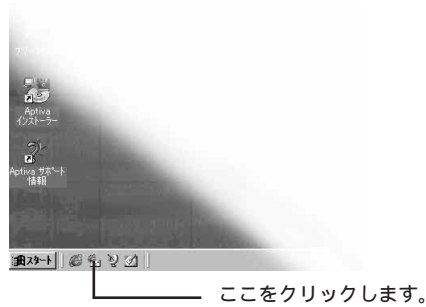


- ③ 「お気に入りの追加」ウィンドウで [OK] をクリックします。

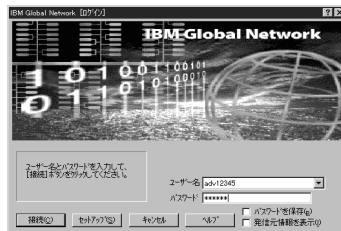
電子メール（E-mail）を送ってみよう

新規電子メールを送るには

- ① タスクバーの「Outlook Express」アイコンをクリックします



- ② 「接続」ウィンドウが表示されたら、[キャンセル]をクリックします



- ③ スタート・ページの「メッセージの作成」アイコンをクリックします
または、[作成] ボタンをクリックします。



④ メールの宛先（アドレス）と件名を入力します



ここに宛先を入力します。

ここに件名を入力します。

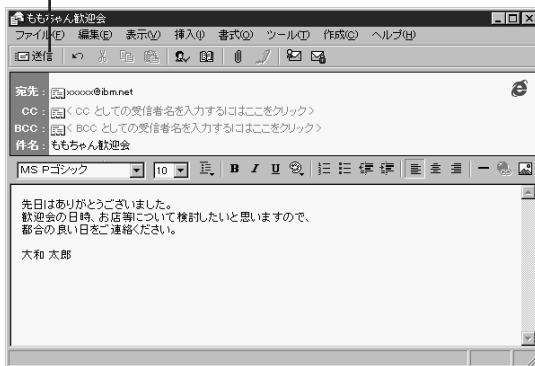


CCはカーボン・コピーの略で、参考として同じメールを送りたいときに、ここにそのアドレスを入力します。
BCCはブラインド・カーボン・コピーの略で、CCと同じように参考コピーを送りますが、アドレスを表示しないで送信するため、他の誰に送信したのか明記されません。

⑤ 本文を入力し、[送信]をクリックします

送信したメールは、[送受信]をクリックするまで「送信トレイ」に一時保存されません。

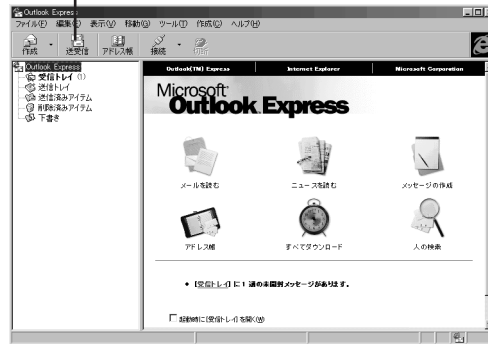
このボタンをクリックします。



複数のメールを作成した場合、あとでまとめて送ることができます。「ファイル」メニューから「後で送信する」を選んでクリックすると、メールが「送信トレイ」に保存されます。「送信トレイ」に保存されたメールを送信するには、[送受信]をクリックします。

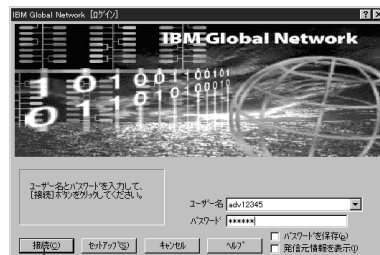
電子メールを送受信するには**① [送受信] をクリックします**

このボタンをクリックします。

**② 「ログイン」 ウィンドウが表示されたら、[接続] をクリックします**

「IBM Global Network ダイアラー」がOutlook Expressのウィンドウの後ろに隠れている場合は、タスクバーから選択して前面に表示させます。

ダイヤルアップ接続が始まります。



このボタンをクリックします。

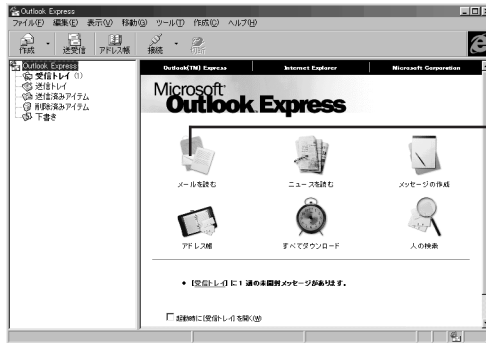
接続後、メールの送信、受信が自動で行われます。

③ [切断] ボタンをクリックします

「IBMインターネット接続サービス」を利用している場合は、「IBM Global Network」で切断してください。(P.105)

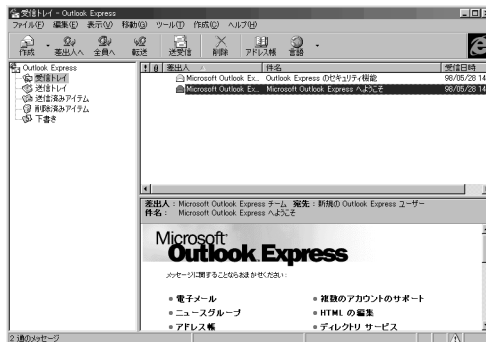
受信した電子メールを読むには

- ① スタート・ページの「メールを読む」アイコンをクリックします
または、フォルダー一覧から「受信トレイ」をクリックします。



ここをクリックします。

- ② メッセージをダブルクリックします



ファックス、電話機能を使ってみよう

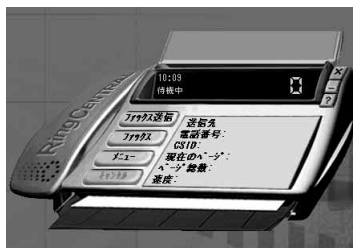
Aptivaで電話をかけたり、電話を受けたり、Aptivaを自宅の電話回線につなぐだけで、Aptivaが「留守録・ファックス付き電話」になります。(モデル2158はファックス機能のみです。)

Aptivaでファックスを送ったり、ファックスを受信したりできます。

家にファクシミリがなくても、Aptivaを電話回線につなぐだけで、「RingCentral(リングセントラル)」というアプリケーションがファックスの送受信を行ってくれます。

パソコンのファクシミリってどんなこと？

普通のファクシミリでは、紙に書いたものを送信して、受信するときもファクシミリ用紙に出力されます。「RingCentral」は、Aptivaのアプリケーションで作成した絵や文書のデータ・ファイルをそのままファクシミリのデータとして送ります。手紙や地図など、いったん作成したデータを保存しておけば、同じものを別の人に送ったり、また、ほかの人から受信したデータを保存して別の人に送ったりすることもできます。Aptivaはペーパーレスのファクシミリといえるでしょう。



初めて使うときは

ファックス、電話機能を使うときは、まずセットアップ(設定)を行います。一度セットアップを行えば、後は何もする必要はありません。設定した内容は、後で変更することもできます。

- ① デスクトップの「Aptiva テレフォンセンター」アイコンをダブルクリックします



このアイコンをダブルクリックします。

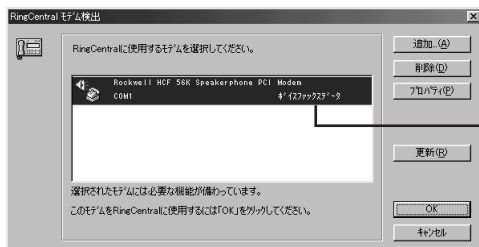
「RingCentral セットアップ・ウィザード」が表示されます。

② [次] をクリックします

RingCentralがモデムの情報を取り込み、モデムを検出します。



③ 使用するモデムが“ Rockwell HCF 56K...”になっていることを確認して、[OK] をクリックします



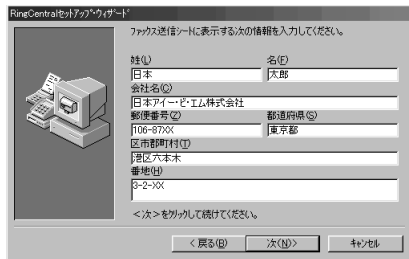
モデル2158の場合は、“Rockwell HCF 56K Data Fax PCI Modem” と表示されます。

④ [次] をクリックします



⑤ ファックス送信シートに表示する情報を入力し、[次] をクリックします

ここで入力した情報は、ファックス送信シート（ファックス用の表紙）に表示されます。英数字は半角文字で入力してください。



画面は一例です。

⑥ 住所に関する情報を入力し、[次]をクリックします

RingCentral セットアップウィザード

現在の住所に関する情報を入力してください。

国名
[日本(81)]

市外局番(市)
03

内線発信で使用する番号(例00)(市)
[]

この接続口は、このサービスのサポートが受けません。090
この機能を解除する場合は以下の番号をダイヤルしてください。

電話の種類
 トーンダイヤル パルスダイヤル

<次>をクリックして続けてください。

<戻る(B)> **次(N)>** キャンセル

英数半角文字で入力してください。

ここでいうキャッチホンは、日本国内で使われているものとは異なります。チェックマーク(v)が付いている場合は、ここをマウスをクリックして、チェックマークを外してください。

「トーン・ダイヤル」または「パルス・ダイヤル」を正しく設定してください。(回線については、P.82を参照してください。)

入力後 [次] をマウスでクリックします。

⑦ 電話番号などを入力し、[次]をクリックします

番号は、英数半角文字で入力してください。

RingCentral セットアップウィザード

次の情報を入力してください。

国番号(市)
81

自宅電話番号(市)
03 234-5678

勤務先電話番号(市)
03 2345-6789

ファックス番号(市)
03 234-5678

<次>をクリックして続けてください。

<戻る(B)> **次(N)>** キャンセル

電話番号やファックス番号を入れます。

番号を入力すると [次] が表示されるので、マウスでクリックします。

市外局番を入れます。

⑧ このまま [次] をクリックします

ここでは何も入力しないでください。

RingCentral セットアップウィザード

電子メールを使用の場合は、次の情報を入力してください。

インターネット電子メールアドレス

インターネットの標準アドレスを入力してください。
(例: johnsmith@business.com)

[]

<次>をクリックして続けてください。

<戻る(B)> **次(N)>** キャンセル

- ⑨ 今まで入力してきた情報を確認し、[次]をクリックします
 情報を修正する場合は[戻る]をクリックし、前の画面に戻して修正します。

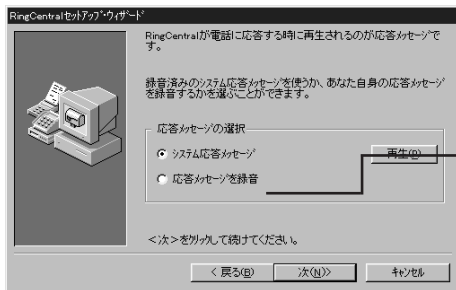


- ⑩ リモートアクセス機能を使う場合は、数字で4桁のパスワードを入力して[次]をクリックし、すぐにこの機能を使わない場合は、このまま何も入力しないで[次]をクリックします(注: モデル2158にはこの設定はありません)
 リモートアクセス機能では、外から留守番電話のメッセージを聞いたり、メールボックスへアクセスすることができます。



4桁のパスワードは英数半角文字で入力してください。
 4桁のパスワードは、“0”からはじまるパスワードにしないでください。
 また、パスワードは、生年月日や電話番号など、他人が簡単に推測できるようなものにしないでください。

- ⑪ 「システム応答メッセージ」になっていることを確認して[次]をクリックします(注: モデル2158にはこの設定はありません)
 応答メッセージは後から録音できます。



この項目に黒丸印が付いています。付いてない場合は、クリックして黒丸印を付けてください。

12 [次] をクリックします

設定は後で変更できます。



13 [次] をクリックします

スタートアップのフォルダーに追加すると、Windows 98を起動したときにリングセントラルが起動し、すぐに使うことができます。設定は後でもできます。



14 [終了] をクリックします

これで、リングセントラルのセットアップ（設定）は完了です。

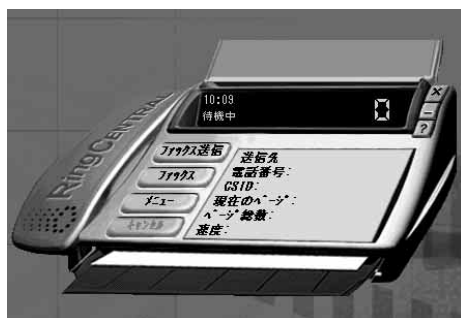


「リングセントラル」が起動します。

メイン・ウィンドウ



RingCentralの画面デザインは、実際のものとは一部異なる場合があります。



モデル 2158の場合



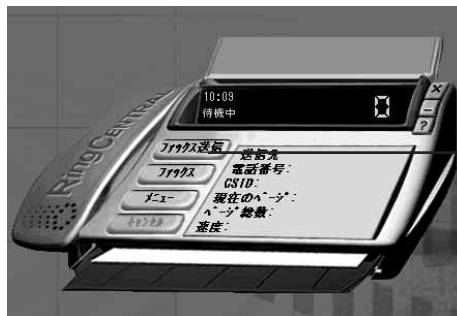
今回設定した内容を後で変更する場合は、RingCentralを起動してから、メイン画面の「メニュー」をクリックして「セットアップ・ウィザード」を起動してください。

ファックスを送信してみよう

RingCentralの「クイック・ファックス」を使ってファックスを送信してみましょう。クイック・ファックスとは、ファックス送信シート（ファックス用の表紙）1枚だけの簡単なファックスです。あらかじめ登録されているファックス送信シートのコメント欄に、送りたいコメントを入力して送信します。

① [クイック・ファックス] をクリックします

モデル 2158 の場合は [ファックス送信] をクリックします。

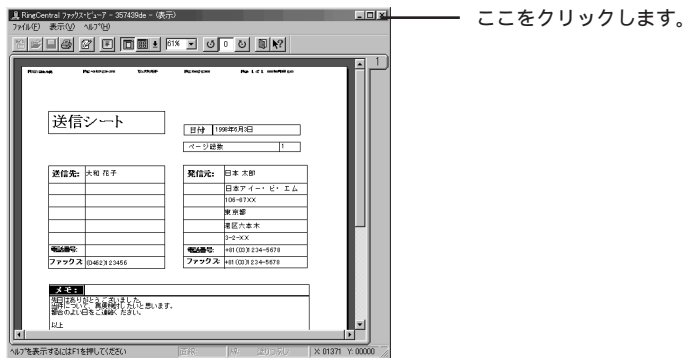


② 宛先名、FAX 番号、ファックスの送信メッセージを入力し、[編集] をクリックします



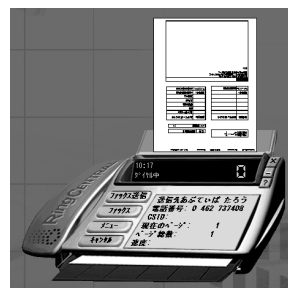
③ 内容を確認したら [X] をクリックしてウィンドウを閉じます

内容を変更したい場合は、「ファックス送信」ウィンドウに戻ってから手直しします。



④ [ファックス送信] をクリックします

ファックスが送信されます。



モデル 2158 の場合

ファックスを受信してみよう（手動受信）

ファックスの受信には、通常の受信と手動受信があります。通常、RingCentralを起動していれば、相手から送られてきたものを自動的に受信します。手動受信では、自分でダイヤルして一般のファックス情報などを取り寄せることができます。

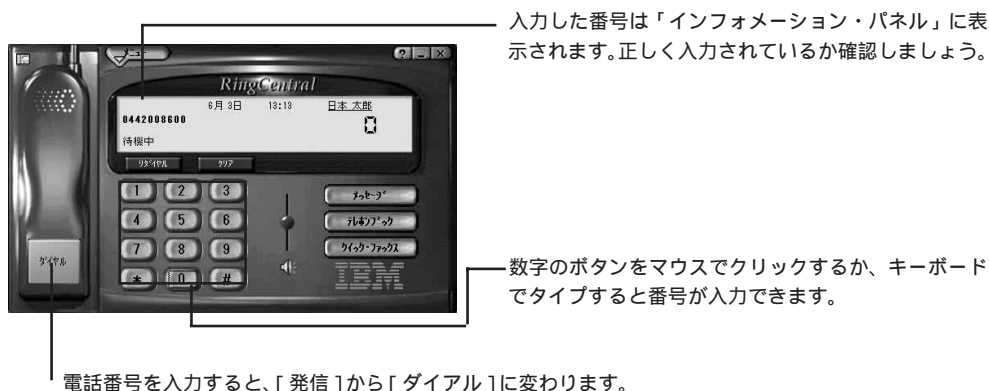
ここでは、IBMのFAXサービスに電話をして、ファックス情報を取り寄せてみましょう。



IBM FAX サービスは、IBM 製品の情報をファックスで提供しています。ファクシミリから IBM FAX サービスの電話番号（044-200-8600）に電話し、コード番号を入力すればファックスを受信して情報を取り出せます。

モデル2158 以外での操作

- ① デスクトップの「Aptiva テレフォンセンター」アイコンをダブルクリックします
メイン・ウィンドウが表示されます。
- ② 「0」「4」「4」「2」「0」「0」「8」「6」「0」「0」の順に、数字のボタンをクリックします
IBM FAXサービスの電話番号を、数字のボタンをマウスでクリックするか、またはキーボードでタイプして入力します。



- ③ 電話番号を正しく入力したことを確認したら、[ダイヤル]をクリックして電話をかけます



RingCentralの画面デザインは、実際のものとは一部異なる場合があります。

[ダイヤル] をマウスでクリックして電話をかけます。

インフォメーション パネルに「接続中」が表示され、スピーカーから電話の呼び出し音が出ます。

スピーカーから電話の呼び出し音が聞こえないときは、スピーカーのボリュームを上げてみましょう。



電話がつながるとすぐに、IBM FAX サービスの音声メッセージが聞こえます。音声メッセージが聞こえてこない場合は、[切る]をクリックして電話を切り、もう一度かけ直してみましょう。

電話がつながり、「IBM FAX サービス」の女性の音声メッセージがスピーカーから聞こえてきます。

- ④ 「操作方法がお分かりになる方は、... (中略)...ではどうぞ」というメッセージのあとに「ピッ」という発信音が聞こえたら、「0」「#」をクリックします

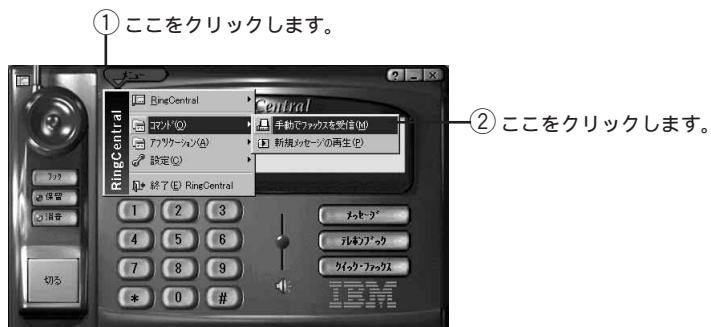
「0」はコード番号です。

発信音が聞こえにくい場合があります。数秒待っても発信音が聞こえない場合は、そのまま数字と#を入れてください。

- ⑤ 「2つ目のコード番号と... (中略)...ではどうぞ」というメッセージのあとに「ピッ」という発信音が聞こえたら、「9」「#」をクリックします

発信音が聞こえにくい場合があります。数秒待っても発信音が聞こえない場合は、そのまま数字と#を入れてください。

- ⑥ 「FAX送信を始めます。スタート・ボタンを押してください」というメッセージのあとに「ピッ」という発信音が聞こえたら、[メニュー]をクリックし、「コマンド」から「手動でファックスを受信」をクリックします



「受信中」の画面が現れ、「受信中ページ 1」に変わります

- ④ でコード番号「0 #」を選んだとき、送信されてくるファックスは1ページで終わりです。



受信が完了すると、この画面は消えます。

モデル 2158 での操作

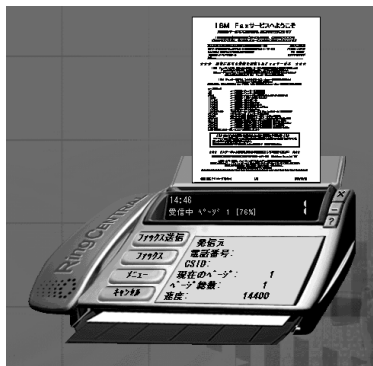
次の操作は、プッシュホン式の電話機を Aptiva に接続した状態で行ってください。

- ① デスクトップの「Aptiva テレフォンセンター」をダブルクリックします
- ② Aptiva に接続した電話機の手受器をオフフック（持ち上げる）します

- ③ 電話機のダイヤルボタンで「0」「4」「4」「2」「0」「0」「8」「6」「0」「0」の順にダイヤルし、「IBM FAX サービス」に電話をかけます
電話がつながり、「IBM FAX サービス」の女性の音声メッセージが受話器から聞こえます。
- ④ 「操作方法がお分かりになる方は、…(中略)…ではどうぞ」というメッセージのあとに「ピッ」という発信音がきこえたら、「0」「#」をダイヤルします
- ⑤ 「2つ目のコード番号と…(中略)…ではどうぞ」というメッセージのあとに「ピッ」という発信音がきこえたら、「9」「#」をダイヤルします
- ⑥ 「FAX送信を始めます。スタート・ボタンを押してください」というメッセージのあとに「ピッ」という発信音が聞こえたら、Aptivaの画面上のRingCentralの「メニュー」ボタンをクリックします
- ⑦ 「コマンド」メニューから「手でファックスを受信」をクリックします



- ⑧ モデムが応答を開始し、「ビー」という音が受話器から聞こえたら、静かに受話器をオンフック（受話器を戻す）します
FAX 受信が始まります。



受信したファックスを表示するには

受信が終了したら、受信内容を確認しましょう。

① [メッセージ] ボタンをクリックします

モデル 2158 の場合は、[ファックス] ボタンをクリックします。



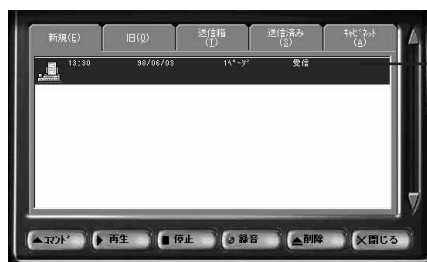
このボタンをマウスでクリックします。



このボタンをマウスでクリックします。

モデル 2158 の場合

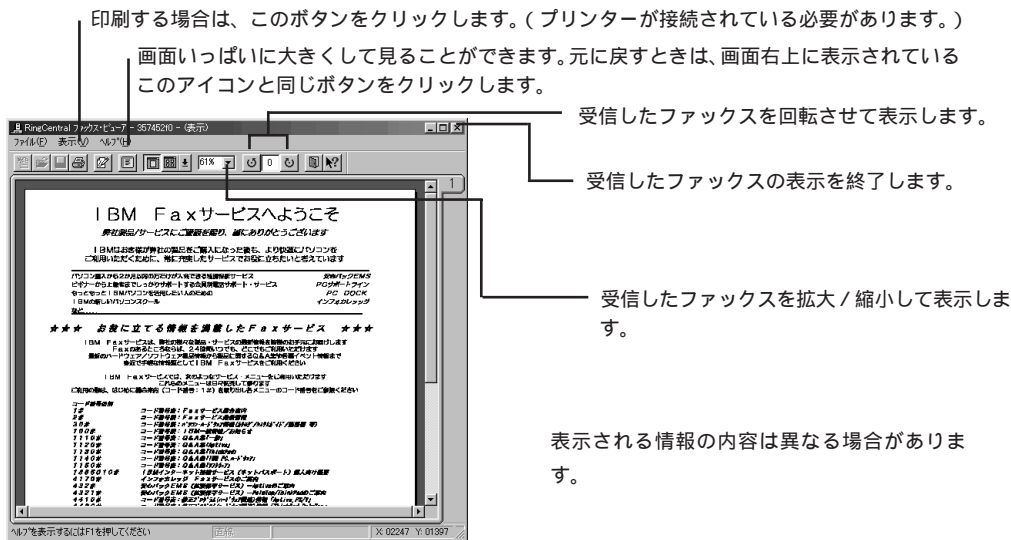
② 受信したファックスにマウスポインターを合わせ、ダブルクリックします



ここをダブルクリックします。

「RingCentral ファックス・エディター」が起動し、受信した内容を画面に表示します。

ファックス、電話機能を使ってみよう



- ③ 右上の [×] (閉じる) をクリックし、受信したファックスの表示を終了します。一度画面に表示した受信ファックスは、「旧」フォルダーに入ります。再び内容を表示したいときは、「旧」フォルダーのタブをクリックし、表示したいものを選んでダブルクリックしてください。

- ④ [閉じる] をクリックします



どうでしたか？うまく「IBM FAX サービス」からファックスが受信できたでしょうか。うまくできなかったときは一度リングセントラルを終了して、もう一度最初からよく読んでチャレンジしてみましょう。

電話をかけてみよう

注：モデル2158 では、この機能は使えません。

Aptiva で通常の電話のように、ダイヤルして通話することができます。

- ① デスクトップの「Aptiva テレフォンセンター」アイコンをダブルクリックします
- ② 「待機中」のメッセージが表示されていることを確認し、RingCentralのダイヤルパッドの数字ボタンを相手の電話番号順にクリックしていきます
ここでは、「1」「1」「7」に電話して時報を聞いてみましょう。



間違えてダイヤルした場合は、[クリア]をクリックします。電話番号の一桁を削除するときは[クリア]をクリックし、すべて削除するときはダブルクリックします。

- ③ 入力が終わったら [ダイヤル] をクリックします

電話がつながると、マイクを使って通常の電話と同じように話することができます。ここでは、117の時報にダイヤルしたので、時報が聞こえます。



ここをクリックします。

- ④ 終了するときは、[切る] をクリックします



ここをクリックします。

電話を受けてみよう

注：モデル2158 では、この機能は使えません。

携帯電話など、別の番号から Aptiva に電話をかけて応答してみましょう。

① Aptiva の電話番号に電話をかけます

電話がかかってくると、呼び出し音が鳴ります。

② RingCentral の受話器のボタンが「応答」に変わるので、このボタンをクリックして会話を始めます



ここをクリックします。



このボタンは、待機中のときは「発信」、電話番号をダイヤルしているときは「ダイヤル」、電話が鳴っているときは「応答」に変わります。

③ 終了するときは、[切る] をクリックします

留守番電話を使ってみよう

注：モデル2158 では、この機能は使えません。

Aptivaを留守番電話として使うことができます。留守録に残されたメッセージは保管しておくこともできます。

応答メッセージを設定するには

Aptivaを留守番電話として使うには、まず応答メッセージを設定します。応答メッセージは初期設定としてすでにRingCentralに用意されているもの（システム応答メッセージ）がありますが、お客さまご自身の声を録音して独自のものを設定することもできます。

① [メニュー] をクリックし、「設定」から「応答メッセージ」をクリックします



② [再生] をクリックし、現在選択されているシステム応答メッセージを聞いてみます

③ 次のどちらかを選びます

- A) このシステム応答メッセージを使う場合
ウィンドウ右下の [閉じる] をクリックします。

これで、応答メッセージの設定は完了です。

- B) 応答メッセージを自分用のものに変える場合
[録音] をクリックします。

マイクを使って留守電の応答メッセージを録音します。



ここをクリックします。

メッセージの録音を終了したら [停止] をクリックします。

再生してメッセージを確認します。

[コマンド] をクリックし、メニューから「デフォルト」をクリックします。

録音したメッセージを留守電の応答メッセージとして設定します。



ここをクリックします。

ここをクリックします。

[閉じる] をクリックします。

これで応答メッセージの設定は完了です。

留守番電話にセットするには

かかってきた電話に留守電が応答するように設定するには、次の手順で行います。

- ① [メニュー] をクリックし、「設定」から「オプション」をクリックします



- ② 「応答」タブをクリックします

- ③ 「応答オプション」欄から留守番電話を選び、[OK] をクリックします
これで留守番電話がセットされました。

**留守番電話のメッセージを聞くには**

留守中に録音されたメッセージを聞くには、次の手順で行います。

まず、別の電話（携帯電話など）から Aptiva に電話をかけて留守番電話にメッセージを録音しましょう。メッセージが残されると、「待機中」の表示の右端にメッセージの数が点滅します。

① [メッセージ] をクリックします



ここをクリックします。

② 「新規」タブのメッセージの中から再生したいメッセージをクリックして選び、
[再生] をクリックします



ここをクリックします。いくつかメッセージが入っているときは、再生したいメッセージを選んでクリックします。

ここをクリックします。

メッセージの再生が終了すると、次のウィンドウが表示されます。必要なら相手の名前などをタイプして保存したり、保存する必要がないのなら [削除] をクリックして削除することもできます。



RingCentralには、ほかにも便利な機能があります。詳しくは、[メニュー] をクリックして「RingCentral」から「RingCentralヘルプ」をクリックしてください。

③ 終了したら [閉じる] をクリックします

第3章

Aptiva 活用情報



お客様登録（ユーザー登録）をするには

IBMでは、Aptivaをお買い上げいただいたお客様にさまざまな情報やサービスを提供しています。ここでは、お客様登録をオンライン（フリーダイヤル）で行う方法について説明します。

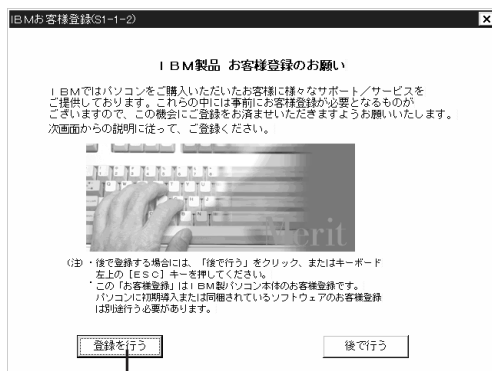
お客様登録を始める前に、あらかじめインターネット接続サービスを行っているプロバイダーに登録（加入契約）して電子メール（E-mail）アドレスを取得されていることをお勧めします。

- ① 電話回線がつながっていることを確認します
- ② デスクトップの「IBM お客様登録」アイコンをダブルクリックします



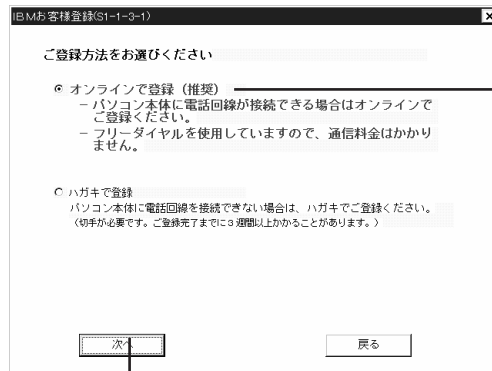
このアイコンをダブルクリックします。

- ③ [登録を行う] をクリックします



このボタンをクリックします。

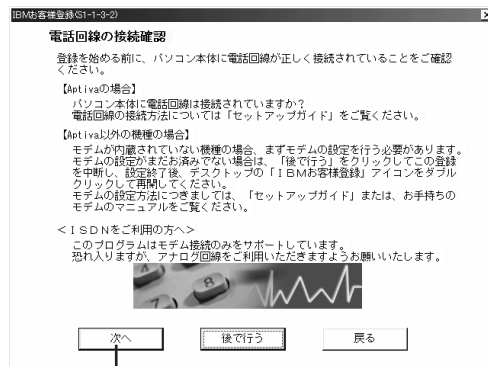
**④ 登録方法を選ぶ画面で、「オンラインで登録」が選ばれていることを確認して、
[次へ] をクリックします**



この項目に黒丸印が付いています。

ここをクリックします。

⑤ [次へ] をクリックします



このボタンをクリックします。

⑥ 数画面表示されるので、画面に従って進めていきます

7 必要な情報を入力し、[次へ]をクリックします

各項目に移るときは、キーボードのタブキーを押します。
英数字はすべて半角で入力してください。（番地は除く）

（以降の画面は一例です。）

ここは、例にならって全角で入力してください。
その他の英数字はすべて半角で入力してください。
@マークの前の部分にユーザー IDが入ります。

8 続けて必要な情報を入力し、[次へ]をクリックします

英数字はすべて半角で入力してください。
機種名および機械番号は、ハイフン（-）なしの7桁で入力してください。

プリンターを使うには

Aptiva にカラー・プリンターをつなぐと、カラーの絵や文書が印刷できるようになります。これで年賀状や暑中見舞いを自分でデザインして印刷することができるようになります。

プリンターは、プリンター・ケーブルで Aptiva 本体と接続した後に、プリンターに付いている Windows 98 用のプリンター・ドライバー（プリンターを動かすためのソフトウェア）を Aptiva にインストールすれば使えるようになります。

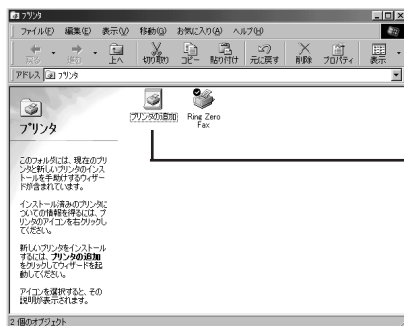
プリンター・ドライバーをインストールするには

ここでは、プリンター・ドライバーのインストールのしかたについて、概要を説明します。詳しくは、プリンターに付いてくるマニュアルをお読みください。画面の進め方は、[次へ]をクリックしていきます。

- ① [スタート] ボタンをクリックし、「設定」から「プリンタ」を選んでクリックします

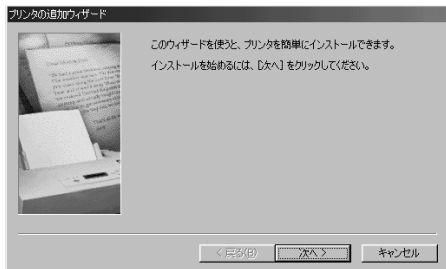


- ② 「プリンタの追加」アイコンをダブルクリックします



このアイコンをクリックします。

③「プリンタウィザード」が表示されるので、[次へ]をクリックします

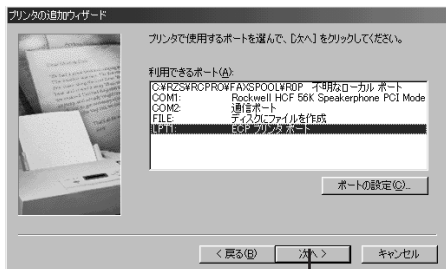


④ プリンターのメーカー名（製造元）と製品名（プリンタ）が表示されたら、自分が使うプリンターをクリックして反転させ、[次へ]をクリックします



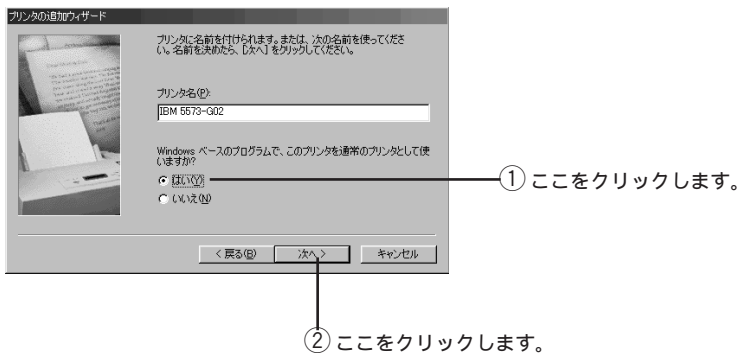
表示されているリストはWindows 98にあらかじめインストールされているプリンター・ドライバーです。リストにない場合は、プリンターに付属のディスク（フロッピーディスク）またはCD-ROMをドライブに入れ、[ディスク使用]をクリックしてからドライバーをインストールしてください。

⑤ プリンターのポートを選択するウィンドウでは、「LPT1」が選ばれていることを確認し、[次へ]をクリックします

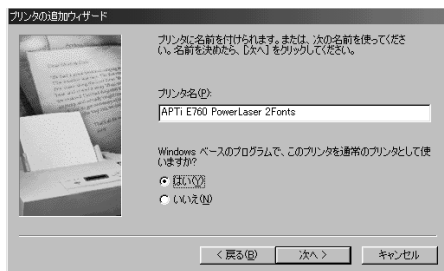


ここをクリックします。

- ⑥ 通常のプリンターとして使うかどうかを聞かれたら、「はい」をクリックし、[次へ]をクリックします



- ⑦ テストページを印刷する場合は「はい」を、今すぐに印刷しない場合は「いいえ」を選び、[完了]をクリックします



ハードディスクの内容を出荷時の状態に戻すには

誤ってハードディスクをフォーマットしてしまった、重要なプログラム・ファイルを削除してしまった、画面がフリーズするなどのトラブルがあまりにも頻発する、などで、ハードディスクを出荷時の状態に戻したいときは、Product Recovery CD-ROM（リカバリーCDと呼びます）を使ってハードディスクの初期化と復元を行います。また、Application CD-ROMを利用すると、出荷時にインストールされているアプリケーションなどをそれぞれ個別に再インストールすることができます。



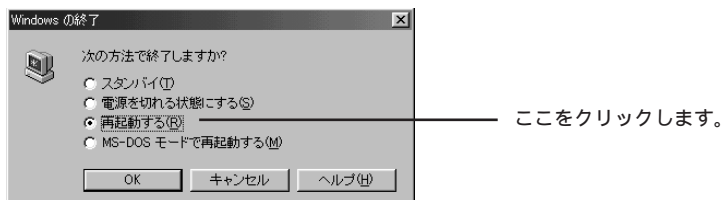
リカバリーCDを使うと、ハードディスクをフォーマットしてしまいますので、自分で作成したデータや文書は消えてしまいます。大切なデータをハードディスクに保存している場合は、リカバリーCDを使う前に、必ずディスクなどなどにコピーしておいてください。また、いちばん初めに行ったWindows 98のセットアップをやり直したり、後からインストールしたアプリケーションをインストールし直す必要があります。

リカバリーCDの使い方

用意するもの：Product Recovery CD-ROM（リカバリーCDと呼びます）

- ① 自分で作成したデータや文書をディスクなどにコピーします
- ② 追加または変更したメモリーや周辺機器 / オプション・カードを外します
Aptiva本体を購入時の状態に戻します。追加 / 変更した状態では、出荷時の状態に正しく復元できない場合があります。
- ③ システムの設定（BIOS）を初期化します
P.147の手順でシステムの設定を初期化してください。
- ④ Aptivaを使用していた場合は、リカバリーCDをCD-ROMドライブに入れます
Aptivaに電源が入っていない場合は、電源を入れてからリカバリーCDをCD-ROMドライブに入れます。
- ⑤ [スタート]ボタンをクリックし、スタートメニューから「Windowsの終了」を選び、マウスでクリックします

- ⑥ 「Windowsの終了」ウィンドウから「再起動する」をクリックし、[OK]をクリックします



Aptiva が再起動します。

しばらくすると、リカバリー CD の複写を行う前にいくつかの注意事項と質問が表示されます。

- ⑦ 画面の質問に答えていきます

イエスかノーかの答えは、キーボードの「Y」キーか「N」キーを押してください。

重要



復元作業の途中で電源を切らないでください。

復元が終了すると、次のメッセージが表示されます。

『導入の完了！

リカバリー CD をドライブから取り出し、Aptiva の電源を切ってください。』

- ⑧ メッセージに従って、Aptiva を再起動します

これで、ハードディスクは出荷時の状態に復元されました。

- ⑨ Windows 98 をセットアップします

Windows 98 のセットアップ画面が表示されたら、画面の指示に従って、最初に Aptiva を箱から出したときと同じように、名前や会社名を入力したりライセンス登録などをして、Windows 98 をセットアップしてください。

重要



Windows 98 および Aptiva の画面のセットアップについては、「セットアップ・ガイド」に必ず従ってください。

システムの設定 (BIOS) を初期化するには

リカバリーCDを使うと、ハードディスクの内容を出荷時の状態に戻す(初期化する)ことができますが、システムの設定 (BIOS) は変更しません。システムの設定を初期化する場合は、セットアップ・ユーティリティーから行います。

① 電源を入れます

Aptiva にすでに電源が入っている場合は、再起動します。

② IBM のロゴ画面で **(F1) キーを押します**

システム設定のメイン画面が表示されます。

③ **(F5) (Load default settings) キーを押します**

④ キーで [Yes] を選び、(Enter)** キーを押します**

⑤ メイン画面に戻ったら、(Esc)** キーを押します**

⑥ [Yes] を選び、(Enter)** キーを押します**

Aptiva が再起動します。

アプリケーションをインストール/アンインストールするには

アプリケーションをインストール（導入）するには

Aptivaに付属のアプリケーション・ソフトウェアをインストールする場合は、次の手順で行います。



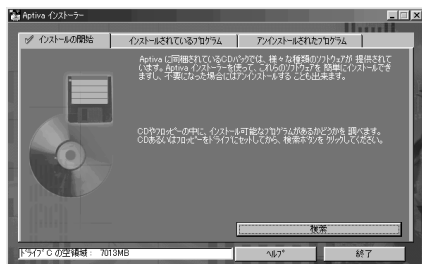
同梱されているアプリケーション・ソフトウェアは、同梱アプリ、同梱ソフト、バンドル・アプリケーション、またはバンドル・ソフトとも呼びます。

Application CD-ROM の場合

インストール済みのアプリケーションが含まれています。「Aptiva インストーラー」を使って再インストールします。

- ① Application CD-ROM を CD-ROM ドライブに入れます
- ② デスクトップの「Aptiva インストーラー」アイコンをダブルクリックします

「Aptiva インストーラー」ウィンドウが表示されます。



- ③ [検索] をクリックします
Application CD-ROMからインストールできるアプリケーションのアイコンが表示されます。
- ④ インストールしたいアプリケーションのアイコンをクリックして選び、[インストール] をクリックします
後はインストーラーの指示に従ってアプリケーションをインストールしてください。

Application CD-ROM 以外の CD-ROM の場合

Application CD-ROM 以外の CD-ROM とは、Software Library CD-ROM など、インストールされていないアプリケーションの CD-ROM です。

これらの CD-ROM を CD-ROM ドライブに入れると、自動的にアプリケーション・インストーラーが起動するので、あとはインストーラーの指示に従ってアプリケーションをインストールしてください。

アプリケーションをアンインストール（削除）するには

インストールされているアプリケーションをアンインストールする場合は、「Aptiva インストーラー」を使います。

- ① デスクトップの「Aptiva インストーラー」をダブルクリックします
- ② 「インストールされているプログラム」タブをクリックします
現在インストールされているアプリケーションが表示されます。
- ③ アンインストールしたいアプリケーションをクリックし、[アンインストール] をクリックします
- ④ [はい] をクリックします
選んだアプリケーションのアンインストールが始まります。

重要



プリインストールされているアプリケーションによっては、アンインストールした場合、リカバリー CD からしかインストールできないものもあります。

修正プログラムを入手するには

ソフトウェアやハードウェアの機能に修正や変更があったときなどは、「修正プログラム」として提供される場合があります。

修正プログラムは、インターネットやパソコン通信からダウンロードして入手することができます。

インターネットからダウンロードする場合

ソフトウェア製品に対する修正プログラム（フィックスパック・ライブラリー）

<http://www.ibm.co.jp/aspc/fixpak.html>

ハードウェア製品の修正およびサポート・プログラム

<http://www.ibm.co.jp/pccsvc/fixhw.html>

パソコン通信からダウンロードする場合

NIFTY-Serve

「FIBMFEEL」 「データライブラリー」 7「日本 IBM 製品情報ライブラリー」
または 10「IBM PC SW 修正情報 日本語版：DOS/Windows」

People

「IBM」 「PCSW 保守修正情報」 「日本語版修正情報ライブラリー」
または
「IBM」 「PC 修正プログラム」

IBM PC DOCK をご利用の場合

デバイス・ドライバーの提供 / インストール・サービスなどを有償にて行います。ご来店のうえ、ご相談ください。詳しくは、IBM FAX サービスの「コード番号 10024#」をお取り寄せのうえ、確認してください。

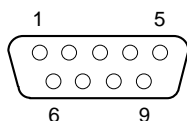
IBM PC ソフトウェア・サービスセンターをご利用の場合

一部の機種を除き、入手することができます。詳しくは、IBM FAX サービスの「コード番号 44#」をお取り寄せのうえ、確認してください。

シリアル・ポートについて

Aptivaのシリアル・ポートに、デジタルカメラなどを接続して使用する場合、市販されている多くの機器は、業界標準のインターフェースを採用しているので問題ありません。しかし、一部の機器で接続に使用するケーブル等を、お客様自身が用意しなければならない場合があります。

Aptivaの9ピン・シリアル・ポートの信号線は、次のように割り当てられています。



ピン番号	信号
1	キャリア検出 (CD/DCD)
2	受信データ (RD)
3	送信データ (SD)
4	端末装置レディ (ER/DTR)
5	グラウンド (SG)
6	データセットレディ (DR/DSR)
7	送信要求 (RTS/RS)
8	送信許可 (CTS/CS)
9	呼出し検出 (CI/RI)

第4章

故障かな？と思ったら



章目次 (トラブル一覧)

重大なトラブルとその対処について	157
トラブルの予防とウイルスについて	158
トラブルを解決するためのヒント	160
「困ったな」「どうしよう」の事例紹介	161
1. 起動時または終了時のトラブル	162
Q 1-1 本体の電源スイッチを入れても起動しない	162
Q 1-2 いつもの Windows 98 の画面にならない	162
Q 1-3 省電力タイマーが機能しない	163
Q 1-4 [スタート] ボタンが表示されない	163
2. ディスプレイ関連のトラブル	164
Q 2-1 電源スイッチを入れても画面が真っ暗のまま	164
Q 2-2 画面の色がにじんだようになる	164
Q 2-3 画面がディスプレイの真ん中からずれている	164
Q 2-4 ちょっと席を外しているうちに画面が消えてしまった	164
3. キーボード関連のトラブル	165
Q 3-1 キーボードのキーを押しても文字が表示されない	165
Q 3-2 日本語入力ができない	165
Q 3-3 押したキーと表示される文字が違う	166
Q 3-4 キーを1回しか押していないのに連続して文字が表示される	166
Q 3-5 日本語入力システムの切り替えと設定方法はどこで行うのか	166
4. マウス関連のトラブル	167
Q 4-1 マウスを動かしても反応しない	167
Q 4-2 マウスが思うように動いてくれない	167
Q 4-3 ダブルクリックがうまくできない	167
5. スピーカー関連のトラブル	168
Q 5-1 スピーカーから音が出ない	168
Q 5-2 キーンという鋭い音が出る	168
Q 5-3 マイクロホンの音がスピーカーから出ない	168
Q 5-4 音の種類(WAV, MIDI)によって出る音と出ない音がある	168
Q 5-5 テレビやラジオの音が聞こえてくる	169
6. CD-ROM 関連のトラブル	170
Q 6-1 CD-ROM が取り出せない	170
Q 6-2 音や画像が再生されない	170
Q 6-3 動画データの再生がなめらかでない	171

7 . ディスケット (フロッピーディスク) 関連のトラブル	172
Q 7-1 ディスケットの内容が読めない	172
Q 7-2 大事なデータが入ったディスクをフォーマットしてしまった	172
Q 7-3 ディスケットに書き込めない	172
Q 7-4 ディスケットに飲み物をこぼしてしまった	172
8 . ハードディスク関連のトラブル	173
Q 8-1 ハードディスクを増設したが、認識されない	173
Q 8-2 領域確保できる容量がカタログに記載の値と違う	173
Q 8-3 BIOS で、増設したディスクが見えない	173
9 . プリンター関連のトラブル	174
Q 9-1 印刷できない	174
10 . 周辺機器 / オプション・カードのトラブル	175
Q 10-1 増設したがうまく動いてくれない	175
Q 10-2 どの製造元の機器が問題なのかわからない	175
11 . Windows 98 関連のトラブル	177
Q 11-1 Windows 98 の基本的な操作について知りたい	177
Q 11-2 うしろに隠れて見えなくなったウィンドウを表示するには	177
Q 11-3 ファイルが見つからない	177
Q 11-4 ファイルの拡張子が表示できない	177
Q 11-5 必要なファイルを消してしまった	177
Q 11-6 C:¥WINDOWS >_と表示される	178
Q 11-7 Windows パスワードを忘れてしまった	178
Q 11-8 「入力されたパスワードが間違っています」と表示される	179
Q 11-9 電源を入れると、「Safe モード」で起動する	179
Q 11-10 Windows 98 のセットアップ中に電源を切ってしまった	179
Q 11-11 Windows 98 のセットアップ中にパソコンが応答しなくなった	180
Q 11-12 名前や会社名の入力を間違えた	181
Q 11-13 Windows 98 の再インストールについて知りたい	181
12 . アプリケーションの関連のトラブル	182
Q 12-1 アプリケーションをインストールできない	182
Q 12-2 アプリケーションを削除したい	182
Q 12-3 電源を切ると先程まで入力していた文章がなくなる	182
Q 12-4 Aptiva が応答しなくなったので強制終了したい	183
Q 12-5 DOS ゲームの画面から抜けられない	183
13 . 通信機能関連のトラブル	184
Q 13-1 ダイヤルできない	184
Q 13-2 モデム接続できない、またはスピードが上がらない	184
Q 13-3 「モデムを初期化できません」「モデムからの応答がありません」 などのエラーが表示される	185

Q 13-4 「モデムが使用中」「COM ポートは既にかかれています」などのメッセージが表示される	186
Q 13-5 ダイヤルトーン（受話器を上げた時のプーっという音）が聞こえない	186
Q 13-6 モデムが電話をかけていない（プルルルルという電話をしている音が聞こえない）.....	187
Q 13-7 正しい番号に電話がかからない	188
Q 13-8 電話はかかっているが、プロバイダーのアクセスポイントが応答しない	189
Q 13-9 プロバイダーへ接続したが、すぐに切断される	189
Q 13-10 接続が突然切れてしまう	191
Q 13-11 接続速度が遅い、33.6Kbps 以下でしか接続できない	191
Q 13-12 「インターネットサイト XXXX を開けません。サーバーに接続できませんでした」というメッセージが表示されてホームページが表示されない	192
Q 13-13 「Not Found」「Error404」と書かれたホームページが表示される	193
Q 13-14 電子メールが送信できない / 受信できない	193
Q 13-15 RingCentral を留守番電話として使用しているが、うまく録音できずに 10 秒ほどで切れてしまう	193
Q 13-16 RingCentral でファックスの受信がうまくできない	194
Q 13-17 NTT のナンバーズ・ディスプレイが表示されない	194
14. その他のトラブル	195
Q 14-1 停電になった	195
Q 14-2 キーボードに飲み物をこぼしてしまった	195
Q 14-3 海外で使用したい	195
Q 14-4 英語版の Windows 98 を使いたい	195
Q 14-5 付属品の確認のしかたは	195
Q 14-6 安全に使うために注意しなければならないこと	196
Q 14-7 Aptiva はどのように配置すればよいのか	196
Q 14-8 付属品の接続方法が分からない	196
Q 14-9 付属のマニュアルをなくしてしまった	196
Q 14-10 『アプリケーション CD』を傷つけたので交換してほしい	196
Q 14-11 『リカバリー CD』を傷つけたので交換してほしい	196
Q 14-12 使用している Aptiva のお客様登録（ユーザー登録）の住所変更をしたい	197
トラブルが解決しないときは	198
トラブル・チェックシートについて	198
サポート体制について	198

重大なトラブルとその対処について

ご使用中の Aptiva や周辺機器などに、次のような異状を感じた場合は、以下の手順で対応してください。

異臭がする
手で触れないくらい熱い
煙が出る
異常な音がする

1. すぐに電源を切り、電源ケーブルや AC アダプターなどのプラグを電源コンセントから抜いてください。
2. IBM サービスセンターまでご連絡ください。

IBM サービスセンターの電話番号： 0120 - 20 - 5550
(フリーダイヤル)

受付時間：9:00-18:00 (日、祝日、12月30日～1月3日を除く)

Aptiva を安全に正しくお使いいただくための注意事項を、製品に付属の『セットアップ・ガイド』に記載しています。Aptiva をご使用になるときは必ず注意事項をお守りください。

トラブルの予防とウイルスについて

トラブルを予防するためのヒントを説明します。

1．電源のオン/オフを正しく行う

Aptiva本体の電源を入れる前に、ディスプレイを含め周辺機器の電源を先に入れてください。

正しい電源のオン/オフについては、本書の『Aptivaの電源を入れてみよう』(P.20)、『Aptivaの操作を終了しよう』(P.24)をお読みください。

2．ファイルのバックアップを取る

ハードディスクには、Windows 98をはじめ、アプリケーションやアプリケーションを使って作成したファイルなどの大切なデータが保存されています。

万一トラブルが発生した場合、ハードディスク内のファイルは壊れたり消えてしまうことがあります。ハードディスクにインストール済みのアプリケーションは、製品に付属の『Product Recovery CD-ROM』を使って工場出荷時の状態に復元することが可能です。作成したファイルは、ご自分でディスクなどにコピーを作成されていないかぎり復元することができません。万一の場合に備え、自分で作成したファイルを定期的にディスクなどにコピーするように心がけてください。

3．コンピューター・ウイルスからAptivaを守る

コンピューター・ウイルスは、コンピューター内のファイルやプログラムなどに悪影響を及ぼすプログラムのことです。知らないうちにファイルが消去されていたり、ハードディスクの情報が書き換えられたりすることがあります。

ウイルスを侵入させないためには

- パソコン通信などで見知らぬ人から送られてきたファイルに注意する
- ファイルまたはプログラムのコピーを入手した場合は、ウイルスのチェックがされていることを必ず確認する

表計算ソフトウェアやマクロ・ファイルなどが送られてきたときは必ずウイルスのチェックがされているか確認するとともに、使用する前に自分でもチェックする習慣をつけましょう。

- パソコンのウイルス検査を定期的に行う
Aptivaには、ウイルスを検知するアンチウイルス・プログラムがプリインストールされています。ウイルスの侵入を予防するために、本プログラムをシステムから削除(アンインストール)しないようにしてください。

ウイルスに感染した場合は

ウイルスが侵入した場合、次のようなことが起こります。

- 意味不明なメッセージやウイルスが侵入したことを知らせるメッセージなどが表示される
- ファイルが突然消去される
- ハードディスク上の情報が意味のないもの書き換えられる
- 画面に意味のないものが表示される

このようなことが起こった場合は、次のように対処してください。

1. 感染したファイルを削除します。
2. アプリケーションをオリジナル(ご購入時のCD-ROMまたはディスク)から再インストールします。
3. Windows 98のデスクトップの「ごみ箱」を空にします。



コンピューター・ウイルスの被害届出/相談窓口として、次の公共機関が設置されています。

情報処理振興事業協会 (IPA)

IPA コンピューターウイルス対策室 (コンピューターウイルス 110 番)

電話番号 : 03-3433-4844

FAX 番号 : 03-3437-2537

IPA コンピューターセキュリティ対策ホームページ

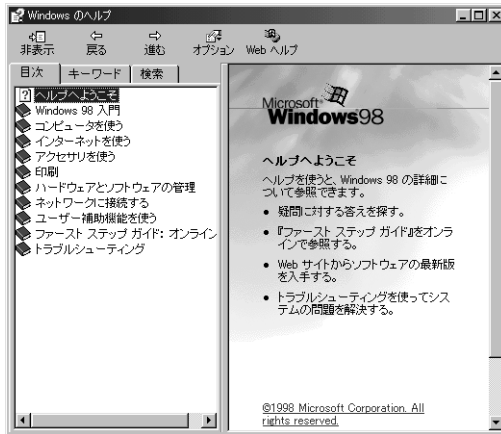
<http://www.ipa.go.jp/SECURITY/index-j.html>

トラブルを解決するためのヒント

Windows 98 のヘルプにはトラブル解決のためのツール「トラブルシューティング」が用意されています。トラブルが起きたら、「トラブルシューティング」を実行してみてください。

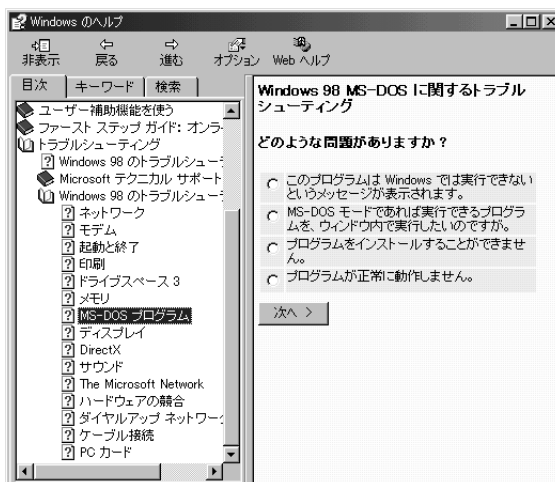
① 画面下の [スタート] ボタンをクリックし、「ヘルプ」をクリックします

「Windows のヘルプ」ウィンドウが表示されます。



② 「目次」タブの中「トラブルシューティング」をクリックします

③ 目的の項目をクリックしていきます

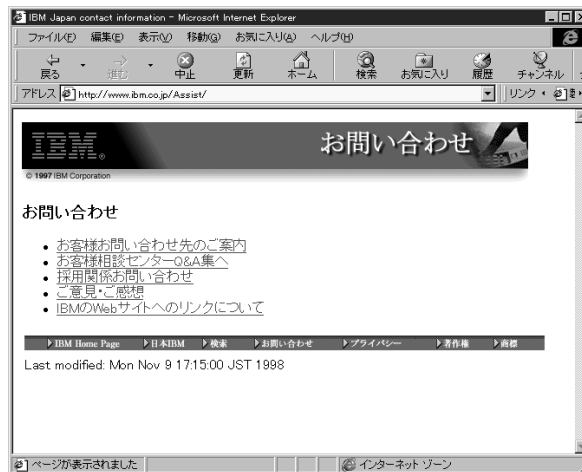


「困ったな」「どうしよう」の事例紹介

ここでは、弊社電話サポート窓口寄せられた事例をもとに、トラブルが発生した場合の対応方法を、Q&A形式でまとめています。

また、インターネット上の弊社ホームページ (<http://www.ibm.co.jp/>) では、ここに紹介した事例のほかに、ダイヤルIBMやIBM PCヘルプセンターなどに比較的多く寄せられた質問と回答をまとめています。併せてご利用ください。

弊社ホームページ画面末尾の「お問い合わせ」をクリックして表示されるメニューから「お客様相談センターQ&A集へ」をクリックしてください。



1. 起動時または終了時のトラブル

Q 1-1 本体の電源スイッチを入れても起動しない

原因 1 ケーブルが正しく接続されていません。

対処 製品に付属の『セットアップ・ガイド』を参考に、Aptivaのケーブルの接続を確認してください。

原因 2 タコ足配線などにより電源の電圧が低くなっています。

対処 壁のコンセントに直接電源ケーブルを接続してください。

原因 3 本体背面にある電源スイッチがオンになっていません。

対処 本体背面の電源スイッチを入れてください。

それでも画面に何も表示されない場合は、機器の故障が考えられます。購入元またはIBM サービスセンターに相談してください。

Q 1-2 いつものWindows 98の画面にならない

症状 1 電源を入れると「Non System disk or disk error」と表示される。

原因 前回終了時に、ディスクをディスク・ドライブから抜くことを忘れて
います。

対処 ディスクを取り出してAptivaの電源を切り、しばらく待ってから電源を入
れ直してください。

症状 2 「301 Keyboard Error」と表示される。

原因 キーボードの接続に問題がある、またはキーボードのキーを押した状態で
Aptivaの電源を入れています。

対処 キーボードの上に本などがのっていないことを確認して電源スイッチを入れて
ください。

症状 3 メッセージコードが表示される。

原因 Aptivaは電源を入れると自己診断機能が働きます。装置の追加変更を行ったと
きや故障が見つかったときなどにメッセージやエラーコードを表示します。

対処 1 「Windows 例外 0E...」というメッセージが起動時またはアプリケーション使用
時に表示された場合で、他社製メモリーを追加している場合は、電源を切った
後、追加されたメモリーを取り外してください。また、メモリーの製造元また
はご購入元に相談してください。

対処2 問題のある常駐プログラムがインストールされている場合も同様のメッセージが表示されます。「スタートアップ」フォルダーを確認し、新たに登録したプログラムを削除してください。

Q 1-3 省電力タイマーが機能しない
 スクリーンセーバー、ディスプレイの省電力機能、アプリケーションなどの自動保存の機能が働いています。これらの機能が働いている場合は省電力(スタンバイ)の状態が解除されます。

Q 1-4 [スタート] ボタンが表示されない

原因1 タスクバーの高さを低くしたために、表示されない状態になっています。

対処 次の手順でタスクバーの高さを広げて表示させてください。

1. マウス・ポインターを画面下に移動させます。
2. マウス・ポインターが上下の矢印()に変わったら左ボタンで上方向にドラッグします。

原因2 タスクバーが「自動的に隠す」という設定に変更されています。

対処 常にタスクバーを表示させておきたい場合は、次のように行います。

1. マウスポインターをタスクバー上に移動し、マウスで右クリックします。
2. メニューの「プロパティ」をクリックします。
 タスクバーのプロパティが表示されます。
3. 「自動的に隠す」のチェックボックスのチェックを外します。
4. [適用] をクリックし、[OK] をクリックしてウィンドウを閉じます。

2 . ディスプレイ関連のトラブル

- Q 2-1** 電源スイッチを入れても画面が真っ暗のまま
原因 1 ディスプレイの電源が入っていない。
対処 ディスプレイの電源スイッチを入れてください。ディスプレイの電源ケーブルがコンセントから抜けている場合もあるので、確認してください。
注：Aptivaの電源が入っていないと、ディスプレイには何も表示されません。
- 原因 2** ディスプレイのケーブルの接続が正しくない。
製品に付属の『セットアップ・ガイド』を参照してディスプレイの接続を確認してください。
- Q 2-2** 画面の色がにじんだようになる
原因 1 強力な磁気を発生する電気製品が近くにあります。
対処 オーディオ機器のスピーカーなど強力な磁気を発生する電気製品からAptivaを遠ざけてください。
- 原因 2** ディスプレイの画面が磁気を帯びています。
ディスプレイに付属のマニュアルを参照して、ディスプレイ画面の磁気を取り除いてください。
- Q 2-3** 画面がディスプレイの真ん中からずれている
対処 画面の表示位置やサイズ、コントラストなどをディスプレイの機能を使って調節できます。詳しくは、ディスプレイに付属のマニュアルをお読みください。
- Q 2-4** ちょっと席を外しているうちに画面が消えてしまった
原因 省電力機能によって画面の表示が一時停止しました。
対処 マウスを動かすと、画面が再表示されます。

3 . キーボード関連のトラブル

Q 3-1 キーボードのキーを押しても文字が表示されない

原因 1 システムが処理中のため、キー入力やマウスの操作を受け付けられません。

対処 処理が終わるまでしばらくお待ちください。



Windows 98がプログラムの処理をしているときは、マウス・ポインターが砂時計の形に変わっています。

原因 2 キーボードが正しく接続されていない。

キーボードのコネクターが抜けていたり、取り付けられているようでも奥まで差し込まれていないなどが原因として考えられます。製品に付属の『セットアップ・ガイド』を参考に接続を確認してください。

Q 3-2 日本語入力ができない

原因 1 日本語入力システムが起動していません。

対処 次のどちらかの方法で、日本語入力システムを起動してください。

キーボードの **(Alt)** キーを押しながら **(半角 / 全角)** キーを押します。

マウスでタスクバーの「日本語入力インジケータ」アイコンをクリックして、「日本語入力-オン」をクリックします。

原因 2 アプリケーションの機能的な制約があります。

対処 アプリケーションによっては、ウィンドウを切り替えるたびに、日本語入力システムを起動し直すように設計されているものがあります。日本語入力システムを起動させるには、キーボードの **(Alt)** キーを押しながら、**(半角 / 全角)** キーを押すか、タスクバーの「日本語入力インジケータ」アイコンをクリックして、「日本語入力-オン」をクリックしてください。

Q 3-3 押したキーと表示される文字が違う

原因 1 日本語入力システムが、起動していません。

対処 次のどちらかの方法で日本語入力システムを起動してください。

キーボードの **(Alt)** キーを押しながら **(半角 / 全角)** キーを押します。

マウスでタスクバーの「日本語入力インジケータ」アイコンをクリックして、「日本語入力-オン」をクリックしてください。

原因2 日本語入力方式の設定と違った方法で文字入力をしようとしています。

対処 日本語の入力方式には「ローマ字」入力方式と「かな」入力方式の2種類があります。日本語入力システムが起動している状態で、キーボードの「A」を押して「あ」と表示されるのが「ローマ字」入力方式、「ち」と表示されるのが「かな」入力方式です。

デスクトップの、[スタート]ボタンから「設定」「コントロールパネル」をクリックします。「キーボード」アイコンをダブルクリックし、「言語」タブから「プロパティ」をクリックして、日本語入力方式の設定を行います。なお、MS-IMEを使用している場合は(Alt)キーを押しながら(カタカナ/ひらがな)キーを押すと、「ローマ字」入力方式と「かな」入力方式を切り替えることができます。

原因3 MS-IMEの仕様によって、押したキーと表示されるものが異なる場合があります。

対処 日本語入力システムが起動している状態で、「きごう」と入力し、(変換)キーを数度押してください。記号の一覧が表示されます。「かっこ」と入力し変換することで、いろいろな種類のカッコを表示させることができます。「から」と入力し「変換」すると「~」(全角)を表示することができます。

英数の半角文字を入力できる状態にして、(Shift)キーと(^)キーを同時に押すと、「」(チルダ)を表示することができます。

Q 3-4 キーを1回しか押していないのに連続して文字が表示される

原因 キーボードは一定時間押し続けると、そのキーの文字を連続して入力するようになっています。

対処 デスクトップの[スタート]ボタンから「設定」「コントロールパネル」をクリックします。「キーボード」アイコンをダブルクリックし、「速度」タブをクリックし、入力した文字を表示するまでの待ち時間や、表示の間隔などを変更します。ご自分のキータッチにあった設定に調節してください。

Q 3-5 日本語入力システムの切り替えと設定方法はどこで行うのか

対処 日本語入力システムの切り替えはデスクトップの[スタート]ボタンから「設定」「コントロールパネル」をクリックします。「キーボード」アイコンをダブルクリックし、「言語」タブをクリックして設定します。

4 . マウス関連のトラブル

Q 4-1 マウスを動かしても反応しない

原因 1 Windows 98がプログラムの処理をしているため、キー入力やマウスの操作を受け付けられません。

対処 処理が終わるまでしばらくお待ちください。



Windows 98がプログラムの処理を実行しているときは、マウス・ポインターが砂時計の形に変わっています。

原因 2 マウスが正しく接続されていません。

対処 マウスのコネクタが抜けていたり、取り付けられているようでも奥まで差し込まれていないなどが原因として考えられます。製品に付属の『セットアップ・ガイド』を参照して接続を確認してください。

Q 4-2 マウスが思うように動いてくれない

原因 マウスの内部が汚れている可能性があります。

対処 マウス裏面の丸いボール（ローラー）が入っている部分の蓋を開け、内部にホコリがたまっていないか確認してください。ローラーを水または中性洗剤で洗うと効果があります。

Q 4-3 ダブルクリックがうまくできない

対処 デスクトップの[スタート]ボタンから「設定」「コントロールパネル」をクリックし、「マウス」アイコンをダブルクリックして「マウスのプロパティ」ウィンドウを表示します。「ボタン」のページでダブルクリックの速度を変更してください。ご自分のクリック速度に調節することで、ダブルクリックがしやすくなります。

5 . スピーカー関連のトラブル

Q 5-1 スピーカーから音が出ない

原因 1 スピーカーのケーブルが本体と接続されていません。
製品に付属の『セットアップ・ガイド』を参照して接続を確認してください。

原因 2 ミュート・ボタンが押されています。

対処 タスクバーの「音量」アイコンをクリックし、音量コントロール画面でミュートのチェックマークをマウスでクリックして外してください。

原因 3 音量調節のボリュームが最低のレベルになっています。

対処 スピーカーの音量調節つまみを回して適当な音量に調節してください。または、タスクバーの「音量」アイコンをクリックし、音量コントロール画面でつまみをスライドさせて音量を調節することもできます。

Q 5-2 キーンという鋭い音が出る

原因 マイクロホンとスピーカーがハウリングを起こしています。

対処 マイクロホンをスピーカーから遠ざけてください。また、スピーカーの音量調節つまみで音量を下げてください。

Q 5-3 マイクロホンの音がスピーカーから出ない

原因 ボリュームがしぼられている可能性があります。

対処 スピーカーの音量調節つまみを回して適当な音量に調節してください。または、タスクバーの「音量」アイコンをクリックし、音量コントロール画面で調節することもできます。

Q 5-4 音の種類 (WAV, MIDI) によって出る音と出ない音がある

対処 タスクバーの「音量」アイコンをクリックし、音量コントロール画面でミュートを確認してください。

Q 5-5 テレビやラジオの音が聞こえてくる

対処

電話線を接続したAptivaからテレビやラジオの音が聞こえてくる現象は、電話ケーブルにノイズ除去用部品を取り付けると解決する場合があります。電話ケーブルを延長をしている場合は、付属の電話ケーブルのみを使用して確認してください。

それでも解決できない場合は、電話回線自体がノイズを拾っている可能性があります。NTTに相談してください。

参考

テレビやラジオなどのオーディオ機器にノイズが入る場合は、Aptivaをオーディオ機器から遠ざけてください。

6 . CD-ROM 関連のトラブル

Q 6-1 CD-ROM が取り出せない

原因 本体の電源が切れています。

対処 本体の電源を切る前にCD-ROM イジェクト・ボタンを押し、中のCD-ROM を取り出してください。

Q 6-2 音や画像が再生されない

原因 1 CD-ROM の裏表を逆さまに挿入しています。

対処 CD-ROMのセットは絵や文字が印刷されているタイトル面を上にしてセットしてください。

原因 2 CD-ROM が汚れています。

対処 CD-ROM が汚れている場合は、市販のCD-ROM クリーナーで汚れを落としてください。軽い汚れの場合は、乾いた柔らかい布で内側から外側に向かって拭いてから使用してください。

重要



CD-ROMの記録面には手を触れないでください。また、記録面およびタイトル面にボールペンなどで文字などを書き込まないでください。

原因 3 CD-ROM が傷ついているか、反っているか、割れています。

対処 傷が深くついたり、反っていたり、割れていたりするCD-ROMは使用できません。

参考



製品に付属の『アプリケーションCD-ROM』や『Product Recovery CD-ROM』を破損し、交換を希望する場合は、IBM FAXサービス(044-200-8600)から申し込み用紙を取り寄せてください。なお、紛失した場合は交換できません。IBM FAXサービスについて詳しくは、製品に付属の『IBMサービスのご案内』をお読みください。

この件に関しては、次に示すコード番号をご利用ください。

440274 『バックアップCDおよびRecovery CD有償交換お申込みガイド』

原因 4 Aptiva で使用できないCD-ROM を使用しています。

対処 Windows 98 に対応したCD-ROM を使用してください。

Q 6-3 動画データの再生がなめらかでない

原因 1 再生中に他のアプリケーションを実行しています。

対処 動画データの再生は、システムに非常に大きな負荷を与えます。同時に実行している他のアプリケーションを終了してください。

原因 2 動画データを再生中に、ウィンドウの操作をしました。

対処 動画データを再生中にウィンドウの大きさや位置を変えることは、システムにさらに大きな負荷を与え、画像がなめらかに再生されない原因になります。

7. ディスケット（フロッピーディスク）関連のトラブル

- Q 7-1** ディスケットの内容が読めない
- 原因1 フォーマットされていないディスクがセットされています。
- 対処 フォーマット（初期化）を行うか、フォーマット済みのディスクをご購入ください。フォーマット済みのディスクを購入するときは、DOS/V用にフォーマットしたものを選んでください。
- 原因2 ディスケットの内容が壊れています。
- 対処 この場合、復旧はできません。このような場合に備えて、重要なデータを保存したディスクは、バックアップを取るよう心がけてください。
- 原因3 ディスケットの挿入方向が間違っています。
- 対処 ラベルの貼られた方を手前上向きにし、ディスク・ドライブの奥まで入れてください。方向を間違えると、ディスクはドライブに入りません。
- 原因4 ディスケット・ドライブのヘッドが汚れています。
- 対処 市販のクリーニング用ディスクを使ってヘッドをクリーニングしてください。クリーニング・ディスクについては、販売店にお問い合わせください。
- Q 7-2** 大事なデータが入ったディスクをフォーマットしてしまった
- 対処 ディスクをフォーマット（初期化）すると、書き込まれているデータはすべて消去されます。大切なデータの入ったディスクは、ディスクの書き込み禁止スイッチを「書き込み不可」の位置にして保管してください。
- Q 7-3** ディスケットに書き込めない
- 原因 ディスク裏面の書き込み禁止スイッチが「書き込み不可」の位置になっています。
- 対処 書き込み禁止スイッチを「書き込み可」の位置にすると、書き込みができるようになります。書き込みする場合は、ディスクの内容を再度確認してから行ってください。
- Q 7-4** ディスケットに飲み物をこぼしてしまった
- 対処 本体の故障の原因となるため、汚れたディスクは使わないでください。保存しておいたデータが使えなくなってしまった場合に備えて、バックアップを取っておくようにしましょう。

8 . ハードディスク関連のトラブル

- Q 8-1** ハードディスクを増設したが、認識されない
増設したハードディスクはそのままでは使用できません。
FDISK コマンドで区画を作成し、確保した区画をフォーマット（初期化）してはじめて使用できます。
FDISK コマンドは、MS-DOS プロンプトで実行します。

C:¥WINDOWS> FDISK

と入力して **(Enter)** キーを押してください。FDISK メニューが起動します。

重要



既存の区画を削除 / 変更するとファイルがすべて消去されます。FDISK コマンドを実行する前に必ず必要なファイルをディスクなどにコピーしてください。

参考



FDISK メニューから MS-DOS プロンプトへ抜けるには **(Esc)** キーを押してください。MS-DOS プロンプトから Windows98 へ戻るには

C:¥WINDOWS> EXIT

と入力して **(Enter)** キーを押してください。

- Q 8-2** 領域確保できる容量がカタログに記載の値と違う
換算方法の違いによって容量が少なく表示されるように見えますが、故障ではありません。カタログなどに記載されているハードディスクの容量は、1メガバイト = 1,000,000 バイトで計算している場合があります。これに対し、ハードディスクを領域確保する際には、1メガバイト = 1,048,576 バイト(1,024 × 1,024)で計算するため、このような差異が生じます。

- Q 8-3** BIOS で、増設したディスクが見えない
原因 プライマリーに増設したディスクのジャンパーがスレーブに設定されていません。

対処 セカンダリーに増設した場合、CD-ROM がマスターに設定されています。CD-ROM をスレーブに設定し、増設したハードディスクをマスターに設定してください。増設する場合は、別途 IDE ケーブルを購入してください。

9 . プリンター関連のトラブル

Q 9-1 印刷できない

原因 1 プリンターが印刷可能（オンライン）の状態になっていません。

対処 プリンターの電源を入れてください。

また、プリンターの「印刷可」や「オンライン」などの表示を確認してください。

原因 2 プリンター・ドライバーがインストールされていません。

対処 新しくプリンターを接続した場合は、プリンター・ドライバーをインストールする必要があります。詳しくは、プリンターに付属のマニュアルをお読みください。

原因 3 プリンターの設定に問題があります。

対処 プリンターに付属のマニュアルを参照して設定を確認してください。

設定確認後、プリンターに通常用意されているテスト印字機能を使って、印刷チェックをしてください。

テスト印字の一般的な手順は次のとおりです。

1. デスクトップの [スタート] ボタンから「設定」 「プリンタ」をクリックしてプリンター・フォルダ - を開きます。
2. 使用しているプリンターのアイコンを右ボタンでクリックします。
3. 表示されるメニューで、「通常使うプリンタ」にチェックを付けます。
4. メニューから「プロパティ」を選びます。インストールしたプリンター・ドライバーのプロパティが表示されます。
5. 「情報」ページの [テスト印字] ボタンをクリックしてテスト印字を行います。

それでも問題が解決しない場合は、プリンターのセットアップをやり直してください。

1. デスクトップの「スタート」ボタンから「設定」 「プリンタ」をクリックしてプリンター・フォルダを開きます。
2. 問題があるプリンターのアイコンをクリックします。
3. メニューバーで「ファイル」 「削除」をクリックして問題のあるプリンターを削除します。
4. 「プリンタの追加」アイコンをダブルクリックし、プリンターを新たにセットアップします。

以降の操作については、画面に表示されるメッセージおよびプリンターに付属のマニュアルに従ってください。

10 . 周辺機器 / オプション・カード関連のトラブル

Q 10-1 増設したがうまく動いてくれない

原因 1 本体と周辺機器 / オプション・カードが正しく接続されていません。

対処 製品に付属の『リファレンス・ガイド』および周辺機器 / オプション・カードに付属のマニュアルを参考にして、取り付け / 接続方法、設定方法を確認してください。

原因 2 割り込みレベルなどの設定が間違っています。

対処 周辺機器 / オプション・カードの中には、Aptivaに取り付けるときにシステム割り込み要求 (IRQ)、I/Oポート・アドレス、DMAチャンネル、メモリー領域の設定が必要となるものがあります。工場出荷時のシステム割り込み要求 (IRQ)、I/Oポート・アドレス、DMAチャンネル、メモリー領域の本体での使用状況などは、製品に付属の『リファレンス・ガイド』にその調べ方が説明されています。周辺機器 / オプション・カードのマニュアルと共にお読みいただき、本体または周辺機器 / オプション・カードの設定で、競合しないように変更してください。

原因 3 周辺機器 / オプション・カードの設定が間違っています。

対処 周辺機器 / オプション・カードによっては、周辺機器 / オプション・カードの設定スイッチの変更が必要な場合や、デバイス・ドライバーなどのインストールが必要な場合があります。周辺機器 / オプション・カードのマニュアルを参考にして、必要な設定をしてください。

Q 10-2 どの製造元の機器が問題なのかわからない

対処 追加または変更したメモリーや周辺機器 / オプション・カードを外し、Aptiva本体を購入時 (工場出荷時) の状態に戻してください。購入時の状態で正常に動作することを確認した後で、追加または変更した周辺機器などをひとつずつ取り付けて動作確認を行い、正常に動作しない機器を特定します。購入時の状態にして正常に始動しない場合は、『セットアップ・ユーティリティー』を起動して、システム設定を工場出荷時の状態に戻してください。(P.147)
また、製品に付属の『Product Recovery CD-ROM』でハードディスクの内容を工場出荷時の状態に戻してください。

重要



『Product Recovery CD-ROM』はハードディスクの内容を工場出荷時の状態に戻します。自分で作成したファイル（ワープロ文書、プログラム等）は、『Product Recovery CD-ROM』を使用する前にディスクなどにコピーしておいてください。工場出荷時の状態に戻すと、作成したファイルはすべて消えてしまいます。

11 . Windows 98 関連のトラブル

Q 11-1 Windows 98 の基本的な操作について知りたい

対処 Windowsの基本的な操作方法については、製品に付属の『Microsoft Windows 98 ファーストステップガイド』をお読みください。
また、Windows 98 のヘルプにも操作方法が解説されています。



パソコン教室でWindowsの基本操作をじっくり勉強したい場合、IBMではインフォカレッジでの研修(有料)をご用意しています。詳しくは、製品に付属の『IBMサービスのご案内』をお読みください。

Q 11-2 うしろに隠れて見えなくなったウィンドウを表示するには

対処 操作したいウィンドウが他のウィンドウに隠れてしまうことがあります。このような場合は、タスクバーには起動中のアプリケーションまたはファイルの一覧が表示されています。タスクバーから操作したいウィンドウに対応したアプリケーションまたはファイルをクリックしてください。

Q 11-3 ファイルが見つからない

対処 保存したフォルダーまたはファイルがどこに保存されているのかわからなくなった場合は、[スタート]メニューの「検索」「ファイルやフォルダ」で検索画面を表示させ、探したいファイル名を入力して検索します。(P.69)

Q 11-4 ファイルの拡張子が表示できない

対処 「マイ コンピュータ」ウィンドウまたは「エクスプローラ」メニューバーで、「表示」「フォルダ オプション」で表示される「表示」タブをクリックして表示されるウィンドウで「登録されているファイルの拡張子は表示しない」にチェックマークが付いていると、ファイルの拡張子は表示されません。ファイルの拡張子を表示させたいときは、このチェックマークを外してください。

Q 11-5 必要なファイルを消してしまった

対処 間違ってフォルダーやファイルを削除した場合は、「ごみ箱」アイコンをクリックして、フォルダーやファイルが残っていないかどうかを確認してください。「ごみ箱」にフォルダーやファイルが残っている場合は、復旧させたいフォルダーまたはファイルをクリックし、メニューバーで「ファイル」「元に戻す」をクリックして復旧してください。

重要



ディスクに保存されているフォルダーやファイルは、削除しても「ごみ箱」には保管されません。ディスク内のデータを削除する場合は、細心の注意を払ってください。

Q 11-6 C:¥WINDOWS>_と表示される

原因 Windows 98 の MS-DOS プロンプトが全画面表示されている状態です。

対処 次のように入力して (Enter) キーを押してください。

```
C:WINDOWS> EXIT
```

MS-DOS プロンプトから Windows 98 の画面に戻ります。

(DOS ゲームの画面を終了させるときも同様に行ってください。)

Q 11-7 Windows パスワードを忘れてしまった

対処 「Windows ログオン」の画面で新しいユーザー名でログオンを行うか、または Windows 98 を再インストールしてください。再インストールする場合は、製品に付属の『Product Recovery CD-ROM』を使用してください。方法については『ハードディスクの内容を出荷時の状態に戻すには』(P.145)をお読みください。

「Windows ログオン」の画面でパスワードを入力せずに [キャンセル] をクリックした場合は、ネットワーク上の「パスワードの保存」などの機能が使えなくなります。

重要



- ・「Windows ログオン」は LAN 接続を意味するものではありません。
- ・ Aptiva は出荷時の状態では「Windows ログオン」の画面は表示されないように設定されています。ネットワークの設定等を行うと表示されるようになります。
- ・『Product Recovery CD-ROM』はハードディスクの内容を工場出荷時の状態に戻します。自分で作成したファイル(ワープロ文書、プログラム等)は、『Product Recovery CD-ROM』を使用する前にディスクなどにコピーをしておいてください。工場出荷時の状態に戻すと、作成したファイルはすべて消えてしまいます。

参考



製品に付属の『Product Recovery CD-ROM』では Windows 98 だけの再インストールはできません。『Product Recovery CD-ROM』は Aptiva を工場出荷時の状態に戻します。

Q 11-8 「入力されたパスワードが間違っています」と表示される

原因 「Caps Lock」の状態パスワードを入力した可能性があります。

対処 文字入力モードの状態を確認し、再度、正しいパスワードを入力してください。
「Caps Lock」の状態を解除するには、**(Shift)** キーを押しながら **(Caps Lock)** キーを押します。

Q 11-9 電源を入れると、「Safe」モードで起動する

起動処理中に停電するなど、正常な動作ができませんでした。「Windows98起動メニュー」が表示された状態にしておくと、Windows 98はSafeモードで起動します。画面の配色や解像度が通常時と異なりますが、異常やトラブルではありません。

起動後、[スタート]メニューの中の「Windowsの終了」によって本体の電源を切ってください。問題がなければ、次の起動時に元の状態に戻ります。問題が解決しなかった場合は、システムが壊れている可能性があります。この場合、製品に付属の『Product Recovery CD-ROM』を使用して再インストールする必要があります。方法については『ハードディスクの内容を出荷時の状態に戻すには』(P.145)をお読みください。

重要

『Product Recovery CD-ROM』はハードディスクの内容を工場出荷時の状態に戻します。自分で作成したファイル(ワープロ文書、プログラム等)は、『Product Recovery CD-ROM』を使う前にディスクなどにコピーをしておいてください。工場出荷時の状態に戻すと、作成したファイルはすべて消えてしまいます。

参考

SCSI接続の周辺機器などを増設した場合、本体の電源を入れる前に、SCSI機器の電源を入れてください。SCSI機器の電源を入れないで本体の電源を先に入れると、Windows 98がSafeモードで起動する場合があります。

Q 11-10 Windows 98 のセットアップ中に電源を切ってしまった

対処 Windows 98 のセットアップ方法については製品に付属の『セットアップ・ガイド』をお読みください。

Windows 98 のセットアップ中に誤って電源を切ってしまった場合は、再度電源を入れた後、次の症状別に対処してください。

症状1 修復セットアップの画面が表示され、続行できる状況になった。
対処 修復セットアップは停電のときや、接続された周辺機器やオプション・カードなどを正しく検知できないで、やむを得ず電源を切った場合などに起動します。電源を入れた後に修復セットアップが起動し、セットアップが正常に終了した場合は、問題なく使用することができます。

症状2 エラーメッセージが表示され、セットアップが続行できない状態にある。
対処 セットアップの途中で電源を切った時点でハードディスク内のファイルが何らかの損傷を受けた可能性があります。この場合、製品に付属の『Product Recovery CD-ROM』を使用してWindows 98を再インストールする必要があります。方法については『ハードディスクの内容を出荷時の状態に戻すには』(P.145)をお読みください。



『Product Recovery CD-ROM』はハードディスクの内容を工場出荷時の状態に戻します。自分で作成したファイル(ワープロ文書、プログラム等)は、『Product Recovery CD-ROM』を使用する前にディスクなどにコピーをしておいてください。工場出荷時の状態に戻すと、作成したファイルはすべて消えてしまいます。

Q 11-11 Windows 98のセットアップ中にパソコンが応答しなくなった
Windows 98のセットアップには、正常に作業が終了しなかった場合を想定しいくつかの保護機能が備っています。修復セットアップは停電のときや、接続された周辺機器やオプション・カードを正しく検知できないために、やむを得ず電源を切った場合などに起動します。

対処 Aptivaが周辺機器やオプション・カードを正しく検知できないで応答しなくなった場合は、いったん電源を切ってください。再度電源を入れた後に修復セットアップを選択すると、セットアップが続行されます。



Windows 98セットアップ中は、電源を切らないでください。正常に処理は行われている場合でも、画面上は停止して見える場合があります。

Q 11-12 名前や会社名の入力を間違えた

対処 セットアップ時に「ユーザー情報」で登録した名前や会社名は、Windows 98のセットアップが終了した後では変更できません。
変更する場合は、製品に付属の『Product Recovery CD-ROM』を使用してWindows 98を再インストールする必要があります。方法については『ハードディスクの内容を出荷時の状態に戻すには』（P.145）をお読みください。



『Product Recovery CD-ROM』はハードディスクの内容を工場出荷時の状態に戻します。自分で作成したファイル（ワープロ文書、プログラム等）は、『Product Recovery CD-ROM』を使用する前にディスクなどにコピーをしておいてください。工場出荷時の状態に戻すと、作成したファイルはすべて消えてしまいます。

Q 11-13 Windows 98の再インストールについて知りたい

Windows 98を再インストールするには製品に付属の『Product Recovery CD-ROM』をご利用ください。『Product Recovery CD-ROM』を使用してWindows 98を再インストールする方法については『ハードディスクの内容を出荷時の状態に戻すには』（P.145）をお読みください。



『Product Recovery CD-ROM』はハードディスクの内容を工場出荷時の状態に戻します。自分で作成したファイル（ワープロ文書、プログラム等）は、『Product recovery CD-ROM』を使用する前にディスクなどにコピーをしておいてください。工場出荷時の状態に戻すと、作成したファイルはすべて消えてしまいます。

12. アプリケーション関連のトラブル

Q 12-1 アプリケーションをインストールできない

アプリケーションのインストール方法については、各アプリケーションに付属のマニュアルをお読みください。

原因 1 現在の環境で使用できないアプリケーションの可能性があります。

対処 アプリケーションの動作環境や必要なオプションなどを確認してください。アプリケーションによっては、お使いのAptiva環境では動作しないものがあります。詳しくは、販売店またはアプリケーションの開発元にお問い合わせください。

原因 2 MS-DOS、Windows3.1 または Windows 95 用のアプリケーションです。

対処 MS-DOS、Windows3.1 または Windows 95 用のアプリケーションには、Windows 98 にインストールできないものもあります。販売店またはアプリケーションの開発元にお問い合わせください。

Q 12-2 アプリケーションを削除したい

Aptiva 購入時にインストールされていたアプリケーションを削除する場合は「Aptiva インストーラー」を使用してください。

その他のアプリケーションを削除する場合は「スタート」「設定」「コントロールパネル」で「アプリケーションの追加と削除」アイコンをクリックします。表示されたアプリケーションの一覧から、削除したいアプリケーションを選び [追加と削除] を押してください。



Windows3.1 のアプリケーションは「アプリケーションの追加と削除」のメニューには表示されません。

Q 12-3 電源を切ると先程まで入力していた文章がなくなる

Aptivaの電源を切るとハードディスクやディスクに保存していないデータは消えてしまいます。

対処 Aptivaの作業を終了するときは、データを保存してアプリケーションを終了し、[スタート]メニューの中の「Windowsの終了」によって本体の電源を切ってください。

正しい電源のオン/オフの方法については、『Aptivaの電源を入れてみよう』(P.20) 『Aptivaの操作を終了しよう』(P.24) をお読みください。

Q 12-4 Aptivaが応答しなくなったので強制終了したい

対処 アプリケーションが応答しなくなった場合に、アプリケーションを強制的に終了するには次のように行います。

1. キーボードの(Ctrl)キーと(Alt)キーを押しながら(Delete)キーを押します。「プログラムの強制終了」ウィンドウが表示されます。
2. プログラム名の後に「応答なし」と表示されている項目を選択して、[終了]をクリックします。
3. 「プログラムの強制終了」が表示されない場合は、電源スイッチを押して電源を強制的に切り、20秒程待ってから再度電源スイッチを入れます。

重要

アプリケーションを強制終了した場合、保存していないデータは消えてしまいます。

重要

Windows 98がプログラムの処理をしているときは、一時的にキーボードまたはマウスの操作が受け付けられなくなることがあります。処理が終わるまでしばらくお待ちください。Windows 98がプログラムの処理を実行しているときは、マウスポインターが砂時計の形に変わっています。画面表示状態を確認して、むやみに強制終了しないようにしてください。

参考

キーボードまたはマウスからの入力をまったく受け付けなくなるなど、システムが明らかに停止している状態になった場合は、電源スイッチを押し、強制的に電源を切ることができます。この場合、作成中のデータは消えてしまいます。

Q 12-5 DOS ゲームの画面から抜けられない

対処 次のように入力して「Enter」キーを押してください。

```
C:¥WINDOWS>exit
```

DOS画面からWindows 98の画面に戻ります。

13. 通信機能関連のトラブル

Q 13-1 ダイアルできない

原因 1 電話回線の設定を誤っています。

対処 お使いの電話回線がトーン式（プッシュ回線）かパルス式（ダイヤル回線）かを確認してモデムの設定を変更してください。
どちらの種類の回線なのかわからない場合は、電話料金の請求書を見て確認してください。

原因 2 内線電話回線（ゼロ発信でダイヤルするタイプなど）に接続しています。

対処 本モデムは、アナログの一般公衆電話回線網に接続することを前提としていますが、ホームテレホンなどのアナログ内線電話やISDNのターミナル・アダプターを使用している場合でも、ブラインドダイヤルを設定することで、ダイヤル発信することが可能な場合があります。

モデムは、一般にダイヤル発信するときに、回線のダイヤルトーン（受話器を取ったときに聞こえる「ツ - - - 」という音）を確認してから、電話番号を発信します。「ブラインドダイヤル」を設定すると、ダイヤルトーンの有無を確認しないで、ダイヤル発信を開始します。この設定は、一般に、各アプリケーションの中にあります。



デジタルの内線などには、絶対に接続しないでください。

原因 3 モデムがアプリケーションに認識されていません。

対処 アプリケーションには、どのモデムを使用するか（または、どのCOMポートを使用するか）を設定する個所があります。COMポートの設定が一致していることを確認してください。

たとえば、Windows 98のアクセサリハイパーターミナルの場合は、「接続方法」という欄で「Rockwell HCF 56K Speakerphone PCI Modem」を選択します。

（モデル2158の場合は、「Rockwell HCF 56K Data Fax PCI Modem」と表示されています。）

Q 13-2 モデム接続できない、またはスピードが上がらない

原因 1 電話番号、ユーザーID、パスワードが違います。

対処 まず、電話番号を確認してください。相手のモデムは、アナログモデムかどうか確認してください。ISDN専用のアクセスポイントなどには接続できません。また、ユーザーIDやパスワードが違っていると、モデム接続ができません。

原因2 モデムの通信速度が回線の状況に影響されています。
 対処 モデムをなるべく高速で接続するには、クリアーな電話回線状況が必要です。そのときの回線状況（ノイズや、ひずみ、減衰など）および、相手のモデムの規格によって通信速度が変化します。回線状況は、相手のモデムまでの距離が近いほど良くなります。プロバイダーやパソコン通信のアクセスポイントが各地にある場合、なるべく近くのアクセスポイントを選択してください。

原因3 K56flexまたはV.90がサポートされていません。
 対処 K56flexまたはV.90の接続を可能にするには、相手のインターネット・サービス・プロバイダー（ISP）のモデムがK56flexまたはV.90技術をサポートしていません。K56flexを使用した接続は、プロバイダーに設置された特殊なモデムとの受信方向のデータ通信でのみ可能です。その他のモデムとの通信では、さらに低速の通信となります。たとえば、56kbpsモデムを付けたPCどうしでデータ通信しても、最高で33.6kbpsの速度になります。また、ファックスでは最高14.4kbps、一般のモデムとの接続では最高33.6kbpsの速度になります。Aptivaでは、K56flexとX2という二つの規格に対応したV.90という仕様をサポートしています。Aptivaのモデムは、Lucent Technologies社とRockwell社の提唱しているK56flexと国際標準のV.90という規格をサポートしています。

Q 13-3 「モデムを初期化できません」「モデムからの応答がありません」などのエラーが表示される

原因1 モデムがシステムから正しく認識されていない可能性があります。
 対処 「はじめようAptivaでインターネット」（オンライン）を読んで、「1. 基本的な環境設定が正しいか確認したい（トラブルの予防）」を参照して、モデムがシステムから正しく認識されているか確認します。他のリソースと競合している場合には、競合しているリソースの設定を変更してください。

原因2 モデムがアプリケーションから認識されていない可能性があります。
 対処 プロバイダーへの接続に使用する「ダイヤルアップ・ネットワーク接続」のプロパティの「接続の方法」欄で、「Rockwell HCF 56K Speakerphone PCI Modem」（内蔵モデムを使用する場合）が選択されていることを確認してください。（モデル2158の場合は、「Rockwell HCF 56K Data Fax PCI Modem」と表示されています）
 確認方法は「はじめようAptivaでインターネット」（オンライン）の「こんな時どうする」の中にある「1. 基本的な環境設定が正しいか確認したい」の「Q5. プロバイダーへの接続設定が正しいか確認したい」を参照してください。

- 原因3 モデムのドライバーが変更されています。
対処 モデムのドライバー・ファイルをアップグレード、または使用するモデムを変更しませんでしたか？ダイヤルアップ・ネットワーク接続に使用するモデム（ドライバー）を変更した場合は、接続ウィザードなどでダイヤルアップ・ネットワーク接続を新規作成してください。
- 原因4 電話番号が全角で入力されています。
対処 ダイヤルアップ・ネットワーク接続の電話番号が全角で入力されている場合は、このようなメッセージが表示され、モデムはダイヤルできません。ダイヤルアップ・ネットワーク接続のプロパティで電話番号のフィールドの文字をすべて削除し、半角で再度入力して設定を保存してください。



インターネット接続ウィザードを使用してプロバイダーへの接続の設定を行った場合：エラーメッセージが表示されます。
ダイヤルアップ・ネットワーク接続のプロパティで直接電話番号を入力した場合：エラー・メッセージは表示されませんので注意が必要です。

- Q 13-4** 「モデムが使用中」「COMポートは既に開かれています」などのメッセージが表示される
原因 モデムやシリアル・ポートを使用する（通信）ソフトウェアが動いています。
対処 （タスクバーを見て）モデムを使用していると思われるソフトウェアを終了させてください。該当すると思われるソフトウェアがない場合は、異常終了している可能性もあるため、Windows98を「電源を切れる状態にする」で一度終了させてから、再度電源を入れ直してみてください。

- Q 13-5** ダイヤルトーン（受話器を上げた時のプーっという音）が聞こえない、「発信音が聞こえませんでした」というメッセージが表示される
原因1 モデムに電話線がきちんと接続されていません。
対処1 モデムと壁面のモジュラー・ジャックが電話線で確実に接続されていることを確認してください。
対処2 ISDN回線をご利用の場合は、TAのアナログ・ポートとの接続だけではなく、NTTのモジュラー・ジャックからTAまでの接続が確実にできていることも確認してください。また、一般的にTAの電源が入っていないと、モデムは使用できません。詳しくは、DSU/TAのマニュアルを参照してください。



ISDN回線でモデムではなく、TAのデータポート(いわゆる同期64K、128Kの通信を行います)で通信をする場合は、ダイヤルトーンなどの音はしません。

- 原因2 モデムのスピーカーがオフになっています。
 対処 モデムのスピーカーの音量をあげてみて、本当に音がしていないか確認してください。
- (1)「コントロールパネル」 「モデム」から「モデムのプロパティ」を表示します。
 - (2)[プロパティ]をクリックし、「音量」をあげてみてください。音が聞こえていなくても正常に接続できている場合もありますので、インジケータで確認してください。

- 原因3 電話ケーブルが断線している、またはNTTの回線が使用不能になっています。
 対処 別の電話線 / 電話機がある場合は、接続して正常に電話できるかを確認してみてください。

- Q13-6** モデムが電話をかけていない(プルルルルという電話をしている音が聞こえない)
 症状 ダイヤルトーンが出ていない。
 対処 モデムが受話器を上げた状態までできていること(受話器をあげたときのブーっという音がする)を確認してください。

- 原因1 パルス / トーンの設定がありません。
 対処 使用している電話回線の種類と設定があっているかを確認してください。Aptivaでは初期値はトーンに設定されています。パルス回線の場合は、設定の変更が必要です。また、ISDN回線の場合にはトーンで設定してください。

- 原因2 モデムがダイヤルトーンを認識していません。
 対処 ダイヤルトーンが聞こえているのにダイヤル音が聞こえない場合は、周波数が一般電話回線と違う、またはダイヤルトーンの音量が小さすぎるなどの原因で、モデムがダイヤルトーンを認識できていない場合があります。この場合は、次の手順でダイヤルトーンが聞こえなくてもダイヤルを始める設定にしてみてください。
- (1)「コントロールパネル」 「モデム」から「モデムのプロパティ」を表示します。
 - (2)[プロパティ]をクリックし、「接続」タブをクリックします。接続オプションの「トーンを待ってからダイヤルする」のチェックを外し、[OK]をクリックして設定を保存します。

Q 13-7 正しい番号に電話がかからない

原因1 電話番号が間違っています。

対処 アクセスポイントの電話番号が正しいか確認してください。また、アクセスポイントの変更などで電話番号が変わっている場合もありますので、最新のアクセスポイントの電話番号リストを確認してください。

なお、「市外局番とダイヤルのプロパティを使う」にチェックが入っている状態で国番号が"日本"以外に設定されていると、国際電話をかける設定になってしまい、国際電話の番号が付加されてしまいます。

また、「市外局番とダイヤルのプロパティを使う」にチェックが入っていない状態では、「電話番号」に市外局番も含めた番号が設定されていないと正しい番号にダイヤルできません。

原因2 ダイヤルのプロパティが正しくありません。

対処 ダイヤルのプロパティで所在地情報が正しく設定されているか確認してください。

(1)「ダイヤルのプロパティ」を表示します。

(2)「国名 / 地域」は"日本"に設定します。「市外局番」にはお使いの電話回線の市外局番を入力します。

「市外局番とダイヤルのプロパティを使う」にチェックが入っている状態で国名が"日本"以外に設定されていると、その国から日本へ国際電話をかける設定になってしまいます。

(3)「外線発信番号」は、必要な場合のみ設定してください。不要な場合は何も入力しません。

Q 13-8 電話はかかっているが、プロバイダーのアクセスポイントが応答しない

原因1 正しい電話番号にダイヤルしていません。

対処 アクセスポイントの電話番号が正しく設定されていることを確認してください。

原因2 アクセスポイントが込み合っています。

対処 プロバイダーのアクセスポイントの回線が込み合っていて、応答していない可能性があります。[キャンセル]をクリックして、数分待ってから接続しなおしてみてください。プロバイダーのアクセスポイントがメンテナンス中などで接続できない場合もあります。また、モデムの仕様として、同じ番号へのダイヤルは、3分間に3回まで可能となっています。4回目のダイヤルは3分以内に行うことはできません。これは、モデムのリダイヤル制限機能として法規で定められています。

Q 13-9 プロバイダーへ接続したが、すぐに切断される

原因1 ユーザー名 / パスワードが間違っています。

対処 ユーザー名とパスワードは、アルファベットの大文字・小文字も合っているか、確認してください。たとえば、「APTIVA」と「aptiva」は別のユーザー名（パスワード）として認識されます。現在、入力されているユーザー名とパスワードを削除して、大文字 / 小文字も含めて正しい文字列を入力してから再度接続してください。また、一般的にプロバイダーでは間違ったパスワードを複数回入力すると、パスワードが無効（リボーク）になります。この場合は、プロバイダーに確認してください。

原因2 アクセスポイントがメンテナンス中です。

対処 プロバイダーのアクセスポイントがメンテナンス中、または障害などが起きている場合があるので、しばらく待ってから接続しなおしてみるか、またはプロバイダーに確認してください。

原因3 アクセスポイントが混雑しています。

対処 アクセスポイントにユーザーが集中して、割り当てられるIPアドレスが足りない場合は、接続できてもすぐに切断されます。しばらく待ってから、再度接続してみてください。

原因4 アクセスポイントの種類が正しくありません。

対処 プロバイダーによっては、電話回線の種類（アナログ、ISDN）によって電話番号が違う場合もあります。モデムで接続する場合は、アナログ回線接続用のアクセスポイントの電話番号を選んでください。
また、ISDN回線を使用している場合、モデムを使用して接続をする場合はアナログ回線用のアクセスポイント、TAのデータポートを使用して接続する場合はISDN対応（同期64K、128K、非同期V.110）のアクセスポイントを指定してください。詳しくは、お使いのTAのマニュアルを参照してください。

原因5 回線品質 / 環境に問題があります。

対処 アナログ回線（通常の電話回線）でインターネットに接続している場合、ノイズ（雑音）など回線状況が良くないと、相互で正しく応答を確認できないために接続できない / 突然切断される場合があります。特に、接続速度が高速になるほど回線状況の影響は大きくなります。

- (1) 回線状況は、相手のモデムの距離が近いほどよくなります。プロバイダーのアクセスポイントはなるべく近くのものを選択してください。
- (2) パソコンとNTTの壁面のモジュラー・ジャックの間は、なるべく短い電話線で接続してください。
- (3) ノイズの原因になるような機器（ラジオなど）はなるべく遠ざけてください。
- (4) タコ足配線をしないでください。また、できるだけパソコンの電源は、アースを取ってください。

もし、お使いの電話回線が、電話機で電話をしているときにも雑音や混線が発生しているような場合は、NTTに電話回線の品質をチェックしてもらうことをおすすめします。また、至近距離に放送局の電波塔など強い電波を出すような施設がある場合は、個別の対策が必要になる場合もあります。

Q 13-10 接続が突然切れてしまう

原因1 自動切断機能が設定されています。

対処 IE4.0には、一定時間キーボードやマウスの操作がされていないと、自動的に電話回線を切断する機能があります。この機能は、インターネットに接続していることを忘れてつなぎっぱなしにしてしまうのを防ぐためのものです。ただし、大きなファイルをダウンロードしているときなどに設定時間を短くしておくと、途中で接続が切れてしまう場合があるので、必要に応じてオフにしたり設定時間を長くしてください。

- (1) 「Internet Explorer」アイコンを右クリックします。
- (2) リストが表示されたら「プロパティ」をクリックします。
- (3) 「インターネットのプロパティ」が表示されたら「接続」タブをクリックします。
- (4) 「接続」欄の[設定]ボタンをクリックします。「ダイヤルアップ設定」ダイアログが表示されます。
- (5) 「切断までのアイドル時間」のチェックを外すか、または設定時間を長くします。
- (6) [OK]をクリックして終了します。

原因2 キャッチホンに加入しています。
プロバイダーへの接続に使用している回線が、NTTのキャッチホン・サービスに加入している場合は、接続中に他の電話がかかってくると切断されます。

原因3 回線品質 / 環境に問題があります。
対処 Q13-9の原因5を参照してください。

Q 13-11 接続速度が遅い、33.6Kbps以下でしか接続できない

原因1 回線品質 / 環境に問題があります。

対処 Q13-9の原因5を参照してください。

モデムを高速で接続するためには、「回線品質が良い」ことが必要です。回線品質は、ノイズなどの原因だけではなく、回線の混み具合などでも影響を受けるため、刻々と変化します。また、接続速度も、その時の状況によって変化します。

原因2 アクセスポイントがV.90またはK56flexに対応していません。

Aptivaの内蔵モデムは、V.90とK56flexという技術を使って、最高56Kbpsでの通信を可能にしています。V.90(K56flex)技術での接続を可能にするには、接続するプロバイダーのアクセスポイントが、V.90(K56flex)技術をサポートしてはなりません。V.90(K56flex)での接続は、アクセスポイントに設置されたV.90(K56flex)をサポートする特殊なモデムとのデータ通信のみ可能です。その他のモデムとの通信では、さらに低速の通信となります。たとえば、V.90(K56flex)対応のモデムを接続したPCどうしでデータ通信をしても、最高で33.6Kbpsの速度になります。もし、接続するプロバイダーのアクセスポイントが、V.90(K56flex)技術をサポートしていない場合は、自動的に最高33.6Kbpsや28.8Kbpsの規格で接続されます。V.90(K56flex)対応のアクセスポイントと通信する場合でも、V.90(K56flex)技術を使った通信は、プロバイダーからPCへの受信方向の通信(ダウンロード)に対してのみ可能です。PCからプロバイダーへの送信方向(アップロード)では、最高33.6Kbpsの通信速度になります。また、V.90(K56flex)技術での通信は、回線品質/環境により大きな影響を受けるため、必ずしも最高速度56Kbpsで接続できるわけではありません。

Q 13-12 「インターネットサイトXXXXを開けません。サーバーに接続できませんでした」というメッセージが表示されてホームページが表示されない

原因 1 入力した URL が間違えている可能性があります。

対処 URL を確認して修正し、再度 [Enter] キーを押してください。

入力した URL が間違えていない場合、表示しようとしているホームページにアクセスが集中しているために表示できなくなっている場合があります。少し時間をおいてから、再度アクセスしてみてください。

原因 2 TCP/IP の設定が正しくありません。

対処 ダイアルアップ・ネットワークの TCP/IP の設定が、プロバイダーからの指示どおりに設定されているか確認してください。

また、IBM インターネット接続（以下 IGN）をプロバイダーとして利用している場合、ダイアルアップ・ネットワークのフォルダーの中の「IBM Global Network」のプロパティの「TCP/IP 設定」で「リモートネットワークでデフォルトのゲートウェイを使う」にチェックが入っていないと、プロバイダーへ接続されても他のページを見ることができません。

Q 13-13 「NotFound」「Error404」と書かれたホームページが表示される

原因 ホームページが移転または廃止されています。

対処 インターネットの世界では、さまざまな理由で、ホームページが移転 / 廃止されることが多々あります。「NotFound」「ファイルが見つかりません」というようなメッセージが表示される場合は、ドメイン名は合っているにもかかわらず、該当するページがない場合に表示されます。

Q 13-14 電子メールが送信できない / 受信できない

原因 1 ダイアルアップ・ネットワーク接続ができていません。

対処 Outlook Express を起動せずに、メールを送受信するために使用するダイアルアップ接続で、プロバイダーへ正しく接続できることを確認してください。問題がある場合は、「はじめよう Aptiva でインターネット」(オンライン)を参照してください。

原因 2 メール・アカウントの設定が間違っています。

対処 メール・アカウントのプロパティを表示して、メールサーバー・アドレス、アカウント名、パスワードなどの設定を確認してください。特に、大文字 / 小文字が間違えていないか、半角で正しく入力されているか、余分な文字（全角の余白等）が入っていないかなどを確認してください。一度、現在設定されている文字列をすべて削除し、日本語入力かどのモードになっているかを確認してから再入力します。

メール・サーバーなどの設定はプロバイダーによって異なります。変更される場合もありますので、正しい情報はプロバイダーに確認することをおすすめします。

Q 13-15 RingCentralを留守番電話として使用しているが、うまく録音できずに10秒ほどで切れてしまう

原因 回線状態によってはRingCentralに届く音声レベルが低くなり、無音状態と認識されて、設定時間（初期値は8秒）が経過すると電話が切られてしまう場合があります。

対処 このような場合は、次の手順でRingCentralが無音と判断する音声レベルを変更してみてください。

(1) RingCentralの[メニュー]ボタンをクリックし、「設定」から「オプション」を選んでクリックします。

「メールボックス・オプション」が表示されます。

(2) 「応答」タブをクリックし、「接続オプション」の「無音の感度」の値を小さく（15%～10%位）します。（初期値は28%に設定されています）

(3) [OK]をクリックして終了します。

または、「無音の場合は接続解除」のチェックを外してください。この場合、留守番電話は相手が通話をするか、または設定された録音時間まで録音を続けます。

Q 13-16 RingCentralでファックスの受信がうまくできない

症状 1 相手のファックスと接続ができない。接続中に切られてしまう。

対処 (1) RingCentralの[メニュー]ボタンをクリックし、「設定」から「オプション」を選んでクリックします。

「メールボックス・オプション」が表示されます。

(2) 「ファックス」タブをクリックし、「ファックス最高速度」を初期設定値の14400(bps)から9600(bps)等に下げます。

(3) [OK]をクリックして終了します。

症状 2 受信したデータが正しく表示されない。

対処 (1) RingCentralの[メニュー]ボタンをクリックし、「設定」から「オプション」を選んでクリックします。

「メールボックス・オプション」が表示されます。

(2) 「ファックス」タブをクリックし、[拡張]ボタンをクリックします。

(3) 「拡張ファックス・オプション」が表示されるので、「受信用のECM(エラー訂正モード)を可能」のチェックを外します。

(4) [OK]をクリックして終了します。

Q 13-17 NTT のナンバーズ・ディスプレイが表示されない

原因 お使いの「Rockwell HCF 56K Speakerphone PCI Modem」または「Rockwell HCF 56K Data Fax PCI Modem」の現在のバージョンでは、NTT のナンバーズ・ディスプレイに対応していません。そのため、ナンバーズ・ディスプレイ契約をした回線に直接 Ativa を接続して使用することはできません。

対処 ナンバーズ・ディスプレイ用のターミナルを途中で接続して使用してください。



インターネットに関するトラブルの予防については、「はじめよう Ativa でインターネット」にも記述があります。(P.88)

14. その他のトラブル

Q 14-1 停電になった

対処 エアコン、電子レンジ、乾燥機など、家庭内にはいろいろな電気機器があり、電気の使い過ぎでブレーカーが落ちることがあります。パソコンでは電源が切れるとハードディスクやディスクに保存していないデータは消えてしまいます。万一来に備え、作業中の文章やデータはこまめに保存するようにしましょう。

Q 14-2 キーボードに飲み物をこぼしてしまった

対処

1. ぬれた手をタオルで拭きます。ぬれた手で電気機器に触れると感電する恐れがあります。
2. すぐに本体の電源を切り、電源ケーブルや AC アダプターのプラグを電源コンセントから抜きます。
3. キーボードを本体からはずし、柔らかい布などでこぼした飲み物を拭き取ります。
4. 完全に乾いたことを確認のうえ、本体に接続し、お使いください。

キーボードに不具合がある場合は、IBM サービスセンターにご相談ください。このような場合、お買い求めになった機器の保証期間内であっても修理は有償となることをご了承ください。



Aptivaでは、お客様の過失により機器が破損した場合の修理 / 交換を行う特別な保証サービス『安心パックEMS』を提供しています。詳しくは、製品に付属の『IBM サービスのご案内』をお読みください。

Q 14-3 海外で使いたい

日本国内で販売している Aptiva は日本国内仕様です。日本国内で使用してください。海外ではサポートを受けることができません。

Q 14-4 英語版の Windows 98 を使いたい

日本国内で販売している Aptiva は、日本語版 Windows 98 専用に設計されています。

Q 14-5 付属品の確認のしかた

製品に付属の『最初にお読みください』を参照して、内容を確認してください。ビニール袋などに、いくつかの付属品がひとまとめに梱包されていることがあります。付属品が不足している場合は購入元にご連絡ください。

Q 14-6 安全に使うために注意しなければならないこと
製品に付属の『セットアップ・ガイド』の『安全に正しくお使いいただくために』をお読みください。

Q 14-7 Aptivaはどのように配置すればよいのか
機器の配置については、製品に付属の『セットアップ・ガイド』の『快適にコンピューターを使用するために』をお読みください。

Q 14-8 付属品の接続方法が分からない
製品に付属の『セットアップ・ガイド』に従って、組み立てを行ってください。

Q 14-9 付属のマニュアルをなくしてしまった
IBM マニュアルのご注文は、製品に付属の『IBM サービスのご案内』をお読みください。なお、インターネットのIBM ホームページから弊社発行のマニュアルの検索をすることができます。
URL は、<http://www.ibm.co.jp/manuals/> です。
なお、再購入できないマニュアルもありますので、マニュアルは大切に保管してください。

Q 14-10 『アプリケーション CD』を傷つけたので交換してほしい
IBM FAXサービス(044-200-8600)から申し込み用紙を取り寄せてください。
なお、紛失された場合は交換できません。

IBM FAX サービスについて詳しくは、製品に付属の『IBM サービスのご案内』をお読みください。
この件に関しては、次に示すコード番号をご利用ください。
440274 『バックアップCDおよびRecovery CD有償交換お申込みガイド』

Q 14-11 『リカバリー CD』を傷つけたので交換してほしい
IBM FAXサービス(044-200-8600)から申し込み用紙を取り寄せてください。
なお、紛失された場合は交換できません。

IBM FAX サービスについては、製品に付属の『IBM サービスのご案内』をお読みください。
この件に関しては、次に示すコード番号をご利用ください。
440274 『バックアップCDおよびRecovery CD有償交換お申込みガイド』

Q 14-12 使用している Aptiva のお客様登録（ユーザー登録）の住所変更をしたいお客様が住所など登録内容を変更する場合は、次の宛先まで「お客様番号」を明記のうえ、葉書でご連絡ください。

〒106-8711 東京都港区六本木 3-2-12
日本アイ・ビー・エム（株）登録変更 係

下記のホームページでも登録内容を受け付けていますのでご利用ください。
<http://www.ibm.co.jp/pc/ibmjreg/reg.html>

トラブルが解決しないときは

トラブル・チェックシートは、トラブルが発生し、弊社電話サポート窓口にご連絡いただく場合にご活用ください。

トラブル・チェックシートについて

こういうときは、電話サポート窓口にご電話をするのははじめてという場合は、巻末の『トラブル・チェックシート』をご活用ください。

トラブルの内容を窓口の担当者に確実に、より早く伝えたい、また、トラブルが発生する前に、皆様が行ったことをチェックシートを使って思い出してください。

- ・新しいアプリケーションをインストールした
- ・新しいハードウェアを取り付けた
- ・機器やアプリケーションの設定を変更した
- ・何かファイルを消してしまった
- ・停電になった

・インターネットや電子メールで見知らぬ人からファイルを受け取った
など、いずれもよく耳にするトラブルの原因です。自分では何もしていないと思ってい
ても、それに気づかずに行っていることがあります。落ち着いて思い出してみましょう。

サポート体制について

IBMでは、お客様が弊社のパソコンを購入になった後も、より快適にご利用いただくために、常に充実したサービスでお役に立ちたいと考えています。

お客様からの「パソコンの操作に困った」「セミナーを受講したい」「ソフトウェアやハードウェアのインストールまたは設定をして欲しい」「インターネットにアクセスしたい」などのご要望に対して、さまざまなサービスメニューをご用意しています。

IBMの各種サービスの内容については、製品に付属の『IBMサービスのご案内』をお読みください。

付 録



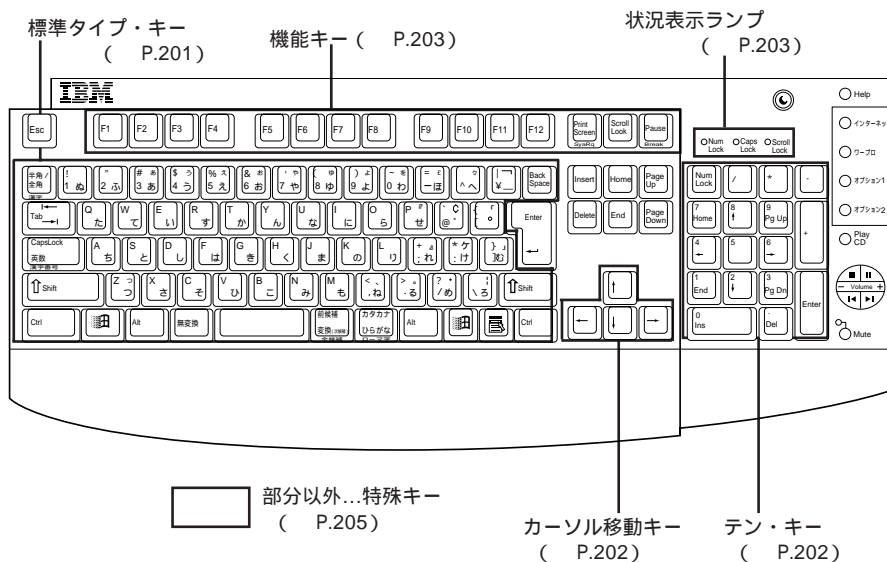
キーボードのキーの名前と使い方

ここでは、キーボードのキーの名前と使い方全般について説明します。

キーボードの構成

Aptiva のキーボードのキー配列は次のようになっています。

109 日本語キーボード



重要

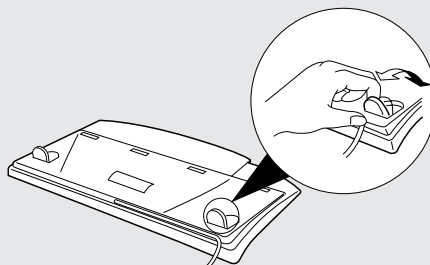


- ・水や薬品などでぬらさないでください。
- ・キーのすき間にホチキスの針、クリップ、食べ物や消しゴムのくずなどを入れないでください。
- ・重いものを載せないでください。

参考



キーボードの傾きを調節するには
キーボードの裏側には、キーボードの傾きを調節する脚が付いています。完全に開くと軽く音がします。



各キーのおもな機能を説明します。

重要



キーは、ソフトウェアによって異なる意味をもつ場合があります。

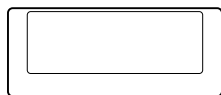
標準タイプ・キー

文字、数字、記号、句読点、スペースなどを入力するためのキーをまとめて標準タイプ・キーと呼びます。



文字キー： アルファベット、ひらがな、カタカナ、漢字、数字、記号、句読点を入力する

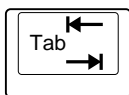
DOS/Vなどオペレーティング・システムを始動した直後はアルファベットの小文字、数字が入力されます。



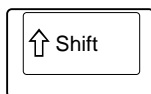
スペース・キー： スペース（空白）を入力する



[半角 / 全角]キー： 文字やスペースの大きさ（幅）を切り替える
全角は半角の2倍の幅です。



タブ・キー： タブを入力する
カーソルの位置を一定の幅進めます。



シフト・キー： キー表面の上段の文字を入力する
アルファベットの大文字や数字キーの上の記号(! など)を入力したいときは、このキーを押しながらその文字キーを押します。左右に1つずつあります。



キャップス・ロック・キー / 英数キー：
(Shift)キーを押しながら (Caps Lock)キーを押すとキャップス・ロック・ランプ(P.203)が点灯してアルファベットを大文字で入力する状態になります。元に戻すときは、再度、(Shift)キーを押しながら (Caps Lock)キーを押します。



- ・標準タイプ・キーのほとんどは、押し続けると入力を繰り返す連続作動キーです。つまり A を押し続けると、aaaaaaaa... と入力されます。
- ・インターネットの URL で見られる “ ” (チルダ) は、MS-IME98 日本語入力システムを使用している場合は、MS-IME の入力モードを「半角英数」または「直接入力」に変更した後、(Shift)キーを押しながら () キーを押してください。

テン・キー

数字、演算記号を入力する

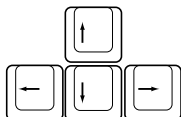
数字キー、演算記号を一個所にまとめたもので、計算式などを入力するときに使用します。



- ・(Num Lock) キーについては、「状況表示ランプ」(P.203) を参照してください。
- ・テン・キーを用いて数字や演算記号を入力するときは、テン・キー上部の (Num Lock) キーと連動した Num Lock 表示ランプが点灯していることを確認してください。

カーソル移動キー

文字の入力位置や注目点を示すマーク(カーソルという)を移動させる



標準タイプ・キーと同じく、カーソル移動キーも連続作動キーです。

機能キー（ファンクション・キー）

使用中のソフトウェアに何か仕事をさせたり、命令を伝えたりする



このキーの働きは各ソフトウェアによって決められています。

ソフトウェアの機能のなかでもよく使われるものは、このキーに割り当てられています。たとえば、ソフトウェアによっては(F1)キーを押すとヘルプ情報が画面に表示されます。



ヘルプ情報とは、実行中のソフトウェアが独自に用意した、ユーザーを助けるための情報です。

通常、用語解説、ソフトウェアの操作方法などが画面に表示されます。

状況表示ランプ

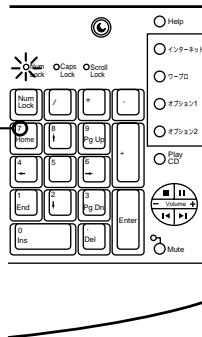
Num Lock（ナム・ロック）ランプ

テン・キー部分の (Num Lock) キーと連動して、次の意味を表します。

（Num Lock がかった状態）

Num Lock ランプ
点灯

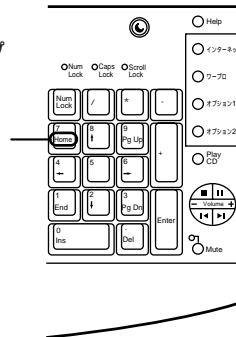
キーの上段に
書かれている
文字が有効
（各キーの意味
は後述）



（Num Lock がはずれた状態）

Num Lock ランプ
消灯

キーの下段に
書かれている
文字が有効
（各キーの意味
は後述）



Caps Lock（キャプス・ロック）ランプ

(Shift) キーを押しながら(Caps Lock) キーを押すとキャプス・ロック・ランプが点灯して、アルファベットを大文字で入力する状態になります。このランプが点灯しているときは、アルファベットを入力すると大文字で表示されます。(大文字ばかりの文章をタイプするときなどに便利です。)

Scroll Lock (スクロール・ロック) ランプ

Shift キーを押しながら **Scroll Lock** キーを押すとスクロール・ロック・ランプが点灯します。

このランプが点灯している状態では、カーソル移動キーの働きが、画面スクロール(画面全体が上下あるいは左右へ移動し、それまで表示されていなかった部分が表示されること)の働きに変わります。この機能は、オペレーティング・システムやアプリケーションが対応している場合に限り有効です。

参考



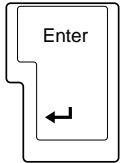





2つのキーの名前の間にプラス(+)記号がある場合は、最初のキーを押したまま、2番目のキーを押して離します。その後、最初のキーを離します。

3つのキーの名前から成る文字列でそれぞれのキー名の上にプラス記号がある場合は、最初の2つのキーを押したまま、3番目のキーを押してから離してください。









特殊キー

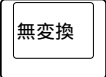
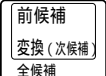
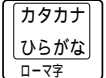


特殊な処理を効果的に行う

特殊キーの働きは、厳密に言えば各ソフトウェアによって決まりますが、ここでは代表的な用法の例を示します。

キーの種類	呼びかた	主な役割
 (改行)	エンター・キー	<ul style="list-style-type: none"> 改行する 現在の画面に表示されているメッセージを理解して、次の画面に移りたいときに押す 機能を選択するためのメニューが表示されているときに、現在の注目点(反転表示などしている部分)の機能を実行したいときに押す
 (Esc)	エスケープ・キー	<ul style="list-style-type: none"> 現在の画面(機能)を取り消して、1つ前の画面に戻りたいときに押す 画面の表示を消すときに押す
 (後退)	バック・スペース・キー	カーソル位置を1つ戻す(その位置にあった文字は消える)
 (Ins) (挿入)	インサート・キー	挿入と置換を切り替える カーソル位置に何か文字や記号を挿入したいときは「挿入」に、表示されている文字を消しながら進みたいときは「置換」にします。
 (Del) (削除)	デリート・キー	カーソル位置の文字を削除する
 (Home)	ホーム・キー	カーソル位置を画面のホーム・ポジション(通常、左上隅または現在行の左端)に戻す

キーボードのキーの名前と使い方

キーの種類	呼びかた	主な役割
 End	エンド・キー	カーソル位置を現在行の最後尾の文字に移す
 Page Up (PgUp) (前ページ)	ページ・アップ・キー	画面の表示内容を、前のページに戻す
 Page Down (PgDn) (次ページ)	ページ・ダウン・キー	画面の表示内容を、次のページに進める
 Print Screen SysRq (ページ印刷)	プリント・スクリーン・キー	画面印刷をする
 Scroll Lock	スクロール・ロック・キー	状況表示ランプの項 (P.203)
 Pause Break	ポーズ・キー	画面上で行われている処理を一時的に停止する たとえば、ファイルの内容が画面上でスクロールされているときにこのキーを押すと、他のキーを押すまで停止します。
 Ctrl	コントロール・キー	他のキーと組み合わせて使われることが多いキーです。
 Alt (前面キー)	オルト・キー	キーによっては、キーの前面部分(上部ではなく)に緑色で文字が書かれています。そちらの機能を働かせたい場合は、このキーを押しながら各キーを押します。日本語入力モードにするときは、このキーを押しながら緑色で漢字と書かれたキー(上面は、半角/全角)を押します。

キーの種類	呼びかた	主な役割
	無変換キー	漢字の入力、カタカナとひらがなの切り替えに使う
	変換キー	
	カタカナひらがな・キー	
	Windowsキー	Windows 98のデスクトップ左下の「スタート・メニュー」を起動するマウスで[スタート]ボタンをクリックするのと同じ働きをします。
	アプリケーション・キー	デスクトップ上でオブジェクトを選択し、このキーを押すと、そのオブジェクトに対して可能な操作メニューが表示されるマウスの右ボタンと同じ働きをします。

組み合わせキー

2つ以上の特殊キーを同時に使用して、特定の機能を実行することができます。組み合わせキーの用法は、特殊キーと同じく、ソフトウェアによって決まります。

例

[Ctrl] + [Alt] + [Delete]

([Ctrl] と [Alt] を押しながら、[Delete] を押す)

現在使用中のアプリケーションが何らかの理由によって動作しなくなったときなど、強制的にシステムを最初の始動からし直す(リセットする)ときに使用します。

非常手段ですので、やむを得ない場合のみ、使用してください。

重要



この機能を作動させると、電源をオフにしたときと同じようにメモリーの内容はすべて消えてしまいます。システムに異常がないときにこの機能を使用する場合は、作成中のデータを保管し、使用中のアプリケーションなどはきちんと終了させてください。

ローマ字とかな対応表

ローマ字					ひらがな				
a	i	u	e	o	あ	い	う	え	お
	yi	wu				い	う		
		whu					う		
ka	ki	ku	ke	ko	か	き	く	け	こ
ca		cu		co	か		く		こ
		qu					く		
sa	si	su	se	so	さ	し	す	せ	そ
	ci		ce			し		せ	
	shi					し			
ta	ti	tu	te	to	た	ち	つ	て	と
	chi	tsu				ち	つ		
na	ni	nu	ne	no	な	に	ぬ	ね	の
ha	hi	hu	he	ho	は	ひ	ふ	へ	ほ
		fu					ふ		
ma	mi	mu	me	mo	ま	み	む	め	も
ya		yu		yo	や		ゆ		よ
ra	ri	ru	re	ro	ら	り	る	れ	ろ
wa			wo		わ				を
n					ん				
nn					ん				
n'					ん				
xn					ん				
ga	gi	gu	ge	go	が	ぎ	ぐ	げ	ご
za	zi	zu	ze	zo	ざ	じ	ず	ぜ	ぞ
	ji					じ			
da	di	du	de	do	だ	ぢ	づ	で	ど
ba	bi	bu	be	bo	ば	び	ぶ	べ	ぼ
pa	pi	pu	pe	po	ぱ	ぴ	ぷ	ぺ	ぽ
kya	kyi	kyu	kye	kyo	きゃ	きい	きゅ	きえ	きょ
syia	syi	syu	syie	syio	しや	しい	しゅ	しえ	しよ
sha		shu	she	sho	しゃ		しゅ	しえ	しよ
tya	tyi	tyu	tye	tyo	ちや	ちい	ちゅ	ちえ	ちよ
cha		chu	che	hco	ちや		ちゅ	ちえ	ちよ
cya	cyi	cyu	cye	cyo	ちや	ちい	ちゅ	ちえ	ちよ
nya	nyi	nyu	nye	nyo	にや	にい	にゅ	にえ	によ
hya	hyi	hyu	hye	hyo	ひや	ひい	ひゅ	ひえ	ひよ
mya	myi	myu	mye	myo	みや	みい	みゅ	みえ	みよ
rya	ryi	ryu	rye	ryo	りや	りい	りゅ	りえ	りよ
gya	gyi	gyu	gye	gyo	ぎや	ぎい	ぎゅ	ぎえ	ぎよ
zya	zyi	zyu	zye	zyo	じや	じい	じゅ	じえ	じよ
ja		ju	je	jo	じゃ		じゅ	じえ	じよ
jya	jyi	jyu	jye	jyo	じゃ	じい	じゅ	じえ	じよ
dya	dyi	dyu	dye	dyo	ぢや	ぢい	ぢゅ	ぢえ	ぢよ
bya	byi	byu	bye	byo	びや	びい	びゅ	びえ	びよ
pya	pyi	pyu	pye	pyo	ぴや	ぴい	ぴゅ	ぴえ	ぴよ
gwa	gwi	gwu	gwe	gwo	ぐわ	ぐい	ぐう	ぐえ	ぐお
qwa	qwi	qwu	qwe	qwo	くわ	くい	くう	くえ	くお
qa	qi		qe	qo	くわ	くい		くえ	くお
	qyi		qye			くい		くえ	
fwa	fwi	fwy	fwe	fwo	ふあ	ふい	ふう	ふえ	ふお
fa	fi		fe	fo	ふあ	ふい		ふえ	ふお
	fyi		fye			ふい		ふえ	
tsa	tsi		tse	tso	つあ	つい		つえ	つお

	ye			いえ					
wha	whi	whe	who	うあ	うい	うえ	うお		
	wi			うい					
	we			うえ					
qya		qyu		qyo	くや	くゆ	くよ		
swa	swi	swu	swe	swo	すあ	すい	すう	すえ	すお
tha	thi	thu	the	tho	てや	てい	てゆ	てえ	てよ
twa	twi	twu	twe	two	とあ	とい	とう	とえ	とお
dha	dhi	dhu	dhe	dho	でや	でい	でゆ	でえ	でよ
dwa	dwi	dwu	dwe	dwo	どあ	どい	どう	どえ	どお
fya		fyu		fyo	ふや	ふゆ	ふよ		
va	vi	vu	ve	vo	ヴあ	ヴい	ヴ	ヴえ	ヴお
vya	vyi	vyu	vye	vyo	ヴや	ヴい	ヴゆ	ヴえ	ヴよ
la	li	lu	le	lo	あ	い	う	え	お
xa	xi	xu	xe	xo	あ	い	う	え	お
	lyi			い					
	lye			え					
	xyi			い					
	xye			え					
lya		lyu		lyo	や	ゆ	よ		
xya		xyu		xyo	や	ゆ	よ		
	ltu			っ					
	xtu			っ					
	ltsu			っ					
lwa	わ								
xwa	わ								

注

っ : n 以外の子音の連続も可

例 : itta いった

ん : 子音の前のみ n。母音の前は nn または n'。

例 : kanni かんい

例 : kani かに

ヴ : ひらがなはありません。

索引

日本語、英字、数字、特殊文字の順に配列されています。

なお、濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

ア

アイコン 22, 54
アクセスポイント 88, 188
アドレス 108
アナログ 82, 84
あぶていばらんど 110
アプリケーション 16, 56, 148, 149
 ~のトラブル 182
アプリケーション・キー 31, 207
アンインストール 149
アンチウイルス・プログラム 159
移動(ファイル) 65, 67
インサート・キー 205
インストール 17, 148
インターネット 85
 ~に接続する 103
 ~につなぐ準備 90
 ~の疑似体験 88
 ~を終了する 105
 ~を楽しむ 107
インターネット・サービス・プロバイダ 88
ウィルス 158
ウィンドウ 54
英数キー 202
エスケープ・キー 205
エンター・キー 205
エンド・キー 206
応答メッセージ 133

お気に入り 112
お客様登録 138
送る(電子メール) 113
オプション・カードのトラブル 175
オペレーティング・システム 16
オルト・キー 206
音声入力
 インストール(VoiceATOK) 49
 オン/オフを切り替える 51
 準備をする 50
 ダイレクトモード 52
 入力モードを切り替える 51
 始めて使う場合 52
 標準モード 52
 マイクのセットアップ 52
 ViaVoice モード 52
オンライン登録 90, 138

カ

解約(アカウント) 95
カーソル移動キー 202
書き込み禁止スイッチ 73
カタカナ入力 40
カタカナひらがな・キー 207
かな対応表 208
かな入力方式 45
漢字入力 39
感染(ウィルス) 159
キーの名前と使い方 200
キー配列 200
キーボード 19, 31
 ~で文字を入力する 34
 ~のキーの使い方 200
 ~のキーの名前 200
 ~の構成 200

 ~のトラブル 165
記号の入力 43
起動時 162
機能キー 203
キャップス・ロック・キー 202
キャップスロック・ランプ 203
クイック・ファックス 123
句読点の入力 43
組み合わせキー 207
クリック 29
検索サービス 111
検索(ファイル) 61
コピー(ファイル) 65, 66
コントロール・キー 206
コンピューター・ウィルス 158

サ

サービスセンター 157
再インストール 145
最小化ボタン 55
最大化ボタン 55
サポート体制 198
システムの設定 147
始動時のトラブル 162
始動する 22
シフト・キー 202
修正プログラム 150
重大なトラブル 157
周辺機器のトラブル 175
終了時のトラブル 162
受信トレイ 116
手動受信 125
ショートカット 71
状況表示ランプ 203
商標 12

情報処理振興事業協会 159

初期化 75, 145, 147

シリアル・ポート 151

事例紹介(トラブル)

アプリケーション 182

オプション・カード 175

キーボード 165

起動時 162

周辺機器 175

終了時 162

スピーカー 168

通信機能 184

ディスクет 172

ディスプレイ 164

ハードディスク 173

プリンター 174

フロッピーディスク 172

マウス 167

CD-ROM 170

Windows 98 177

信号 151

侵入(ウィルス) 158

スクロールポイント・マウス 30

スクロール・ボタン 55

スクロール・ロック・キー 206

スクロール・ロック・ランプ 204

スタート・ボタン 54, 56

スタンバイ・ボタン 33

スピーカー 19

~のトラブル 168

スペース・キー 201

接続を終了する(インターネット) 105

セットアップ・ユーティリティー 147

操作ボタン 33

送受信(電子メール) 115

送信シート(ファックス) 123

ソフトウェア 16

タ

ターミナル・アダプター 84

タイトルバー 55

ダイヤルアップ接続 88

ダイヤル回線 82

タスクバー 54

ダブルクリック 29

タブ・キー 202

チャンネルバー 55

ツールバー 34

通信機能 82

~のトラブル 184

データベース検索 86

ディスクет 73

~の種類 74

~のトラブル 172

~を入れる 74

~を取り出す 75

~をフォーマットする 76

ディスクет・ドライブ 19, 74

ディスプレイ 19

~のトラブル 164

デジタル 82, 84

デスクトップ 54, 56

デリート・キー 205

電源

~を入れる 20

~を切る 24

電子メール 87, 96, 113, 192

新規~ 113

~を送る 113

~を設定する 96

~を送受信する 115

~を読む 116

電話 117

セットアップ 117

留守番電話 133

~を受ける 132

~をかける 131

電話回線 82, 88, 184

テン・キー 202

トーン回線 82

導入 17, 148

特殊キー 205

特殊文字の入力 44

閉じるボタン 55

特記事項 12

ドライブ 19

ドラッグ&ドロップ 30

トラブル

アプリケーション 182

ウィルス検査 159

オプション・カード 175

解決しないとき 198

キーボード 165

起動時 162

重大なトラブル 157

周辺機器 175

終了時 162

情報処理振興事業協会 159

事例紹介 161

スピーカー 168

通信機能 184

ディスクет 172

ディスプレイ 164

トラブル一覧 154

トラブルシューティング 160

トラブルの予防 158

ハードディスク 173

プリンター 174

フロッピーディスク 172

ヘルプ 160

マウス 167

CD-ROM 170

IPA 159
Q&A 161
Windows 98 177
トラブル一覧(故障) 154
トラブルシューティング 160
トラブルの予防 158
トラブル・チェックシート 198, 211

ナ

ナムロック・ランプ 203
日本語キーボード 31, 200
日本語入力システム 34
日本語入力モード 34
ニュース・グループ 87
入力
カタカナ 40
かな～ 45
漢字 39
記号 43
声で～ 49
基本 34
句読点 43
特殊文字 44
ひらがな 36
ヘルプ 47
ローマ字～ 36
～の方法がわからない 47
～モードを切り替える 35, 41
入力方式 36
ネットサーフィン 86
ネットサーフィン疑似体験 88
ネットニュース 87

ハ

ハードウェア 16
ハードディスク 19, 145, 173
～のトラブル 173

～の内容を出荷時の状態に戻す
145

ハードディスク・アクセスランプ 27
はじめに 3
パスワード 90
パソコン通信 85
バックアップ 67, 158
バック・スペース・キー 205
パルス回線 82
半角/全角キー 201
被害届(ウィルス) 159
表記方法 10
表現方法 11
標準タイプ・キー 201
ひらがな入力 36
ピン番号 151
ファイル 58
～の検索 61
～のバックアップ 67
～の保存場所がわからない 69
～を移動する 65, 67
～をコピーする 65, 66
～を保存する 63
ファイル転送 87
ファクシミリ 117
ファックス 117, 193
セットアップ 117
～を受信する 125
～を送信する 123
～を表示する 129
ファックス送信シート 123
ファックス・エディター 129
ファックス・サービス 125
ファンクション・キー 203
フィックスバック・ライブラリー 150
フォーマット 75, 76
フォルダー 58

自分専用の～ 60
～を作る 60

復元 145
ブッシュホン回線 82
ブラウザ 88
ブラインストール 17
プリンター 142
～のトラブル 174
プリンター・ドライバ 142
プリント・スクリーン・キー 206
フロッピーディスク 73, 172
プロバイダー 88, 90, 188
ページ・アップ・キー 206
ページ・ダウン・キー 206
ヘルプ
トラブルシューティング 160
文字入力 47
RingCentral 136
ヘルプ・ボタン 33
変換キー 207
ボリューム・ボタン 33
ポーズ・キー 206
ホームテレホン 84
ホームページ
日本アイ・ピー・エム 110
Aptiva 110
～の公開 86
ホーム・キー 205
訪問サービス 2
保存場所(ファイル) 69
本書でのきまり 10

マ

マイク 19
マウス 19
クリック 29
ダブルクリック 29

ドラッグ&ドロップ 30
右クリック 29
~の使い方 28
~のトラブル 167
マウス・スティック 30
マウス・ポインター 28
右クリック 29
ミュート・ボタン 33
ミュート・ランプ 33
無変換キー 207
メール・アカウント 97
メニューバー 55
メモリー 19
文字キー 201
モデム 84, 184

ヤ

ユーザー登録 90, 138
ユーザーID 90

ラ

ラビッドアクセス・ボタン 32
スタンバイ・ボタン 33
操作ボタン 33
ヘルツ・ボタン 33
ボリューム・ボタン 33
ミュート・ボタン 33
ミュート・ランプ 33
CDボタン 33
リカバリーCD 145
リセットする 26
リセットできない 27
リングセントラル 117
留守番電話
 応答メッセージの設定 133
 ~にセットする 135
 ~のメッセージを聞く 135

~を使う 133
ローマ字対応表 208

ワ

ワードパッド
 ~を起動する 36
 ~を終了する 46
ワープロ 15

A

Application CD-ROM 148
Aptiva
 ホームページ 110
 ~の操作を終了する 24
 ~の電源を入れる 20
 ~の電源を切る 24
 ~を起動する 22
 ~をリセットする 26
Aptiva インストーラー 148, 149
Aptiva 本体 18

B

BCC 114
BIOS 147

C

Caps Lock キー 203
Caps Lock ランプ 203
CC 114
CDボタン 33
CD-ROM
 ~のトラブル 170
 ~をセットする 78
 ~を取り出す 79
CD-ROM ドライブ 18, 78
CPU 19

D

DOS/V 15

E

E-mail 87, 96, 113

F

FTP 87

I

IBM
 インターネット接続サービス 88, 90
 サービスセンター 157
 ネットパスポート 88
 ホームページ 110
 ~のプロバイダー 90
FAXサービス 125
PC 15
 PCハウス・コール訪問サービス 2
Internet Explorer 88, 103, 107
 ツールボタン 108

IPA 159

ISDN 84, 186

ISP 88, 185

M

Macintosh 15
MS-IME 98 34

N

NEC PC-98 15
Netscape Navigator 88
Num Lock キー 203
Num Lock ランプ 203

O

OS 16

Outlook Express 96, 113

P

PBX 84

PC ハウス・コール訪問サービス 2

Product Recovery CD-ROM 145

Q

Q & A 161

R

RingCentral 117, 193

セットアップ 117

電話を受ける 132

電話をかける 131

ファックス受信 125

ファックス送信 123

ファックスを表示する 129

ファックス・エディター 129

ヘルプ 136

留守番電話 133

S

Scroll Lock キー 204

Scroll Lock ランプ 204

Software Library CD-ROM 149

T

TA 84, 186

TCP/IP 192

U

URL 86, 109

V

ViaVoice モード 52

VoiceATOK 49

W

Windows キー 31, 207

Windows 98 54, 177

アイコン 54

ウィンドウ 54

最小化ボタン 55

最大化ボタン 55

スクロール・ボタン 55

スタート・ボタン 54

タイトルバー 55

タスクバー 54

チャンネルバー 55

デスクトップ 54

閉じるボタン 55

メニューバー 55

~の画面 54

~のトラブル 177

WWW 86

WWW ブラウザー 88

Y

Yahoo! 111

数字

109日本語キーボード 31, 200

9ピン・シリアル・ポート 151

トラブル・チェックシート(1/2)

問題の内容

どのような現象ですか？

その現象は何をした後発生するようになりましたか？

ハードウェアの取り付け、または取り外し

ソフトウェアのインストール

その他：

その時どんなエラーが表示されますか？

エラーコード：

エラーメッセージ：

それはどれくらいの頻度ですか？

1度発生したがその後発生しない

電源を切らないと発生するが電源を切って再起動すれば発生しない

電源を切ってから再起動しても必ず発生する

その他：

その現象が発生するのは決まった操作ですか？

ある一定の操作をすると発生する

どんな操作をしても発生する

操作例：

トラブル・チェックシート(2/2)

お客様の Aptiva 環境

本体

モデル名 / 製造番号 (S/N) 等は保証書で確認してください。

モデル名 (例 : 2158-Exx):

製造番号 (S/N):

搭載メモリー総量 :

MB

ディスプレイ

モデル名 / 製造番号 (S/N) 等は保証書で確認してください。

モデル名 (例 : 2127-004):

製造番号 (S/N):

画面のサイズ :

インチ

周辺機器 / オプション (増設機器)

製品名・製造元を記入してください。

プリンター :

オプション・メモリー :

MB

オプション・ハードディスク :

GB 個

オプション・カード名 :

その他のオプション :

ソフトウェア環境

Windows 98 名はプリインストールで提供されているものは「プリインストール」と記入してください。

使用している Windows 98 名 / バージョン :

追加ソフトウェア名 / バージョン :

その他

プロダクト ID :

メモ :